

2026 年度

看護学研究科履修要項



静岡県立大学大学院

目次

I. 博士前期課程

1. 教育理念.....	1
2. 学位授与方針、教育方針、入学時に期待する学生像.....	1
3. 博士前期課程スケジュール.....	2
4. 教育課程.....	4
授業科目・開講年次・単位数一覧.....	4
教育の方法、授業科目.....	6
教育課程の構造.....	6
授業科目の構成.....	7
履修モデル例.....	8
5. 履修方法.....	11
6. 講義概要.....	15
7. 関連規程.....	98
8. 申請等書類.....	105
9. 研究計画書および修士論文作成要領.....	113

II. 博士後期課程

1. 教育理念.....	117
2. 学位授与方針、教育方針、入学時に期待する学生像.....	117
3. 博士後期課程スケジュール.....	119
4. 教育課程.....	121
授業科目・開講年次・単位数一覧.....	121
教育の方法、授業科目.....	122
教育課程の構造.....	122
授業科目の構成.....	123
履修モデル例.....	124
5. 履修方法.....	125
6. 講義概要.....	129
7. 関連規程.....	155
8. 申請等書類.....	163
9. 研究計画書および博士論文作成要領.....	176

I. 博士前期課程

1. 教育理念

静岡県立大学大学院看護学研究科においては、いかなる状況下においても、自己の人間性を基盤に習得した専門的知識を活用し、最適な看護サービスが提供でき、看護関係職の良きリーダーとなる人材の育成を目指している。生命関連領域の諸科学と連携し、見識のある高度な専門職能を有する人材かつ看護科学の教育・研究及び実践活動を担う人材を養成し、人々の健康増進を図り、豊かな国際社会の構築に寄与する。

2. 学位授与方針、教育方針、入学時に期待する学生像

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本研究科博士前期課程では所定の単位を修め、修士論文および最終試験に合格したことにより、以下の能力が認められたものとして修士（看護学）の学位を授与する。

1. 看護の専門分野における優れた研究能力と専門性を修得し、その分野におけるリーダーシップを発揮することが期待できる。
2. 実践看護分野において、専門的で高度な実践能力および指導力を有する。
3. 看護・保健・医療・福祉の場における課題に関して主体的に取り組むことができる。
4. 健全な研究倫理を身につけ、様々な領域において活躍が期待できる。

教育方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科博士前期課程では、学位授与の方針に揚げる能力の獲得を達成するために、以下のカリキュラム・ポリシーに基づき科目を編成する。

1. 研究能力と専門性を修得するため、看護の専門分野における理論と知識の基礎を学び、健康課題とその解決に向けて、看護研究を計画・実施できる教育課程を編成する。
2. 専門的で高度な実践能力を修得し、リーダーシップを発揮するために、各領域に特論、演習等を配置し、看護・保健・医療・福祉のニーズに取り組む基盤形成となる教育を行う。
3. 研究活動を通じて様々な領域における活躍を目指すために、各領域に研究科目を配置し、課題解決に向けた研究プロセスを修得できる教育課程を編成する。

入学時に期待する学生像（アドミッション・ポリシー）

本研究科博士前期課程では、看護サービスの質向上を目指して実践看護分野においてリーダーとなる人、看護・保健・医療・福祉の場における教育や研究課題に取り組む意思を有する人を求める。

1. 看護学および看護実践への強い関心を有し、さらなる専門性を磨こうとする意思を有している。
2. 看護・保健・医療・福祉分野の基礎的な知識・技術を有し、より深めようとする意思を有している。
3. 看護実践で生じる様々な課題の解決により貢献しようとする強い意思を有している。

3. 博士前期課程スケジュール

2026 年度 入学生

年 次	月 日	事 項
1 年次	4 月 初 旬	新入生ガイダンス
	4 月 初 旬	入学式
	4 月 初 旬	前期授業開始
	4 月 下旬まで	前期履修登録
	7 月 下 旬	研究計画書提出受付開始
	10 月 初 旬	後期授業開始
	10 月 中旬まで	後期履修登録
	3 月 下 旬 5 月 下 旬 *	研究計画書提出締め切り
2 年次	4 月 初 旬	在学生ガイダンス
	4 月 初 旬	前期授業開始
	4 月 下旬まで	前期履修登録
	10 月 初 旬	後期授業開始
	10 月 中旬まで	後期履修登録
	1 月 中 旬	修士論文提出締め切り
	1 月 中 旬	論文審査・最終試験
	2 月 中 旬	最終論文提出締め切り
	3 月 初 旬	修士論文発表会
	3 月 中 旬	学位記授与式

*印：助産学課程の院生（助産師国家試験受験資格を得ようとする者）のみ該当

その他予定は、年間授業予定表参照のこと。

書類等の提出物の提出先および締め切りは、小鹿キャンパス学生室・17時とする。

博士前期課程 論文作成スケジュールのモデル

時期		博士前期課程	助産学課程
1 年 次	前期	4月	研究課題の検討、研究計画立案
		5月	
		6月	
		7月	研究計画書作成
		8月	
		9月	副指導教員の希望申請(様式修第1号提出)
	後期	10月	
		11月	
		12月	研究計画書審査申請 (研究計画書・様式修第4号提出)
		1月	研究計画書審査
		2月	研究計画書審査合格後、倫理審査申請
		3月	倫理審査承認後、研究遂行
2 年 次	前期	4月	
		5月	研究計画書審査申請 (研究計画書・様式修第4号提出)
		6月	研究計画書審査
		7月	研究計画書審査合格後、倫理審査申請
		8月	倫理審査承認後、研究遂行
		9月	
	後期	10月	中間発表
		11月	
		12月	中間発表
		1月	修士論文審査申請 (修士論文・要旨・様式修第6号提出) 論文審査・最終試験
		2月	最終論文提出
		3月	修士論文発表会 修了

*前ページの博士前期課程スケジュールを目安とする進め方であり、長期履修者はこの限りではない。

教育課程／履修方法

4. 教育課程

授業科目・開講年次・単位数一覧

		授業科目	開講年次	単位数	
				必修	選択
共通科目	必修	研究法Ⅰ	1 前	2	
		研究法Ⅱ	1 前	2	
	選択	看護理論	1 前・2 前		2
		看護倫理特論	1 前・2 前		2
		看護教育学特論	1 後・2 後		2
		看護管理学特論	1 前・2 前		2
		家族看護特論	1 後・2 後		2
		基礎科学特論	1 後・2 後		2
		国際保健医療特論	1 前・2 前		2
		英語科学論文クリティーク	1 前・2 前		2
専門科目	選択必修	基盤看護学特論Ⅰ	1 前		2
		基盤看護学特論Ⅱ	1 前		2
		基盤看護学特論Ⅲ	1 前		2
		基盤看護学応用演習Ⅰ	1 通		4
		基盤看護学応用演習Ⅱ	1 通		4
		基盤看護学応用演習Ⅲ	1 通		4
		基盤看護学特別研究	2 通		6
		実践看護学特論Ⅰ	1 前		2
		実践看護学特論Ⅱ	1 前		2
		実践看護学特論Ⅲ*	1 前		2
		実践看護学特論Ⅳ	1 前		2
		実践看護学特論Ⅴ	1 前		2
		実践看護学応用演習Ⅰ	1 通		4
		実践看護学応用演習Ⅱ	1 通		4
		実践看護学応用演習Ⅲ*	1 通		4
		実践看護学応用演習Ⅳ	1 通		4
		実践看護学応用演習Ⅴ	1 通		4
		実践看護学特別研究	2 通		6
		広域看護学特論Ⅰ	1 前		2
		広域看護学特論Ⅱ	1 前		2
		広域看護学特論Ⅲ	1 前		2
		広域看護学特論Ⅳ	1 前		2
		広域看護学特論Ⅴ	1 前		2
		広域看護学特論Ⅵ	1 前		2
		広域看護学応用演習Ⅰ	1 通		4
		広域看護学応用演習Ⅱ	1 通		4
		広域看護学応用演習Ⅲ	1 通		4
		広域看護学応用演習Ⅳ	1 通		4

		授業科目	開講年次	単位数	
				必修	選択
専門科目	選択必修	広域看護学応用演習Ⅴ	1 通		4
		広域看護学応用演習Ⅵ	1 通		4
		広域看護学特別研究	2 通		6
	助産学課程選択必修	助産学特論	1 前		2
		助産学応用演習	1 後－2 前		4
		妊娠期助産診断技術学	1 前		2
		統合ヘルスケア論	1 通		2
		妊娠期助産診断技術学演習	1 前		3
		助産学基礎演習	1 通		3
		地域助産学実習	1 通		2
		助産学課題研究	2 通		4
	助産師養成選択科目	助産学概論	1 通		2
		助産管理論	1 通		2
		母子保健包括支援論	1 通		2
		周産期学	1 前		2
		リプロダクティブ・ヘルス演習	1 後		2
		周産期助産学演習	1 前		1
		周産期助産学実習	1 通		1
		助産診断学演習Ⅰ	1 前		2
		助産診断学演習Ⅱ	1 前		3
		助産技術学演習	1 通		3
		助産学実習	1 後		9
		助産学統合実習	2 前		2

＊：2026 年度は開講しない。

教育の方法、授業科目

看護学研究科の教育は、授業科目の講義、演習及び実習、学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行うものとする。授業科目の種類及び単位数等は、静岡県立大学大学院看護学研究科規程 大学院学則の別表（一）看護学研究科（博士前期課程）のとおりとする。

研究指導

入学時に学生ごとに指導教員を定める。学生は、履修する授業科目の選択及び研究にあたり、指導教員の指導を受けなければならない。研究指導は、原則として指導教員1名と副指導教員1名の計2名で行うこととし、1年次9月までに副指導教員を決定する。

教育課程の構造

特別研究（修士論文）		課題研究（修士論文）		
共通科目		専門科目		
選択	基盤看護学	実践看護学	広域看護学	助産学課程選択必修 助産師養成選択科目
英語科学論文クリティーク 国際保健医療特論 基礎科学特論 家族看護特論 看護管理学特論 看護教育学特論 看護倫理特論 看護理論	基盤看護学応用演習 I, II, III 基盤看護学特論 I, II, III	実践看護学応用演習 I, II, III, IV, V 実践看護学特論 I, II, III, IV, V	広域看護学応用演習 I, II, III, IV, V, VI 広域看護学特論 I, II, III, IV, V, VI	助産学統合実習 助産学応用演習 周産期助産学実習 リプロダクティブ・ヘルス演習 助産学実習 助産学基礎演習 地域助産学実習 助産管理論 妊娠期助産診断技術学演習 助産技術学演習 母子保健包括支援論 統合ヘルスケア論 周産期学 周産期助産学演習 助産診断学演習Ⅱ 助産診断学演習Ⅰ 妊娠期助産診断技術学 助産学概論 助産学特論
共通科目				
必修				
研究法Ⅰ・Ⅱ				

授業科目の構成

共通科目(必修)

専攻する領域を問わず看護学の基本と考えられ、看護実践・研究を展開していくうえで必要となる「研究法Ⅰ」「研究法Ⅱ」の2科目で構成される。

共通科目(選択)

学修に広がりと深まりを持たせるため、学生が関心をもつ研究領域等の違いにより選択できる科目で構成される。

専門科目(選択必修)

「基盤看護学」、「実践看護学」、「広域看護学」、「助産学課程」の専門分野ごとに、特論、応用演習、特別研究または課題研究で構成される。

特論は学生の専攻する分野に必要な基礎知識や研究の動向等を学ぶ科目、応用演習は学生が関心のある看護現象を取り上げて研究計画書を作成するまでのプロセスを学ぶ科目、特別研究あるいは課題研究は研究計画書に基づいてデータ収集・分析を行い、修士論文をまとめるまでのプロセスを学ぶ科目である。

なお、専門科目のうち特論は、他領域を専攻する学生も選択できる。

履修モデル例（専攻：基盤看護学）

	授業年次	開講年次	単位数		1年次	2年次
			必修	選択		
共通科目	研究法Ⅰ	1前	2		→	
	研究法Ⅱ	1前	2		→	
	看護理論	1前		2	→	
	看護倫理特論	1前		2	→	
	看護教育学特論	1後		2	→	
	看護管理学特論	1前		2	→	
	家族看護特論	1後		2		
	基礎科学特論	1後		2	→	
	国際保健医療特論	1前		2	→	
	英語科学論文クリティーク	1前		2	→	
専門科目	基盤看護学特論Ⅰ	1前		2	→	
	基盤看護学特論Ⅱ	1前		2		
	基盤看護学特論Ⅲ	1前		2		
	実践看護学特論Ⅰ	1前		2		
	実践看護学特論Ⅱ	1前		2		
	実践看護学特論Ⅲ	1前		2		
	実践看護学特論Ⅳ	1前		2		
	実践看護学特論Ⅴ	1前		2		
	広域看護学特論Ⅰ	1前		2		
	広域看護学特論Ⅱ	1前		2		
	広域看護学特論Ⅲ	1前		2		
	広域看護学特論Ⅳ	1前		2		
	広域看護学特論Ⅴ	1前		2		
	広域看護学特論Ⅵ	1前		2		
研究・演習科目	基盤看護学応用演習Ⅰ	1通		4	→	
	基盤看護学応用演習Ⅱ	1通		4		
	基盤看護学応用演習Ⅲ	1通		4		
	実践看護学応用演習Ⅰ	1通		4		
	実践看護学応用演習Ⅱ	1通		4		
	実践看護学応用演習Ⅲ	1通		4		
	実践看護学応用演習Ⅳ	1通		4		
	実践看護学応用演習Ⅴ	1通		4		
	広域看護学応用演習Ⅰ	1通		4		
	広域看護学応用演習Ⅱ	1通		4		
	広域看護学応用演習Ⅲ	1通		4		
	広域看護学応用演習Ⅳ	1通		4		
	広域看護学応用演習Ⅴ	1通		4		
	広域看護学応用演習Ⅵ	1通		4		
	基盤看護学特別研究	2通		6		→
	実践看護学特別研究	2通		6		
	広域看護学特別研究	2通		6		
合計			4	26	24	6

履修モデル例 長期履修（専攻：基盤看護学・3年履修）

科目区分	授業年次	開講年次	単位数		1年目	2年目	3年目
			必修	選択			
共通科目	研究法Ⅰ	1前	2		→		
	研究法Ⅱ	1前	2		→		
	看護理論	1前		2	→		
	看護倫理特論	1前		2	→		
	看護教育学特論	1後		2		→	
	看護管理学特論	1前		2		→	
	家族看護特論	1後		2			
	基礎科学特論	1後		2		→	
	国際保健医療特論	1前		2		→	
	英語科学論文クリティーク	1前		2	→		
専門科目	基盤看護学特論Ⅰ	1前		2	→		
	基盤看護学特論Ⅱ	1前		2			
	基盤看護学特論Ⅲ	1前		2			
	実践看護学特論Ⅰ	1前		2			
	実践看護学特論Ⅱ	1前		2			
	実践看護学特論Ⅲ	1前		2			
	実践看護学特論Ⅳ	1前		2			
	実践看護学特論Ⅴ	1前		2			
	広域看護学特論Ⅰ	1前		2			
	広域看護学特論Ⅱ	1前		2			
	広域看護学特論Ⅲ	1前		2			
	広域看護学特論Ⅳ	1前		2			
	広域看護学特論Ⅴ	1前		2			
	広域看護学特論Ⅵ	1前		2			
研究・演習科目	基盤看護学応用演習Ⅰ	1通		4		→	
	基盤看護学応用演習Ⅱ	1通		4			
	基盤看護学応用演習Ⅲ	1通		4			
	実践看護学応用演習Ⅰ	1通		4			
	実践看護学応用演習Ⅱ	1通		4			
	実践看護学応用演習Ⅲ	1通		4			
	実践看護学応用演習Ⅳ	1通		4			
	実践看護学応用演習Ⅴ	1通		4			
	広域看護学応用演習Ⅰ	1通		4			
	広域看護学応用演習Ⅱ	1通		4			
	広域看護学応用演習Ⅲ	1通		4			
	広域看護学応用演習Ⅳ	1通		4			
	広域看護学応用演習Ⅴ	1通		4			
	広域看護学応用演習Ⅵ	1通		4			
	基盤看護学特別研究	2通		6			→
	実践看護学特別研究	2通		6			
	広域看護学特別研究	2通		6			
合計			4	26	12	12	6

履修モデル例（助産学課程）

科目区分	授業年次	開講年次	単位数		1年次	2年次
			必修	選択		
共通科目	研究法Ⅰ	1前	2		→	
	研究法Ⅱ	1前	2		→	
	看護理論	1前		2		
	看護倫理特論	1前		2		
	看護教育学特論	1後		2		
	看護管理学特論	1前		2		
	家族看護特論	1後		2		
	基礎科学特論	1後		2		
	国際保健医療特論	1前		2		→
	英語科学論文クリティーク	1前		2		→
専門科目	助産学課程選択必修	助産学特論	1前	2	→	
		助産学応用演習	1後・2前	4		→
		妊娠期助産診断技術学	1前	2	→	
		統合ヘルスケア論	1通	2	→	
		妊娠期助産診断技術学演習	1前	3	→	
		助産学基礎演習	1通	3	→	
		地域助産学実習	1通	2	→	
		助産学課題研究	2通	4		→
	助産師養成選択科目	助産学概論	1通	2	→	
		助産管理論	1通	2	→	
		母子保健包括支援論	1通	2	→	
		周産期学	1前	2	→	
		リプロダクティブ・ヘルス演習	1後	2	→	
		周産期助産学演習	1前	1	→	
		周産期助産学実習	1通	1	→	
		助産診断学演習Ⅰ	1前	2	→	
		助産診断学演習Ⅱ	1前	3	→	
		助産技術学演習	1通	3	→	
		助産学実習	1後	9	→	
		助産学統合実習	2前	2		→
	合計		4	57	51	10

5. 履修方法

1) はじめに

本項では、大学院での授業の仕組みと、その履修に必要な手続き等を静岡県立大学大学院学則及び履修細則に従って解説する。授業の内容や事務上の手続きを熟知し、学修に支障がないように、この「履修方法」を十分活用する。また、4月に行われるガイダンスを必ず受け、不明な点は学生室に相談する。

以下、単位制、授業、授業科目、履修申告、試験、成績評価、修了、授業科目一覧、講義概要について、熟読のうえ今後の学修に役立てる。

2) 単位制

(1) 単位制とは

単位とは、一定の質の勉学ないし学修の量を示す基準となるものである。研究科で開講している各科目にはそれぞれ単位数が定められており、これらの科目を履修して合格すれば、単位を修得できる。

本学における学修は、単位数によって修了の可否が決定される。

(2) 単位と時間数

①授業は前期、後期の2学期に分けて実施され、原則として15週をもって1学期、30週をもって1学年としている。

②1単位の履修時間は、教室の内外合わせて45時間である。従って、1科目につき教室内外の3時間の学修を15週間行って1単位となる。

区分	1単位の履修時間		
	授業時間 (教室内)	自習時間 (教室外)	計
講 義	15	30	45
演 習	15	30	45

※助産師課程選択必修・助産師養成選択科目の演習・実習については、静岡県立大学大学院看護学研究科規程を参照のこと。

3) 授業

(1) 学期

本学での授業は、15週にわたる期間を単位として、前期・後期の2学期制を採用している。

(2) 授業時間

授業時間は、学生便覧を参照する。

(3) 授業時間割

授業時間割表は、前・後期に分けて作成され、4月のガイダンスの際に配布される。時間割は配布後、変更する場合がある。

(4) 休講、補講、集中講義等

①休講等

休講、授業時間及び授業場所の変更は、Web 学生サービスシステムまたは担当教員に確認する。休講の連絡がなく講義が行われなかった場合は、学生室にて確認する。

②補講

補講が行われる場合には、Web 学生サービスシステム等により連絡をする。

③集中・隔週講義

科目によっては、ある一定期間内に集中して行う講義または隔週に行う講義がある。詳細については Web 学生サービスシステム等で連絡する。

4) 授業科目

(1) 授業科目の分類

授業科目は、共通科目と専門科目から構成される。

①共通科目は、看護学の実践・教育・研究の土台となる理論や技法、保健医療に関連した諸科学を履修することで看護専攻領域の専門知識を深める。

②専門科目は、看護の特定の領域における科学的な知識や実践能力、研究的な思考能力を養う。

(2) 必修・選択等による履修区分

授業科目は、修了の要件として履修しなければならないか否かにより次のように分類される。

①必修科目：必ず修得しなければならない科目

②選択必修科目：指定された科目群のうち、所定の単位を必ず修得しなければならない科目

③選択科目：修了に必要な単位数の修得あるいは学生の興味・関心に基づいて履修する科目

5) 履修登録

指導教員の個別指導を受けた上、履修する科目を決定し、所定の期日までに登録する。

(1) 履修登録は、前・後期各期に行うこととし、4月と10月に、Web 学生サービスシステムにより行う。登録期間は授業開始後2週間以内とする。履修すべき科目が登録されていることを必ず確認し、登録されていない場合は速やかに登録する。

(2) 他研究科の授業科目を履修しようとするときは、当該授業科目の担当教員の承認を得たうえで、当該研究科長の許可を受けなければならない。この許可願は、所定の書式（用紙は学生室にある）により、授業開始後2週間以内に学生室に提出する。他研究科の授業科目を履修した者には単位の認定を行うが、修了必要単位数には算入しないので注意する。

6) 試験

(1) 試験とは

大学院は、学修の効果を測定するために学生の履修した授業科目について、試験のうえ単位を与える。試験は授業担当教員の判断により、筆記・口頭試問・実技テスト等の方法で行われる。

(2) 試験の種類

①定期試験

定期試験は、各学期の終了時に2週間にわたり実施される。定期試験時間割は、試験開始の原則10日前にWeb学生サービスシステム等により発表される。

②随時試験

定期試験期間以外に、授業中あるいは特別な時間を設けて随時に試験を実施することがある。この場合、授業中やWeb学生サービスシステム等で伝達される。

③追試験

次の理由で試験を欠席した者については、追試験を願い出ることができる。

- ・病気（ただし、医師の診断書を要する）
- ・忌引（1・2親等に限り、死亡の日より1週間以内）
- ・就職に関する事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）
- ・その他やむを得ない事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

なお、軽微な風邪等は、正当な理由と認められないので注意する。

追試験を受けようとする者は、定期試験の当該科目試験終了の日から1週間以内に追試験願（用紙は学生室にある）にその事由を詳記し、医師の診断書またはその事由を証明する書類を添付し、学生室に届け出る。

④受験上の注意

試験場内では、すべて監督者の指示、またはあらかじめ指示されている事項に従う。

7) 成績評価

(1) 成績評価の方法

成績評価は、静岡県立大学大学院看護学研究科規程及び担当教員の評価方針により、試験、レポート等における学生の学修実績に基づき、優・良・可・不可の評語で表現される。

(2) 成績評価の基準

- 優： 100点～80点
- 良： 79点～70点
- 可： 69点～60点
- 不可： 59点以下

(3) 成績評価の発表

成績評価は、Web学生サービスシステムで確認できる。

8) 修了要件

(1) 博士前期課程を修了するためには、2年以上在学し、

①共通科目から必修科目 4 単位、

②専門科目から自分が所属する専門分野の特論 2 単位・応用演習 4 単位・特別研究 6 単位、

③共通科目の選択科目、自分が所属する専門分野以外の専門科目の特論、自分が所属する専門分野の応用演習から 14 単位以上、

これら①～③の合計 30 単位以上を修得しなければならない。

更に修士論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。

(2) 助産師国家試験受験資格を取得するものは、2年以上在学し、

①共通科目から必修科目 4 単位、

②専門科目から自分が所属する専門分野の特論 2 単位・応用演習 4 単位・課題研究 4 単位、

③共通科目の選択科目、自分が所属する専門分野以外の専門科目の特論、自分が所属する専門分野の応用演習から 16 単位以上、

これら①～③の合計 30 単位以上を修得しなければならない。

これに加え、助産師国家試験受験資格取得にかかわる科目 31 単位を修得し、合計 61 単位を修得しなければならない。

更に、修士論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。

講義概要

【科目名】	研究法Ⅰ		【科目英語名】	Nursing ResearchⅠ	
【開講時期】	2026 年前期	【必選区分】	☒ 必修 ☐ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	操華子				
【担当教員】	操華子、富安真理				
【DPとの関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	看護研究とは何かの理解を基盤に、看護が展開されている様々な場における看護現象に関する課題を明らかにし、その課題を科学的に探究するプロセスを理解するための基礎知識を修得する。事前・事後学習、講義、討議、グループワーク演習を通し、院生自身の研究課題を明確にするための研究手法を修得する。 【キーワード】研究プロセス、リサーチクエスト(研究課題)、研究デザイン、文献クリティーク				
【授業目標】	1. 研究プロセス、量的研究・質的研究の代表的な研究デザインについて説明できる。 2. 既存の研究論文の検索ならびにクリティーク(批判的吟味)を実施することができる。 3. 自身のリサーチクエストを明確にし、その背景、意義について述べるができる。				
【授業展開】	【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディバード ☒B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回:オリエンテーション・研究のプロセス(操) 第2回:リサーチクエスト(研究課題)の作り方、種類と研究デザイン(操) 第3回:研究の理論的枠組みと操作的枠組み(操) 第4回:文献クリティーク(批判的吟味)・文献マトリックス(操) 第5回:研究計画書の構成要素(操) 第6回:研究計画書作成時の留意点(操) 第7回:研究デザイン各論 量的研究方法① 各デザインの特徴(操) 第8回:研究デザイン各論 量的研究方法② 代表的なデータ収集法(操) 第9回:統計学的推論と因果関係(操) 第10回:研究倫理(富安) 第11回:研究デザイン各論 質的研究手法① 各デザインの特徴(富安) 第12回:研究デザイン各論 質的研究方法② 代表的なデータ収集法(富安) 第13回:文献クリティーク・グループワーク①(操・富安) 第14回:文献クリティーク・グループワーク②(操・富安) 第15回:文献クリティーク・グループワーク 発表(操・富安)				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の事前準備の課題は、各授業回で指示する。事後学習の課題は、各授業終了時に課題を提示する。指定期間内に担当教員に提出をすることを求める。				
【準備学習時間】	自分の学習ペースに合わせ、学生各自が設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅱ、英語科学論文クリティーク				
【評価方法】	各授業終了後に提示された課題およびミニレポート(30%)、グループワーク発表(20%)、課題レポートとしての研究計画書の序論(文献検討も含む)作成(50%)から到達目標への達成度を評価する。				
【フィードバックの方法】	質問や受講生が理解不十分と思われる個所については、翌回のクラス時にフィードバックする。				
【テキスト】	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版／Grove,S.K., Burns,N., &Gray,J.R./黒田裕子他(監訳)/エルゼビアジャパン/ISBN:978-4860343002. その他、適宜提示する。				
【参考書】	適宜紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。 ※感染症拡大の影響により、オンライン双方向授業に変更する可能性がある。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	研究法Ⅱ		【科目英語名】	Nursing Research Ⅱ	
【開講時期】	2026 年前期	【必選区分】	☒ 必修 ☐ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	山田 紋子				
【担当教員】	山田 紋子、林 みよ子、榊原 直喜				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	本科目の目的は、「研究法Ⅰ」で学んだ内容を基礎として、自らの研究課題に適切な研究デザイン、研究方法を検討するために必要となる量的・質的研究の基本的な方法に関する知識を習得するとともに、それぞれの方法の理論的、哲学的基盤についても理解を深めることである。 【キーワード】研究方法論、量的研究方法、質的研究方法				
【授業目標】	1. 量的研究を行う際の基本的な知識や技術、方法を理解できる。 2. 質的研究に関する代表的な方法について、理論的・哲学的基盤を含め、基本的な知識や技術を理解できる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面授業とする。ただし、希望者はオンライン双方向による受講も可能である。 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディベート ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回 授業ガイダンス(山田) <量的研究法> 第2回 量的研究の概要(榊原) 第3回 量的研究における概念の明確化/操作化とそのプロセス(榊原) 第4回 サンプルと検出力(榊原直喜) 第5回 分析方法① 研究例から考える検定の理解:変数を記述するための統計(榊原) 第6回 分析方法② 研究例から考える検定の理解:関連性を検討するための統計(榊原) 第7回 分析方法③ 研究例から考える検定の理解:予測するための統計(榊原) 第8回 分析方法④ 研究例から考える検定の理解:差を検討するための統計(榊原) 第9回 量的研究法のまとめ(榊原) <質的研究法>(山田・林) 第10～11回 質的研究法の概要・具体的な質的研究法① 現象学と現象学的アプローチ(山田) 第12～13回 具体的な質的研究法② 文化人類学・社会学とエスノグラフィー(山田) 第14～15回 具体的な質的研究法③ 象徴的相互作用論とグラウンデッド・セオリー・アプローチ(林・山田)				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。 学部教育の統計学(平均値、分散、標準偏差、相関係数、t検定、カイ2乗検定など)の知識が必要となるので、各自で準備しておくこと。 その他の授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	自分の能力に応じて、各自で設定する。				
【履修条件】	なし。				
【関連科目】	研究法Ⅰ				
【評価方法】	プレゼンテーション内容 40%、討議(参加への積極性、発言内容)20%、課題レポート 40%				
【フィードバックの方法】	メールまたは授業時に質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第9版/エルゼビアジャパン/Gray,J.R. & Grove,S.K./黒田裕子他(監訳)/ISBN: 978-4-86034-794-9				
【参考書】	ポリット&ベック 看護研究 第3版/医学書院/Polit,D.F., & Beck,C.T/坂下玲子(監訳)/ISBN: 978-4-260-05706-6 その他、適宜紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	看護理論		【科目英語名】	Basics of Nursing Theory	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	操華子				
【担当教員】	操華子、栗田真由美、伊藤良司（非常勤）				
【DP との関連】	☐ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	看護学の理論体系の変遷および看護理論についての知識を深め、理論・概念の活用、作成について学習する。講義、課題のプレゼンテーション、討議を通して、今後の実践・研究への活用の基盤作りを行う。 【キーワード】看護理論の歴史的変遷、看護理論家、理論・概念構築、理論・概念分析				
【授業目標】	1. 看護理論の歴史的変遷、定義、役割と機能、各時代の代表的な理論家について説明できる。 2. 理論・概念構築の基礎ならびに評価の目的と評価基準について説明できる。 3. 代表的な看護理論を分析し、適応の実際について考察することができる。				
【授業展開】	【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディベート ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回：オリエンテーション・看護理論の定義と意義（操） 第 2 回：看護理論の構成要素、種類（操） 第 3 回：看護理論の歴史的発展過程 ナイチンゲールから第二次世界大戦まで（操） 第 4 回：看護理論の歴史的発展過程 第二次世界大戦後から現代まで（操） 第 5 回：理論分析と評価基準（操） 第 6 回：理論分析の実際① ヴァージニア・ヘンダーソン（操） 第 7 回：理論構築の基礎 看護現象を言語化する（栗田・操） 第 8 回：理論構築の基礎 看護実践を説明する（栗田・操） 第 9 回：理論構築の基礎 概念をつくる・理論をつくる：理論・概念分析（操） 第 10 回：理論構築の基礎 概念をつくる・理論をつくる：概念構築・開発（操） 第 11 回：理論分析の実際② 履修生によるプレゼンテーション（操） 第 12 回：理論分析の実際③ 履修生によるプレゼンテーション（操） 第 13 回：理論の哲学的背景① 科学を哲学してみよう 近代自然科学の哲学的再検討（伊藤） 第 14 回：理論の哲学的背景② 日常的な認知経験と質的研究（伊藤） 第 15 回：まとめ（操）				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	自身の学習ペースに応じて、履修生自身で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、各看護特論				
【評価方法】	講義時のディスカッションへの参加度（40%）、プレゼンテーション（60%）を総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	メールによる質問を受け付ける。受講生が理解不十分と思われる個所については、翌回のクラス時にフィードバックする。				
【テキスト】	適宜提示する。				
【参考書】	適宜提示する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。 ※感染症拡大の影響により、オンライン双方向授業に変更する可能性がある。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	看護倫理特論		【科目英語名】	Ethics in Nursing	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	山下早苗				
【担当教員】	山下早苗、松田順、小西恵美子(非常勤)				
【DP との関連】	☐ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	看護倫理とは何かを学ぶとともに、専門職として倫理的に「知ること(知識面)」「見ること(知覚面)」「振り返ること(内省面)」「行うこと(行動面)」「あること(資質面)」の能力を養う。 【キーワード】看護倫理、道徳、倫理的能力、専門職				
【授業目標】	1. 看護倫理の歴史を学び、看護と共にある看護倫理の重要性を理解できる 2. 看護倫理に関係する重要な概念を理解できる 3. 自己の臨床看護実践や看護教育実践を振り返り、倫理的能力を身につける 4. 事例検討を通し看護倫理の感受性を高める				
【授業展開】	【授業方法】対面もしくはオンラインによる講義、プレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒ A ディスカッション／ディベート ☐ B グループワーク ☒ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回: ガイダンス(山下) 第 2 回: 倫理と道徳(山下/松田) 第 3 回: 看護倫理の歴史と重要性(山下) 第 4 回: 看護倫理に関係する重要な概念(山下) 第 5 回: 倫理的能力とアサーション(山下) 第 6 回: ケアの倫理と倫理的思考(山下) 第 7 回～11 回: 倫理的能力のある看護師の実践: 個別課題のプレゼン(小西) 第 12 回～13 回: 事例検討(山下/松田) 第 14 回: 看護倫理カンファレンスの運営(山下) 第 15 回: 看護研究における倫理(松田)				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。 課題は初回のガイダンスおよび各授業回で指示する。				
【準備学習時間】	自分の能力に応じて、各自で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	各特論				
【評価方法】	課題レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)、討議(40%)で総合的に評価する				
【フィードバックの方法】	質問はメールにて受け付ける。 内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ. 改訂第 3. 小西恵美子 編集, 南江堂, ISBN 978452422508.				
【参考書】	看護倫理を考える言葉. 小西恵美子 著, 日本看護協会出版会, ISBN 9784818021372 看護実践の倫理 第 3 版. サラ T. フライ, メガン-ジェーン・ジョンストン 著, 日本看護協会出版会, ISBN 9784818015128				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	看護教育学特論		【科目英語名】	Nursing Education	
【開講時期】	2026 年後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	操華子				
【担当教員】	操華子、本家淳子(非常勤)				
【DPとの関連】	☐ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	看護実践能力を高めるための人材育成に関する理論、方法についての学習を通し、看護職者として自己研鑽、自己成長する素地を培う。現任教育、看護基礎教育などの場において、教授学習プロセスを展開するために必要な基礎的な知識、技術を修得する。 【キーワード】教授学習プロセス、カリキュラム開発と評価、現任教育、キャリア発達				
【授業目標】	1. 看護の教育的機能、看護教育の歴史の変遷や法的根拠について説明できる。 2. 教育理念から教授学習プロセスまでの流れを説明できる。 3. 教育の評価の原理、方法について説明できる。 4. 看護教育が看護ケアや実践能力に及ぼす影響について説明できる。				
【授業展開】	【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒ A ディスカッション／ディベート ☐ B グループワーク ☒ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回:オリエンテーション、看護教育学とは何か(看護学教育、看護教育との違い) (操) 第2回:教育の原理 (操) 第3回:教授学習プロセス・教育の基盤となる諸理論 (操) 第4回:教授学習プロセスの影響要因 (操) 第5回:看護教育課程の歴史の変遷(制度を含む)、学問的発展の経緯 (操) 第6回:看護基礎教育におけるカリキュラム開発とカリキュラムデザイン (操) 第7回:インストラクショナルデザイン(操) 第8回:教育の評価 (操) 第9回:教育技法の種類と教材開発(操) 第10回:看護実践能力の育成のための教授・学習方法① (操) 第11回:看護実践能力の育成のための教授・学習方法② (操) 第12回:現任教育の展開① (本家) 第13回:現任教育の展開② (本家) 第14回:キャリア発達の方法及び課題 (本家) 第15回:まとめ				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	自身の学習ペースに応じて、履修生自身で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	各看護特論				
【評価方法】	事前学習と講義時のディスカッションへの参加度(40%)、各回終了後のミニレポート提出(20%)、プレゼンテーション(40%)を総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	メールによる質問を受け付ける。受講生が理解不十分と思われる個所については、翌回のクラス時にフィードバックする。				
【テキスト】	Teaching in Nursing:: A guide for faculty (6 th . Ed.)／Billings, D. A. & Halstead, J. A. ／Philadelphia: W.B.Saunders／ 978-0323554725 Nurse as Educator:: Principles of teaching and learning for nursing practice (6 th .ed.)／Bastable, S.B. ／New York: Jones & Bartlett Learning／978-1-284-22927-1				
【参考書】	教育の哲学:ソクラテスからケアリングまで／ネル・ノディングス、宮寺晃夫監訳／世界思想社／4-7907-1212-5 C3337 教育評価[第2版補訂2版]／梶田叡一／有斐閣双書／978-4-00-730130-8C0037 看護教育学(第7版)／杉森みどり・舟島なをみ／医学書院／978-4-260-02782-3C3047				

	インストラクショナルデザインの原理／ロバート・M. ガニエ、キャサリン・C. ゴラス他、鈴木・岩崎訳(2007)／北大路書房／9784762825736 研修設計マニュアル:人材育成のためのインストラクショナルデザイン／鈴木克明／北大路書房／ 978-4762828942		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。 ※感染症拡大の影響により、オンライン双方向授業に変更する可能性がある。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	看護管理学特論		【科目英語名】	Nursing Management	
【開講時期】	2026 年前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	竹熊カツマタ 麻子				
【担当教員】	竹熊カツマタ 麻子				
【DP との関連】	☐ DP1 ☐ DP2 ☒ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	組織をリードする時、また、臨床の現場で問題に直面する時に管理者は問題解決に努めるが、そのアプローチに理論的根拠がないままに対処している場合がみられる。 本科目では看護力のある組織づくりのために、臨床での問題を解決する為に 1)リーダーシップの理論、2)問題解決のための方法、3)変革をもたらすための基礎的な理論について、分かりやすく現場の事例やグループワークなどを通じて学ぶ。 【キーワード】リーダーシップ、問題解決法、変革理論、組織、システム、PDSA サイクル				
【授業目標】	1.リーダーシップスタイルの特徴と違いについて説明することができる。 2.組織の中で求められているリーダーシップについて説明することができる。 3.組織の中での問題を解決するための考え方、アプローチを知る。 4.臨床現場における問題の解決とケアの質の向上をもたらす方法と理論について説明できる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンラインによる講義、プレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディバード ☒B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回：リーダーシップについて 第 2 回：リーダーシップのスタイルの特徴とその違いと応用について 第 3 回：変革をもたらすリーダーシップについて 第 4 回：変革理論について 第 5 回：組織について 第 6 回：臨床の現場の問題分析 第 7 回：グループワーク(問題分析) 第 8 回：グループワーク(PDSA サイクルを廻す) 第 9 回：グループワーク発表 第 10 回：プロジェクトマネジメント 第 11 回：看護力の高い組織についてマグネット認証プログラム 第 12 回：看護力の評価について 第 13 回：変革について 第 14 回：最終プレゼンテーションと発表 第 15 回：最終プレゼンテーションと発表とまとめ				
【事前・事後課題】	レポート 30%、グループワーク課題 20%、プレゼンテーション 40%				
【準備学習時間】	各自、授業回や自己の能力に応じて設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	基盤看護学特論 I				
【評価方法】	レポート 40%、グループワーク課題 20%、プレゼンテーション 40%				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	適宜紹介する。				
【参考書】	適宜紹介する				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	家族看護特論		【科目英語名】	Family Nursing	
【開講時期】	2026 年度後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	富安眞理				
【担当教員】	富安眞理、簗宗一、高見紀子(非常勤)、予定教員				
【DP との関連】	☐ DP1 ☐ DP2 ☒ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	家族看護は、療養者を含めた家族を一つの単位として捉え、家族の健康問題にアプローチする看護の一分野である。家族看護を理解し実践するために必要な知識としての家族論、現代家族の動向、次いで、家族看護と家族療法に関する諸理論、さらに家族に対するアセスメントと介入方法を学ぶ。そして、家族のライフステージで生じやすい家族の健康問題へのアプローチを検討する。 【キーワード】家族看護、事例検討				
【授業目標】	1. 家族看護に関する研究の動向を理解できる。 2. 家族看護において必要となる諸理論や家族アセスメントモデルを説明できる。 3. 療養者とその家族への家族看護実践にあたっての看護専門職の役割を説明できる。 4. 家族看護の実事例から、家族看護実践の評価や課題について検討できる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディベート ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回 家族の形態と機能、家族の捉え方、現代家族の動向、家族と文化（富安） 第2回 家族看護の歴史、目的、対象、評価（富安） 第3回 家族発達理論、家族ストレス対処理論（富安） 第4回 家族システム理論 ①システム論（簗） 第5回 家族システム理論 ②家族看護と家族療法（簗） 第6回 家族システム理論 ③全体としての家族（簗） 第7回 家族アセスメントモデルと援助 ①フリードマン家族アセスメントモデル（高見） 第8回 家族アセスメントモデルと援助 ②カルガリー家族アセスメントモデル、エンパワメントモデル（高見） 第9回 家族アセスメントモデルと援助 ③渡辺式モデル（高見） 第10回 家族面接の技法（簗） 第11回 家族看護の実践 急性期にある事例（学生事例・富安、予定教員） 第12回 家族看護の実践 慢性期にある事例（学生事例・富安、予定教員） 第13回 家族看護の実践 終末期にある事例（学生事例・富安、予定教員） 第14回 家族看護の実践 多問題化家族の事例（学生事例・富安、予定教員） 第15回 家族看護の実践 まとめ（富安）				
【事前・事後課題】	主体的にクラスに参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前・事後学習を行う。クラスの個別課題は、各クラスにて指示する。				
【準備学習時間】	各クラスにて指示する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、各看護学特論				
【評価方法】	講義や討議の取組(20%)、事例検討のプレゼンテーション(50%)、課題レポート(30%)で評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降のクラス、または別途返答する。				
【テキスト】	家族看護学 理論と実践 第6版／鈴木和子ほか／日本看護協会出版会／ISBN:978-4-8180-2940-8 家族看護モデル アセスメントと援助の手引き／森山美知子／医学書院／ISBN:978-4260341950				
【参考書】	参考文献をクラスで紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	可 受け入れに際し、事前面談を実施する。		【科目等履修生】	可 受け入れに際し、事前面談を実施する。	

【科目名】	基礎科学特論		【科目英語名】	Advanced Fundamental Science	
【開講時期】	2026 年度後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	井上健一郎				
【担当教員】	井上健一郎				
【DP との関連】	☐ DP1 ☒ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	ヒトの正常発生を通して、器官の構造や機能を再考する。疾病の病態メカニズム・治療法に係る科学研究論文を紹介・抄読しながら、研究の意義づけ、新規性、発展内容等の骨格を会得する。 【キーワード】 遺伝、病態学				
【授業目標】	1. ヒトの正常発生を説明できる。 2. 先天異常がなぜ発生するか説明できる。 3. 遺伝のメカニズムを説明できる。 4. 病態発生メカニズムを説明できる。 5. 病態解明のためのアプローチを説明できる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディベート ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回 授業ガイダンス 第2回 ヒトの正常発生 1 第3回 ヒトの正常発生 2 第4回 先天異常の発生 1 第5回 先天異常の発生 2 第6回 遺伝のメカニズム 1 第7回 遺伝のメカニズム 2 第8回 病態発生メカニズム 1 第9回 病態発生メカニズム 2 第10回 病態解明のためのアプローチ 1 第11回 病態解明のためのアプローチ 2 第12回 各種疾患の病態解明に迫る研究論文を選択し、読解・意見交換、受講生との討論 1 第13回 各種疾患の病態解明に迫る研究論文を選択し、読解・意見交換、受講生との討論 2 第14回 各種疾患の病態解明に迫る研究論文を選択し、読解・意見交換、受講生との討論 3 第15回 各種疾患の病態解明に迫る研究論文を選択し、読解・意見交換、受講生との討論 4				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	各看護学特論				
【評価方法】	英語科学論文の講読レポート(50%)、講読内容のプレゼンテーション(50%)で評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	系統看護学講座 専門 II/母性看護学概論、小児臨床看護各論、呼吸器、循環器、血液・造血器、消化器、内分泌・代謝・脳・神経・腎・泌尿器、女性生殖器、運動器、アレルギー・膠原病、感染症/医学書院 その他、適宜提示する。				
【参考書】	イヤーノート 2024 内科・外科編/メディックメディア/岡庭豊(編集)/ISBN:978-4896328196 その他、適宜提示する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。 ※感染症拡大の影響により、オンライン双方向授業に変更する可能性がある。				
【社会人聴講生】	事前面談あり		【科目等履修生】	事前面談あり	

【科目名】	国際保健医療特論		科目英語名	International Healthcare	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	□必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 □演習 □実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	林みよ子				
【担当教員】	松田正己(非常勤)、神馬征峰(非常勤)				
【DP との関連】	□DP1 □DP2 ☒ DP3 □DP4				
【授業概要】	アジアにおける先進国として、わが国の国際社会における責務は年々増加し、近隣の諸外国からの期待も増大してきている。現在わが国は世界有数の海外援助国になっているが、その具体的な活動や国際保健の協力状況にはさまざまな問題点が指摘されている。そこで、国際保健分野における国際協力活動(国際機関、政府機関、NGO)の進め方について、現状と歴史、保健問題に関する理解や必要な知識について具体的な事例(ケース・スタディ:東南アジア、中国、ラテンアメリカ、アフリカ)をもとに、将来国際保健領域で活動をする上での基礎を学習する。 【キーワード】 国際保健、国際医療				
【授業目標】	1. 国際協力活動の現状を理解できる。 2. 国際感染症の現状を理解できる。 3. 国際保健のマネジメントを理解できる。 4. 最近のプライマリ・ヘルス・ケアの動向を理解できる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション/ディベート □B グループワーク ☒C プレゼンテーション □D 実習/フィールドワーク 【授業内容】 第1回 授業ガイダンス(林) 第2回 国際社会における保健問題(松田) 第3回 国際保健協力の歴史と現状(松田) 第4回 わが国の国際保健協力の現状1:ODAの現状、JICAによる活動状況(松田) 第5回 わが国の国際保健協力の現状2:NGO活動の現状(松田) 第6回 国際感染症の現状1(結核)(神馬) 第7回 国際感染症の現状2(エイズ)(神馬) 第8回 ケーススタディ1:東南アジア地域における活動と問題点(松田) 第9回 ケーススタディ2:中東地域における活動と問題点(松田) 第10回 ケーススタディ3:ラテンアメリカ地域における活動と問題点(松田) 第11回 ケーススタディ4:アフリカ地域における活動と問題点(松田) 第12回 国際保健のマネジメント(神馬) 第13回 将来における国際保健協力の進め方(神馬) 第14回 UHC:最近のプライマリ・ヘルス・ケアの動向(WHO 世界保健報告 2008)(神馬) 第15回 UHC とタイの地方自治・地域看護・保健ケアシステム(神馬)				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各授業内容の理解度・習熟度に応じた時間の学習をする。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	なし				
【評価方法】	課題レポート 50%、プレゼンテーション内容 50%で評価する。				
【フィードバックの方法】	メールで質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	別途提示する。				
【参考書】	エッセイ国際保健／松田正己／東京法規出版会／ISBN978-4-924763-58-6 変わりゆく世界と 21 世紀の地域健康づくり(第 3 版)／松田正己、奥野ひろみ、小山修、藤井達也、菅原スミ編／やどかり出版／ISBN:978-4-904185-15-5				

	実践 ヘルスプロモーション PRECEDE-PROCEED モデルによる企画と評価／ローレンス W. グリーン／マーシャル W. クロイター；神馬征峰訳／医学書院／ISBN:978-4260001717		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	事前面談要	【科目等履修生】	事前面談要

【科目名】	英語科学論文クリティーク		【科目英語名】	Reading English Scientific Articles	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	操華子				
【担当教員】	操華子				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	看護、医療に関する英語科学論文を読み、クリティークするための基本的技術を修得する。履修生の研究テーマに関連した英語科学論文のクリティーク結果を自身の研究課題と結びつけ、リサーチクエストを焦点化させていくことを目指す。 【キーワード】英語科学論文、IMRAD、クリティーク、批判的吟味				
【授業目標】	1. 英語科学論文を読むための論文・要旨の構造、パラグラフの種類、文法上の特徴について理解する。 2. 英語科学論文をクリティークし、論文の長所・短所を述べることができる。 3. 履修生自身の研究課題と英語科学論文のクリティーク結果を関連づけて討論できる。				
【授業展開】	【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒ A ディスカッション／ディベート ☐ B グループワーク ☒ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回：オリエンテーション 第2回：英語科学論文の検索・選定 第3回：看護学・医学領域に関連した英語科学論文・抄録の基本的構造 第4回：英語科学論文の抄録・論文全体の読み方 第5回：英語科学論文のクリティーク方法：実験・準実験研究 第6回：英語科学論文のクリティーク方法：コホート研究 第7回：英語科学論文のクリティーク方法：症例対照研究 第8回：英語科学論文のクリティーク方法：横断研究 第9回：英語科学論文のクリティーク方法：質的研究 第10回：英語科学論文のクリティーク方法：統合型研究 第11回：履修生の研究領域の英語科学論文精読・クリティーク発表① 第12回：履修生の研究領域の英語科学論文精読・クリティーク発表② 第13回：履修生の研究領域の英語科学論文精読・クリティーク発表③ 第14回：履修生の研究領域の英語科学論文精読・クリティーク発表④ 第15回：履修生の研究領域の英語科学論文精読・クリティーク発表⑤				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	自身の学習ペースに応じて、履修生自身で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、各看護特論				
【評価方法】	英語科学論文の講読レポート(50%)、講読内容のプレゼンテーション(50%)を総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	随時、授業内容、課題内容についての質問をメールで受け付ける。内容によって個別あるいは次回授業時にフィードバックする。				
【テキスト】	How to read a paper: The basics of evidence-based medicine and healthcare 6 th ed./T. Greenhalgh/ Wiley Blackwell/ISBN 978-1-119-48474-5				
【参考書】	研究手法別のチェックシートで学ぶ よくわかる看護研究論文のクリティーク(第2版)／牧本清子・山川みやえ／日本看護協会出版会／ISBN 978-4-8180-2271-3 Critical appraisal of epidemiological studies and clinical trials 2 nd ed./M. Elwood/Oxford University Press/ISBN0-19-262744-9				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。 ※感染症拡大の影響により、オンライン双方向授業に変更する可能性がある。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可		

【科目名】	基盤看護学特論Ⅰ		【科目英語名】	Special study of Fundamental NursingⅠ	
【開講時期】	2026 年前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	竹熊カツマタ 麻子				
【担当教員】	竹熊カツマタ 麻子				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	看護管理学特論をはじめとする特論での学修を基に、研究の遂行に必要な能力を高める。多様な看護の対象を踏まえ、文献クリティーク、フィールドワークなどの演習を通して、自己の研究課題を明確にする。 【キーワード】 研究法、PICO、EBP、システマティックレビュー				
【授業目標】	1.看護管理学分野の興味のある現象について言語化することができる 2.PICO クエスチョンを挙げるができる 3.研究のプロセスとエビデンスを創出するサイクルについて説明できる 4.研究における理論、モデル、概念枠組みについて説明できる 5.研究の問とそれを明らかにする研究方法の妥当性について説明できる				
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンラインによる講義、プレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディベート ☒B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回：研究とはなにか：研究の背景にある哲学を知る 第2回：研究の課題と問について：PICO 第3回：エビデンスとそのレベルについて：EBPについて 第4回：システマティックレビュー：文献レビューの方法について 第5回：文献のクリティークについて 第6回：研究における概念の定義 第7回：研究におけるモデルと理論の活用 第8回：測定法について：看護の現象をどのように測定するのか 第9回：研究課題と研究の問の性質：何を明らかにしたいのか？ 第10回：学生のプレゼンテーション：研究で明らかになっていることと明らかになっていないこと 第11回：学生のプレゼンテーション：研究の課題について 第12回：学生のプレゼンテーション：研究の方法とその妥当性について 第13回：研究の結果を臨床にどの様に活かすか 第14回：QI(Quality Improvement) 第15回：学生最終発表				
【事前・事後課題】	授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各自、授業回や自己の能力に応じて設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	看護管理学特論、基盤看護学応用演習Ⅰ				
【評価方法】	課題レポート 50%、課題発表 50%				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	看護研究 原理と方法 第3版／Polit, D. F. & Beck, C. T./坂下玲子(監訳)・坂下玲子・谷田恵子(訳) 医学書院／ISBN:978-4-260-05706-6 その他、適宜紹介する。				
【参考書】	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版／Grove,S.K., Burns,N., &Gray,J.R./黒田裕子他(監訳)／エルゼビアジャパン／ISBN:978-4860343002				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	基盤看護学特論Ⅱ		【科目英語名】	Special study of Fundamental NursingⅡ	
【開講時期】	2026 年前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	荒井孝子				
【担当教員】	荒井孝子、加藤京里、廣瀬允美、松田順				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	本科目では、看護実践を成立させている看護技術の原理・原則を理論的、倫理的に明確化し、科学的知見に基づいて看護技術を構造化する方法を学修する。さらに、看護技術を学術的研究の対象としてとらえ、その効果について批判的に考察することを通して臨床実践において有用な看護技術の方法を提案することを目指す。 【キーワード】看護技術、看護倫理、ケアと看護技術開発				
【授業目標】	1. 科学的知見に基づき、看護技術の構造を理論的に説明できる。 2. 看護技術における倫理上の課題について、根拠に基づいて自分の考えを述べることができる。 3. 看護技術の効果に関する批判的な考察を通して、実践における応用可能性について論じることができる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンラインによる講義、プレゼンテーション、ディスカッションを行う 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディベート ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回 オリエンテーション、看護技術の開発とは（荒井） 第2回 看護技術論① 看護技術の原理（荒井） 第3回 看護技術論② 看護技術の原理（荒井） 第4回 看護技術論③ 看護行為と看護技術（荒井） 第5回 患者の利益と看護技術（松田） 第6回 看護技術における倫理上の課題（松田） 第7回 身体機能を支援するケアの課題分析（加藤） 第8回 身体機能を支援するケアの原理と応用（加藤） 第9回 身体機能を支援するケアの技術的課題の検証（加藤） 第10回 看護実践の現象学的探究と課題の抽出（廣瀬） 第11回 看護技術の標準化と有用性の評価（廣瀬） 第12回 看護介入の研究デザインと実現可能性の検討（廣瀬） 第13回 看護技術とその開発①（荒井・加藤・廣瀬・松田） 第14回 看護技術とその開発②（荒井・加藤・廣瀬・松田） 第15回 看護技術とその開発③（荒井・加藤・廣瀬・松田）				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう取り組む。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。授業は各自が作成した資料に基づきプレゼンテーションおよび討論にて進める。				
【準備学習時間】	各自、授業回や自己の能力に応じて設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	基盤看護学応用演習Ⅱ				
【評価方法】	プレゼンテーション 50%、ディスカッション 50%により、総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	適宜紹介する。				
【参考書】	適宜紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	基盤看護学特論Ⅲ		【科目英語名】	Special study of Fundamental Nursing III	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	□必修 □選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☑講義 □演習 □実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	操華子				
【担当教員】	操華子				
【DP との関連】	☑DP1 □DP2 □DP3 ☑DP4				
【授業概要】	感染予防の基本となる知識、そのとりまく現状について理解し、代表的な医療関連感染の予防対策、病院・病床環境対策、職業感染に関する基本的知識を、講義、プレゼンテーション、討議を通して修得する。さらに世界的視野で感染症の問題をとらえ、バイオテロリズムへの備えの重要性についても学習する。 【キーワード】感染予防、医療関連感染対策、感染症の流行(エピデミック、パンデミック)、バイオテロリズム				
【授業目標】	1. 感染制御・予防の重要性ならびに基本的な考え方を理解する。 2. 代表的な医療関連感染の現状とその対策について理解する。 3. 感染症のグローバル化の現状と感染予防対策について理解する。 4. 人為的災害の一つであるバイオテロリズムについて理解する。				
【授業展開】	【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☑A ディスカッション／ディベート □B グループワーク ☑C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回:オリエンテーション 第2回:感染症の変遷と感染制御 第3回:感染・感染症理解のための基本的な概念、考え方 第4回:医療安全と感染予防 第5回:感染予防対策の基本:隔離予防策 第6回:感染予防対策の基本:AST 対策の基礎 第7回:感染予防対策の基本:AST 対応の実際 第8回:ケーススタディ CDI 集団発生 第9回:ケーススタディ 職員の結核曝露 第10回:ケーススタディ MDRO(薬剤耐性菌)集団発生 第11回:clinical practice guideline EBP の展開に向けて 第12回:手術部位感染に関する clinical practice guideline 第13回:新興感染症と再興感染症(感染症のグローバル化) 第14回:バイオテロリズムの脅威 第15回:まとめ				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、事前準備と事後学習を行う。授業毎の事前準備の課題は、各授業回で指示する。事後学習の課題は、各授業終了後の復習である。				
【準備学習時間】	自身の学習ペースに応じて、履修生自身で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、英語科学論文クリティーク				
【評価方法】	講義時のディスカッションへの参加度(40%)、プレゼンテーション(60%)を総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	メールによる質問を受け付ける。履修生が理解不十分と思われる個所については、翌回のクラス時にフィードバックする。				
【テキスト】	看護学テキスト NICE 感染看護学:患者の健康と権利を守り安全に看護を実践する／操華子・川上和美編／南江堂／978-4-524-22978-9 C3047 他、適宜提示する。				
【参考書】	感染管理・感染症看護テキスト／大曲貴夫・操華子編／照林社／978-4-7965-2350-9 他、適宜紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。 ※感染症拡大の影響により、オンライン双方向授業に変更する可能性がある。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	基盤看護学応用演習 I		【科目英語名】	Exercise in Fundamental Nursing I	
【開講時期】	2026 年前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	竹熊カツマタ 麻子				
【担当教員】	竹熊カツマタ 麻子				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	看護管理学領域における研究課題の探求を通じて研究の遂行に必要な知識、技術、そして態度を学ぶ 【キーワード】 文献レビュー、エビデンスの統合、EBP プロジェクト、QI (Quality Improvement)				
【授業目標】	1.関心のあるテーマに関する文献をクリティークすることができる。 2.多様な看護の対象を踏まえて、自己の研究課題を検討できる。 3.文献検討やフィールドワークなどからの学びを説明できる。 4.文献検討やフィールドワークなどからの学びを基に、研究課題を明確にできる。 5.研究の問い(研究課題)を明らかにする研究方法について検討することが出来る。				
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒ A ディスカッション／ディバード ☐ B グループワーク ☒ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回～8 回: 関心のあるテーマに関する文献クリティーク 第 9 回～15 回: 関心のあるテーマに関する文献の統合 第 16 回～25 回: 研究課題と研究の問いの明確化 第 26 回～30 回: 研究の問いから研究方法、研究の枠組み、理論について検討する				
【事前・事後課題】	授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各自、授業回や自己の能力に応じて設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	基盤看護学特論 I				
【評価方法】	プレゼンテーション 50%、レポート 50%				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	看護研究 原理と方法 第 3 版／Polit, D. F. & Beck, C. T/坂下玲子(監訳)・坂下玲子・谷田恵子(訳) 医学書院／ISBN: 978-4-260-05706-6 その他、適宜紹介する。				
【参考書】	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第 7 版／Grove, S.K., Burns, N., & Gray, J.R./黒田裕子他(監訳)／エルゼビアジャパン／ISBN: 978-4860343002				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。 ※感染症拡大の影響により、オンライン双方向授業に変更する可能性がある。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	基盤看護学応用演習Ⅱ		【科目英語名】	Exercise in Fundamental NursingⅡ	
【開講時期】	2026 年前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	荒井孝子				
【担当教員】	荒井孝子、加藤京里、廣瀬允美、松田 順				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	看護実践において基盤となる看護理論、患者・看護師の相互作用、看護技術などを取り上げ、検証する方法を探究する。自己の研究課題を明らかにし、研究計画書を作成することにより、研究計画立案のプロセスを学ぶ。 【キーワード】研究課題の明確化、文献検討、研究計画書作成				
【授業目標】	1. 関心のある領域を記述し、それをもとに文献検討できる。 2. 文献検討の結果に基づき、自らの研究課題を焦点化し、明確に記述できる。 3. 見出した研究課題に応じた研究目的と意義を記述できる。 4. 研究目的に基づいて、研究デザインを定め、研究計画を立案できる。 5. 研究計画書の作成に伴う倫理的課題について理解し、それについて対応できる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディベート ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回 オリエンテーション(荒井) 第 2～3 回 関心がある領域の検討(荒井・加藤・廣瀬・松田) 第 4～5 回 キーワードの設定、文献検索(荒井・加藤・廣瀬・松田) 第 6～10 回 関心のあるテーマに関する研究の文献検討・論文クリティーク： 国内文献(荒井・加藤・廣瀬・松田) 第 11～14 回 関心のあるテーマに関する研究の文献検討・論文クリティーク： 海外文献(荒井・加藤・廣瀬・松田) 第 15 回 文献検討のまとめ(荒井・加藤・廣瀬・松田) 第 16～18 回 研究課題・研究目的の明確化(荒井・加藤・廣瀬・松田) 第 19～20 回 研究デザインの検討(荒井・加藤・廣瀬・松田) 第 21～24 回 研究方法の検討(荒井・加藤・廣瀬・松田) 第 25 回 研究計画における倫理的配慮(荒井・加藤・廣瀬・松田) 第 26～28 回 研究課題に関する研究計画書の作成(荒井・加藤・廣瀬・松田) 第 29～30 回 研究計画の実施可能性の検討(荒井・加藤・廣瀬・松田)				
【事前・事後課題】	授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各自、授業回や自己の能力に応じて設定する。				
【履修条件】	基盤看護学特論Ⅱの単位取得見込み、もしくは単位取得していること。				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、基盤看護学特論Ⅱ、基盤看護学特別研究				
【評価方法】	研究計画書の内容 50%、プレゼンテーション 50%				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第 9 版／Grove, S.K., Burns, N., & Gray, J.R./黒田裕子他(監訳)／エルゼビアジャパン／ISBN:978-4860347949				
【参考書】	ポリット&ベック看護研究 第 3 版／Polit, D.F., & Beck, C.T/坂下玲子(監訳)／医学書院／ISBN:978-4260057066 その他、適宜紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	基盤看護学応用演習Ⅲ		【科目英語名】	Seminar in Fundamental Nursing Ⅲ	
【開講時期】	2026 年度前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	操華子				
【担当教員】	操華子				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	既習の学習をふまえ、国内外の研究論文を検索し、検討を行う。さらに、あらゆる医療・ケア場面における感染対策上の課題、および効果的な感染予防対策とその検証方法について考察する。履修生のプレゼンテーション、院生間ならびに教員間との討議を通じ、自身の研究テーマの選出、リサーチクエストへの絞り込み、具体的な研究方法を探究する。一連の演習を通し、研究計画を立案するプロセスを理解する。 【キーワード】研究課題の明確化、研究方法、研究計画書作成				
【授業目標】	1. 履修生自身が関心のある現象・テーマを選び、国内外の研究論文を検索・吟味することができる。 2. 検索結果から、自身の研究テーマに関連のある論文を用いて文献マトリックス・文献マップを作成できる。 3. 文献の吟味の結果をふまえ、自らの研究課題を明確化、研究目的、研究の意義を説明できる。 4. 研究課題への回答を得るために、適切な研究デザイン、研究方法を検討できる。 5. 研究課題に関する、科学的ならびに倫理的な研究計画書を作成できる。				
【授業展開】	【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒ A ディスカッション／ディベード ☐ B グループワーク ☒ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回 オリエンテーション 第2回 関心のある現象、研究テーマの選出・説明 第3回～4回 文献の検索式の作成 日本語・英語文献 第5回～8回 日本語文献のクリティーク・文献マトリックスの作成 第9回～12回 英語文献のクリティーク・文献マトリックスの作成 第13回～14回 クリティークを通しての未解決問題、今後の課題 第15回～18回 文献マップの作製、研究テーマの絞り込み 第19回～20回 研究課題の明確化・研究目的の検討 第21回 研究デザインの検討 第22回 標的母集団、研究対象者、標本数の検討 第23回 データ収集方法の検討 第24回 倫理的配慮に関する検討 第25回～30回 研究計画書ならびにデータ収集に伴い必要となる資料（依頼状、研究説明書、承諾書、同意書、同意撤回書など）の作成				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	自身の学習ペースに応じて、履修生自身で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、英語科学論文クリティーク、基盤看護学特論Ⅲ				
【評価方法】	演習時の課題発表・ディスカッションへの参加度(50%)、研究計画書の内容(50%)から総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	各回の課題に対するフィードバックは、授業時間内に実施予定である。その他、課題をすすめるうえでの疑問点などについては、随時、メールで質問を受け付ける。				
【テキスト】	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版／Grove,S.K., Burns,N., &Gray,J.R./黒田裕子他(監訳)／エルゼビアジャパン／ISBN: 978-4860343002.				
【参考書】	ポーリット & ベック 看護研究 第3版／Polit,D.F., &Beck,C.T/坂下玲子(監訳)／医学書院／ISBN: 978-4260057066 その他、適宜提示する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。 ※感染症拡大の影響により、オンライン双方向授業に変更する可能性がある。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	基盤看護学特別研究		【科目英語名】	Special Research in Fundamental Nursing	
【開講時期】	2026 年度前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	6 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	90 時間
【科目責任者】	竹熊カツマタ麻子・荒井孝子・操華子				
【担当教員】	竹熊カツマタ麻子・荒井孝子・操華子・加藤京里・廣瀬允美・松田順				
【DP との関連】	☒ DP1 ☒ DP2 ☒ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	履修者自身の関心領域に関する研究課題への回答を得るため、一連の研究プロセスならびに研究者としての姿勢を修得する。修士論文計画書審査に合格をした研究計画書に基づき、必要な倫理的配慮、データ収集、分析を行い、修士論文としてまとめる。 【キーワード】研究実施、修士学位論文作成				
【授業目標】	1. 自身の研究計画書に求められる倫理的配慮について述べることができる。 2. 研究計画書に沿ってデータ収集を行い、分析し、結果をまとめることができる。 3. 研究課題に応じて、論理的に考察できる。 4. 論理的な一貫性・整合性をもって、修士論文としてまとめることができる。 5. 修士論文の内容について、他者と議論することができる。 6. 修士論文を学内で公表することができる。				
【授業展開】	【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒ A ディスカッション／ディバード ☐ B グループワーク ☒ C プレゼンテーション ☒ D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回～3 回 研究計画書を研究倫理審査委員会に申請し、承認を得る。 第 4 回～6 回 研究開始の準備状況を確認する。 第 7 回～9 回 研究計画書に沿って研究を開始する。 第 10 回～12 回 研究進行中、適宜、必要な評価を行い、早期に問題の解決や調整を行う。 第 13 回～15 回 研究の場とデータ収集開始に向けて調整する。 第 13 回～22 回 データ収集、分析を行う。 第 23 回～25 回 分析を結果としてまとめる。 第 26 回～36 回 研究課題に従い、結果を考察し、論文としてまとめる(適切な時期に、中間発表を行う)。 第 37 回～39 回 論文の推敲を繰り返し、論文として完成させる。 第 37 回～39 回 修士論文審査申請を行い、論文審査、最終試験を受ける。 第 40 回～42 回 修士論文の投稿準備を行う。 第 43 回～45 回 研究終了後、協力していただいた施設や関係者に終了を報告する。				
【事前・事後課題】	主体的に研究に参画し、研究能力と専門性を発揮できるよう研究計画に基づき必要に応じて準備・確認等を行う。研究の実施に伴う課題については適宜、指導教員へ相談すること。				
【準備学習時間】	自身の学習ペースに応じて、履修生自身で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、英語科学論文クリティーク、基盤看護学特論、基盤看護学応用演習				
【評価方法】	静岡県立大学大学院看護学研究科修士学位審査に関する細則に示す修士論文の審査基準に基づいて評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業時、または別途返答する。				
【テキスト】	ポーリット&ベック看護研究 第 3 版／Polit, D.F., & Beck, C.T/坂下玲子(監訳)／医学書院／ISBN:978-4260057066				
【参考書】	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第 9 版／Grove, S.K., Burns, N., & Gray, J.R./黒田裕子他(監訳)／エルゼビアジャパン／ISBN:978-4860347949 その他、適宜提示する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。 ※感染症拡大の影響により、オンライン双方向授業に変更する可能性がある。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	実践看護学特論 I		科目英語名	Special study of Clinical Nursing I	
【開講時期】	2026 年前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	林みよ子				
【担当教員】	林みよ子				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	本授業は、重症・救急患者とその家族に対して、より質の高い看護を実践するために必要な関連諸理論と研究知見の批判的検討の方法を学ぶことを目的とする。 【キーワード】 クリティカルケア看護学、家族看護学、理論、概念				
【授業目標】	1. 理論分析および概念分析の手法を説明できる 2. 重症・救急患者とその家族への看護実践に活用できる理論・モデル・概念の概要を説明できる。 3. 重症・救急患者とその家族に起こる現象とその看護を理論・モデル・概念を用いて説明できる。 4. 重症・救急患者とその家族に関する研究の動向を説明できる。 5. 重症・救急患者とその家族に関する最新の研究知見に基づく看護実践を説明できる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンラインによる授業 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディベート ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回：授業ガイダンス、クリティカルな状態にある患者と家族に関する看護の現状 第 2 回：理論分析の方法 第 3 回：概念分析の方法 第 4 回：重症・救急患者とその家族に活用できる理論・モデル・概念①：危機モデル 第 5 回：重症・救急患者とその家族に活用できる理論・モデル・概念②：コンフォート理論 第 6 回：重症・救急患者とその家族に活用できる理論・モデル・概念③：ストレス・コーピング理論 第 7 回：重症・救急患者とその家族に活用できる理論・モデル・概念④：移行理論 第 8 回：重症・救急患者とその家族に活用できる理論・モデル・概念⑤：不確かさ理論 第 9 回：重症・救急患者とその家族に活用できる理論・モデル・概念⑥：家族理論 第 10 回：最新の重症・救急患者とその家族への看護に関する研究論文の批判的検討① 第 11 回：最新の重症・救急患者とその家族への看護に関する研究論文の批判的検討② 第 12 回：重症・救急患者とその家族への看護援助の検討① 第 13 回：重症・救急患者とその家族への看護援助の検討② 第 14 回：重症・救急患者とその家族の直面する倫理的課題 第 15 回：まとめ				
【事前・事後課題】	主体的に研究に参画し研究能力と専門性を発揮できるよう事前準備と事後学習を行う。授業ごとの個別課題は各授業回で指示する。				
【準備学習時間】	各授業回で指示する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	実践看護学応用演習 I				
【評価方法】	課題レポート(50%)、プレゼンテーション内容(30%)、ディスカッション時の参加姿勢・発言内容(20%)で評価する。				
【フィードバックの方法】	各授業回で指導教員が口頭で助言する。内容によっては別途個別に助言する。				
【テキスト】	Theoretical Nursing 6 th edition(2018)／Meleis A.I.／Wolters Kluwer／ISBN:978-0-06-000042-4				
【参考書】	適宜、授業内で紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	実践看護学特論Ⅱ		【科目英語名】	Special study of Clinical NursingⅡ	
【開講時期】	2026 年前期	【必選区分】	□必修 □選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☑講義 □演習 □実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	山田 紋子				
【担当教員】	山田 紋子				
【DP との関連】	☑DP1 □DP2 □DP3 ☑DP4				
【授業概要】	諸理論、最新の研究知見を基盤として、治療を受けながら闘病し療養する患者・家族の生命、生活と人生 (life)、尊厳に関わるさまざまな看護上の課題を多面的に追究する。また、理論と研究の関係を理解するとともに、研究過程の初段階にあたる関心がある現象・研究課題の明確化の助けとなる概念分析の方法を学ぶ。 【キーワード】成人看護学、概念分析、中範囲理論、がん看護学、周術期看護学				
【授業目標】	1. 概念分析の目的、意義、方法を理解することができる。 2. 治療を受けながら闘病し療養する患者・家族への看護実践に活用する主要な理論・モデル・概念を理解し、患者・家族の現象を説明することができる。 3. 関心があるテーマに関する看護実践について、最新の研究知見に基づき批評することができる。 4. 治療を受けながら闘病し療養する患者・家族への看護に関する倫理的課題について考えることができる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面授業とする。ただし、希望者はオンライン双方向による受講も可能である。 【アクティブラーニングを促す方法】 ☑A ディスカッション／ディベート □B グループワーク ☑C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回 授業ガイダンス、看護学における理論と研究 第2回 概念分析① 第3回 概念分析② 第4回 治療を受けながら闘病し療養する患者・家族への看護実践に活用する理論・モデル・概念① ストレス・コーピング理論 第5回 治療を受けながら闘病し療養する患者・家族への看護実践に活用する理論・モデル・概念② 危機モデル 第6回 治療を受けながら闘病し療養する患者・家族への看護実践に活用する理論・モデル・概念③ 自己概念・ボディイメージ 第7回 治療を受けながら闘病し療養する患者・家族への看護実践に活用する理論・モデル・概念④ 自己効力感・Locus of Control・保健行動理論 第8回 治療を受けながら闘病し療養する患者・家族への看護実践に活用する理論・モデル・概念⑤ セルフケア理論 第9回 治療を受けながら闘病し療養する患者・家族への看護実践に活用する理論・モデル・概念⑥ 病みの軌跡理論・病気の不確かさ理論 第10回 最新の研究知見を基にした看護実践の検討① 第11回 最新の研究知見を基にした看護実践の検討② 第12回 最新の研究知見を基にした看護実践の検討③ 第13回 治療を受けながら闘病し療養する患者の家族に対する看護支援 第14回 治療を受けながら闘病し療養する患者・家族に対する看護実践における倫理的課題 第15回 まとめ				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。 その他の授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	自分の能力に応じて、各自で設定する。				
【履修条件】	なし。				
【関連科目】	なし。				
【評価方法】	課題レポート 50%、プレゼンテーション内容 30%、討議(参加への積極性、発言内容)20%				
【フィードバックの方法】	メールまた授業時に質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				

【テキスト】	看護における理論構築の方法／医学書院／Walker,L.O.,&Avant,K.C./中木高夫他(訳)／ISBN:978-4260006880 他は、授業中に適宜紹介する。		
【参考書】	看護における概念開発ー基礎・方法・応用／医学書院／Rodgers,B.L., &Knafl,K.A./近藤麻理他(監訳)／ISBN:978-4-260-04347-2 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第3版／学研メディカル秀潤社／黒田裕子(監)／ISBN:978-4780913996 その他、適宜紹介する。		
【備考】	※ 授業で取り上げる理論・モデル・概念は、学生の関心がある現象に従い、変更することがある。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	実践看護学特論Ⅳ		【科目英語名】	Special study of Clinical Nursing Ⅳ	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	山下早苗				
【担当教員】	山下早苗				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	小児看護実践を振り返り、理論を用いて現象の理解を深める。また、研究テーマに関する論文を読み、ディスカッションを通して批判的思考力を高める。 【キーワード】小児看護、対象、実践、理論、研究				
【授業目標】	1. 小児看護の対象について理論を用いて説明できる 2. 小児看護実践について理論を用いて説明できる 3. 研究テーマに関する論文について批判的思考ができる				
【授業展開】	【授業方法】対面もしくはオンラインによる講義、プレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディベート ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回：ガイダンス 第 2 回：自我発達理論を用いた対象理解 第 3 回：認知発達理論を用いた対象理解 第 4 回：家族発達理論を用いた対象理解 第 5 回：親子関係理論を用いた対象理解 第 6 回：症状マネジメント理論を用いた看護実践 第 7 回：セルフケア理論を用いた看護実践 第 8 回：子ども・家族・医療職者を対象にした小児看護に関する研究の動向 第 9 回：小児看護研究論文のクリティークの視点 第 10-15 回：各自の研究テーマに関する研究論文のクリティーク				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。 課題は初回のガイダンスおよび各授業回で指示する。				
【準備学習時間】	自分の能力に応じて、各自で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ				
【評価方法】	課題レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)、討議(40%)で総合的に評価する				
【フィードバックの方法】	質問はメールにて受け付ける。 内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護、中野綾美 監修、メディカ出版会、ISBN 9784840465151				
【参考書】	事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門 第 2 版、佐藤栄子 編著、日総研、ISBN9784776014140 看護実践に活かす中範囲理論 第 2 版、野川道子 編著、メジカルフレンド社、ISBN 9784839216122 よくわかる看護研究論文のクリティーク 第 2 版、松本清子、山川みやえ編著、日本看護協会出版会、ISBN 9784818022713				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	実践看護学特論 V		【科目英語名】	Special study of Clinical Nursing V	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	藤田景子				
【担当教員】	藤田景子、中川有加、永谷実穂、福島恭子、大和田裕美				
【DP との関連】	☐ DP1 ☐ DP2 ☒ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	周産期の母子や家族の健康課題を解決するために、Evidence-based Midwifery を活用して、エビデンスに基づく助産ケア、および女性中心のケアを提供できる基礎的能力を身につける。エビデンスに基づいた助産ケアの考え方やその実際を、Evidence-based Midwifery のステップを体験することで理解する。また、各自の助産学領域における関心テーマに関連した、既存の研究論文のクリティークを行い、各自の研究課題と研究の位置づけを明確にする。各回、テーマにそったゼミ形式で実施する。ゼミの発表者は、レジュメを作成し発表し、討論をすすめる。 【キーワード】 Evidence-based Midwifery、クリティーク				
【授業目標】	1. 助産学研究の目的と意義を説明できる。 2. 文献検索の方法が説明でき、実施できる。 3. 文献検索によって入手した文献を読み、研究の概要を文献カードにまとめることができる。 4. シナリオから、それに関連する文献を検索して、Evidence-based Midwifery のステップに沿って検討して、ケアの方向性を明らかに説明できる。 5. 文献のクリティークの方法が理解でき、各自の関心あるテーマの文献をクリティークしながら読むことができる。 6. 自己の研究課題を明確にできる。 自己の研究課題に沿って、文献レビュー、研究計画書を記述できる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面、プレゼンテーション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディバード ☒B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回：ガイダンス（藤田） 第 2 回：文献検索方法（藤田） 図書館での演習 第 3 回：研究テーマに関する文献検索結果の発表（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第 4 回：研究の枠組みと研究方法のクリティーク（藤田、中川、永谷、福島、大和田） Evidence-based Midwifery 課題について（1） 第 5 回：Evidence-based Midwifery 課題について（2）（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第 6 回：Evidence-based Midwifery 発表(1) RCT（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第 7 回：文献クリティーク 発表(1) 質問紙調査（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第 8 回：文献クリティーク 発表(2) 介入研究（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第 9 回：文献クリティーク 発表(3) 質的研究（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第 10 回：研究テーマに関する既存研究 発表（1）（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第 11 回：研究テーマに関する既存研究 発表（2）（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第 12 回：研究課題（research question）の検討 発表（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第 13 回：研究の意義、研究目的の検討 発表と討議（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第 14 回：研究課題と文献レビュー 発表(1)（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第 15 回：研究課題と文献レビュー 発表(2)（藤田、中川、永谷、福島、大和田）				
【事前・事後課題】	・Evidence-based Midwifery、文献クリティーク（1）、文献クリティーク（2）、文献クリティーク（3）の課題についてクリティークシートを用いてレポートを作成し、プレゼンテーションの準備を行う。 ・自分の関心あるテーマから研究課題を明確にして、それに関する文献検索、文献カードの作成を行う。 ・各自の関心ある研究課題について文献レビューを作成する。				
【準備学習時間】	各自で課題の取り組み状況に応じて、主体的に計画を立案して各自が設定する。				

【履修条件】	なし		
【関連科目】	実践看護学応用演習Ⅴ、実践看護学特別研究		
【評価方法】	Evidence-based Midwifery のレポート、プレゼンテーション、ディスカッション (25%) 文献クリティーク (1) レポート、プレゼンテーション、ディスカッション (15%) 文献クリティーク (2) レポート、プレゼンテーション、ディスカッション (15%) 文献クリティーク (3) レポート、プレゼンテーション、ディスカッション (15%) 各自の研究課題に関する文献レビュー、プレゼンテーション (30%)		
【フィードバックの方法】	内容に応じて授業の中で返答する。		
【テキスト】	1. パーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第9版-評価・統合・エビデンスの生成(2021/2023) / Grove J.R. & Gray S.K (著). 黒田裕子・逸見功・佐藤富美子(監訳) / ELSEVIER / ISBN: 978-4-86034-794-9		
【参考書】	1. ステップアップ EBM 実践ワークブック—10 級から始めて師範代をめざす / 名郷直樹 / 南江堂 / ISBN: 978-4524253685 2. カールヘネガン, 斉尾武郎監訳 / EBM の道宝箱 第2版 / 中山書店, 2007 / ISBN: 978-4521677811 3. 実践のステップでみる EBN (2002). EB Nursing. 2(4) 4. エビデンスを使える実践者になろう (2009). EB Nursing. 9(2) 5. 根拠にもとづく助産ケアの進め方. (2007). 助産雑誌. 61(6) 6. ポーリット&ベック 看護研究-第3版 (2025) / Polit, D.F., & Beck, C.T. (著). 坂下玲子(監訳) / 医学書院 / ISBN: 978-4-260-05706-6 その他、適宜、紹介する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	実践看護学応用演習Ⅰ		科目英語名	Exercise in Clinical NursingⅠ	
【開講時期】	2026 年前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	林みよ子				
【担当教員】	林みよ子				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	本授業は、実践看護学特論Ⅰでの学びを深め、自己の臨床経験に基づく研究課題を明確化し、その研究課題を解明するための研究計画書を立案して、一連の研究プロセスを学ぶことを目的とする。 【キーワード】 研究課題の明確化、研究計画				
【授業目標】	1. 自己の臨床経験に基づく関心ある現象をもとに自己の研究テーマを明確化できる 2. 自己の研究テーマに関連する文献をクリティークできる 3. 文献クリティークの結果から自己の研究課題と研究の意義を説明できる 4. 自己の研究課題に適した研究方法を立案できる 5. 自己の研究計画に伴う倫理的問題とそれに対する対応を説明できる 6. 自己の研究課題を解決するための研究計画書を作成できる				
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンラインによる授業 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディバード ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回～第3回：臨床経験における関心ある現象の記述、研究テーマの明確化 第4回～第6回：研究テーマに関連する文献マトリックスの作成 第7回～第9回：研究テーマに関連する国内外の文献クリティーク：国内文献 第10回～第13回：研究テーマに関連する国内外の文献クリティーク：海外文献 第14回～第15回：研究テーマに関連する国内外の文献クリティークのまとめ 第16回～第18回：研究課題の明確化 第19回～第21回：自己の研究課題に適した研究方法の検討 第22回～第30回：研究計画書の作成、倫理的問題とその対応の検討				
【事前・事後課題】	主体的に研究に参画し専門性を発揮できるよう事前準備と事後学習を行う。授業ごとの個別課題は各授業回で指示する。				
【準備学習時間】	各授業回で指示する。				
【履修条件】	実践看護学特論Ⅰを履修していること				
【関連科目】	研究法Ⅰ、研究法Ⅱ、実践看護学特論Ⅰ				
【評価方法】	研究計画書(60%)、プレゼンテーション内容(30%)、ディスカッション時の参加姿勢・発言内容(10%)で評価する				
【フィードバックの方法】	各授業回で指導教員が口頭で助言する。内容によっては別途個別に助言する。				
【テキスト】	ポーリット&ベック看護研究第3版／Polit,D.F., &Beck,C.T(著)坂下玲子(監訳)／医学書院／ISBN 978-4-260-05706-6				
【参考書】	授業内で紹介する				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	実践看護学応用演習Ⅱ		【科目英語名】	Exercise in Clinical NursingⅡ	
【開講時期】	2025 年前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	山田 紋子				
【担当教員】	山田 紋子				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	科目「研究法Ⅰ・Ⅱ」で修得した研究方法論、科目「実践看護学特論Ⅱ」で深めた関心があるテーマに関する最新の研究知見や諸理論を基盤に、実際に、関心がある現象の記述化に取り組み、研究課題・研究目的の明確化、さらに目的を達成するための研究方法の検討を行い、修士論文研究計画書を作成することにより、研究計画立案の一連のプロセスを学ぶ。 【キーワード】研究デザイン、研究方法、研究計画				
【授業目標】	1. 関心がある現象を記述でき、それを基に研究問題を明確化することができる。 2. 研究問題に関連する文献の検索および検討ができる。 3. 自らの研究問題と文献検討の結果に基づき、研究課題および研究目的を明確化することができる。 4. 自らの研究課題において、研究を行う目的と意義を説明することができる。 5. 研究課題・研究目的に応じて、研究デザインを選択し、研究方法を立案することができる。 6. 自らの研究計画に伴う倫理的問題およびそれに対する対応を説明することができる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面授業とする。ただし、希望者はオンライン双方向による受講も可能である。 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディベート ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1～4回 関心がある臨床現場での現象の記述、研究問題(research problem)の明確化 第5～15回 文献検討 5: 文献検索の準備: 検索データベースの確認、キーワード、条件などの決定(国内文献、海外文献) 6～8: 研究問題に関する研究の動向の把握・クリティーク: 国内文献 9～13: 研究問題に関する研究の動向の把握・クリティーク: 海外文献 14～15: 文献検討のまとめ 第16～18回 研究課題(research question)・研究目的の明確化 第19～21回 研究デザインの検討 第22～30回 研究課題に関する研究計画書の作成 ① 研究課題の背景から研究目的にいたる論述 ② 文献検討のまとめ ③ 研究デザインに基づき、研究方法の立案 ④ 研究実施可能性の検討、研究の意義・倫理上の配慮の明確化、研究に必要な経費の獲得				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。 その他の授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	自分の能力に応じて、各自で設定する。				
【履修条件】	実践看護学特論Ⅱを履修していること				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、実践看護学特論Ⅱ				
【評価方法】	研究計画書の内容 70%、プレゼンテーション内容 20%、討議(参加への積極性、発言内容)10%				
【フィードバックの方法】	メールまた授業時に質問を受け付ける。 内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第9版／エルゼビアジャパン／Gray,J.R. & Grove,S.K./黒田裕子他(監訳)／ISBN: 978-4-86034-794-9 他は、授業中に適宜紹介する。				
【参考書】	ポリット&ベック 看護研究 第3版／医学書院／Polit,D.F., & Beck,C.T./坂下玲子(監訳)／ISBN: 978-4-260-05706-6 その他、適宜紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	実践看護学応用演習Ⅳ		【科目英語名】	Exercise Clinical Nursing Ⅳ	
【開講時期】	2026 年度前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	山下早苗				
【担当教員】	山下早苗				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	文献検討により研究課題を明確にする。また、研究課題に関する研究目的・研究方法を検討し、小児看護の貢献・寄与できる研究を推進するための研究計画を立案する。 【キーワード】小児看護、研究課題の明確化、研究方法、研究計画				
【授業目標】	1. 文献検討により研究課題を明確にできる 2. 研究課題に関する研究目的と意義を説明できる 3. 研究目的を達成するための研究デザイン・研究方法を立案できる 4. 研究計画に伴う倫理的問題および対応を説明できる				
【授業展開】	【授業方法】対面もしくはオンラインによる講義、プレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディベート ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回 ガイダンス 第 2 回～3 回 関心がある臨床現場の現象について説明と焦点化 第 4 回～10 回 関心がある現象について先行研究との比較・検討 第 11 回～12 回 研究課題・研究目的の明確化 第 13 回～14 回 研究デザインの検討 第 15 回～16 回 研究方法の検討 1:対象者の選定 第 17 回～18 回 研究方法の検討 2:調査方法の妥当性 第 19 回～20 回 研究方法の検討 3:倫理的配慮 第 21 回 研究課題に関する研究計画書の作成 1:研究課題の背景から研究目的にいたる論述 第 22 回～25 回 研究課題に関する研究計画書の作成 2:文献検討の論述 第 26 回～27 回 研究課題に関する研究計画書の作成 3:研究方法の立案と記述 第 28 回～29 回 研究対象者(実施施設)への依頼文書および同意書の作成 第 30 回 調査紙(またはインタビュー)のプレテスト				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。 課題は初回のガイダンスおよび各授業回で指示する。				
【準備学習時間】	自分の能力に応じて、各自で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、実践看護学特論Ⅳ				
【評価方法】	課題レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)、討議(40%)で総合的に評価する				
【フィードバックの方法】	質問はメールにて受け付ける。 内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	看護研究 原理と方法 第 2 版. D.F.ボーリット & C.T.ベック(著)/近藤潤子(監訳), 医学書院, ISBN 9784260005265				
【参考書】	看護における研究 第 2 版. 南裕子, 野嶋左由美 編, 日本看護協会, ISBN 9784818020665 看護研究 Step by Step. 黒田裕子 著, 医学書院, ISBN 9784260015967				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	実践看護学応用演習Ⅴ		【科目英語名】	Exercise in Clinical Nursing Ⅴ	
【開講時期】	2026 年度前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	藤田景子				
【担当教員】	藤田景子、中川有加、永谷実穂、福島恭子、大和田裕美				
【DPとの関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☒ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	各自の助産学上の関心事を研究課題として精選し、研究の概念枠組み、研究方法、研究対象の条件と数などを検討し、課題研究の研究計画書を作成する。 【キーワード】研究課題、研究計画書、文献レビュー				
【授業目標】	1. 研究課題を明確にできる。 2. 研究課題に沿った文献検討を実施でき、文章化できる。 3. 研究の目的、意義、用語の定義を明確にして文章化できる。 4. 研究目的に沿った研究デザイン、研究方法を選択でき、文章化できる。 5. 研究対象者を明確にし、また、フィールドを開拓できる。 6. 倫理的配慮について検討して文章化できる。 7. 研究を実施するにあたって必要な資料を作成できる。 8. 課題研究の研究計画書を完成して提出できる。				
【授業展開】	【授業方法】対面、グループ又は個別ゼミ形式 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディベート ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回：ガイダンス（藤田） 第2～第4回：研究テーマの明確化：関心のある臨床現場での現象の記述（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第5回～第8回：文献検討：研究課題に関する国内の研究の動向の把握（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第9回～第12回：文献検討：研究課題に関する海外の研究の動向の把握（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第13回～第14回：文献検討のまとめ 第15回～第17回：自己の研究課題、研究目的の明確化 第18回～第22回：自己の研究課題に適した研究対象と研究方法（分析方法含む）の決定（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第23-30回：研究課題に関する研究計画書の作成（藤田、中川、永谷、福島、大和田）				
【事前・事後課題】	関心あるテーマから研究課題を明確にする。 各自の進捗状況によってプレゼン資料を作成する。 ゼミでの意見やディスカッションでの内容を参考にして、課題研究の研究計画書を完成させる。				
【準備学習時間】	各自の準備状況によって、各自で設定する。個人により異なる。				
【履修条件】	実践看護学特論Ⅴの単位取得見込み				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、実践看護学特論Ⅴ、実践看護学特別研究				
【評価方法】	ゼミでの資料・プレゼンテーション(30%)、研究計画書(70%)で評価する。				
【フィードバックの方法】	授業の中でコメントする。質問には適宜返答する。				
【テキスト】	1. バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第9版—評価・統合・エビデンスの生成(2021/2023)／Grove J.R.& Gray S.K.(著)、黒田裕子・逸見功・佐藤富美子(監訳)／ELSEVIER／ISBN:978-4-86034-794-9				
【参考書】	1. ポーリット&ベック 看護研究-第3版(2025)／Polit,D.F., & Beck,C.T.(著)、坂下玲子(監訳)／医学書院／ISBN:978-4-260-05706-6 適宜紹介する				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	実践看護学特別研究		【科目英語名】	Special Research in Clinical Nursing	
【開講時期】	2026 年度前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	6 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	90 時間
【科目責任者】	林みよ子、山田紋子、山下早苗、藤田景子				
【担当教員】	林みよ子、山田紋子、山下早苗、藤田景子、中川有加、永谷実穂、福島恭子、大和田裕美				
【DP との関連】	☒ DP1 ☒ DP2 ☒ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	本授業は、一連の研究過程を修得し研究者としての姿勢を学ぶために、立案した研究計画書に基づいてデータの収集・分析を行い、修士論文としてまとめることを目的とする。 【キーワード】研究過程、修士論文の作成				
【授業目標】	1. 研究計画書に沿ってデータを収集・分析し、結果としてまとめることができる。 2. 研究課題に応じて、論理的に考察できる。 3. 研究過程を論理的に、一貫性・整合性をもって、修士論文としてまとめることができる。 4. 修士論文の内容について、他者と議論することができる。 5. 修士論文を学内で公表することができる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディベート ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☒D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回～第3回：研究計画書を研究倫理審査委員会に申請し承認を受ける。 第4回～第6回：研究開始の準備を行う。 第7回～第9回：研究計画書に沿って研究を開始する。 第10回～第12回：研究進行中、適宜、必要な評価を行い、早期に問題の解決や調整を行う。 第13回～第15回：研究の場とデータ収集開始に向けて調整する。 第16回～第24回：データを収集し分析を行う。 第25回～第27回：分析結果をまとめる。 第28回～第35回：研究課題に従って結果を考察し、論文としてまとめる（適切な時期に中間発表を行う） 第36回～第38回：論文の推敲を繰り返し、論文として完成させる。 第39回～第41回：修士論文審査申請を行い、論文審査、最終試験を受ける。 第42回～第43回：修士論文の学内発表の準備を行う。 第44回～第45回：修士論文の投稿の準備を行う。				
【事前・事後課題】	主体的に研究に参画し研究能力と専門性を発揮できるよう、各授業回の内容に関する事前準備と、授業での学びの事後学習を行う。				
【準備学習時間】	各授業内容に関する理解度・習熟度に応じた時間の学習をする。				
【履修条件】	学生それぞれが所属する専門分野の実践看護学特論・実践看護学応用演習の単位を修得していること。				
【関連科目】	研究法Ⅰ、研究法Ⅱ、各実践看護学特論、各実践看護学応用演習				
【評価方法】	静岡県立大学大学院看護学研究科修士学位審査に関する細則に示す修士論文の審査基準に基づいて評価する。				
【フィードバックの方法】	各授業回で指導教員が口頭で助言する。内容によっては、別途個別に助言する。				
【テキスト】	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第9版－評価・統合・エビデンスの生成(2021/2023)／Grove J.R.& Gray S.K.(著)、黒田裕子・逸見功・佐藤富美子(監訳)／ELSEVIER／ISBN:978-4-86034-794-9				
【参考書】	ポーリット&ベック看護研究第3版／Polit,D.F., &Beck,C.T.(著)坂下玲子(監訳)／医学書院／ISBN 978-4-260-05706-6 その他、適宜、紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	広域看護学特論 I		【科目英語名】	Special study of Community Nursing 1	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	富安真理				
【担当教員】	富安真理、川村佐和子(外部講師)、野口有紀、木村綾、予定教員				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	地域で生活するあらゆる健康状態の人々とその家族を対象とした在宅看護に必要な主要概念、諸理論、社会保障制度を理解する。さらに、在宅看護学分野の研究動向を理解し、在宅看護実践の効果的な提供方法や評価法といった在宅看護の質の保証について学びを共有する。 【キーワード】 在宅看護、訪問看護、在宅看護の質保証				
【授業目標】	1. 在宅看護に関する主要概念、諸理論、社会保障制度を理解できる。 2. 地域包括ケアや訪問看護の現状と課題から、在宅看護実践の効果的な提供方法や評価法を説明できる。 3. 在宅看護学分野の研究動向を理解し、取り組むべき研究課題を述べることができる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディバード ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回 ガイダンス 第2回 在宅看護に関連する社会保障制度について（富安） 第3回 在宅看護の概念、活用する理論について①（富安） 第4回 在宅看護の概念、活用する理論について②（野口） 第5回 在宅看護の概念、活用する理論について③（野口） 第6回 在宅看護における質の保証について①（富安） 第7回 在宅看護における質の保証について②（木村） 第8回 在宅看護の提供方法やリスクマネジメントについて①（川村） 第9回 在宅看護の提供方法やリスクマネジメントについて②（川村） 第10回 在宅看護における多職種連携について①-静岡型地域包括ケアシステムの整備（静岡市） 第11回 在宅看護における多職種連携について②-退院支援（予定教員） 第12回 在宅看護における多職種連携について③-在宅医療と介護連携（富安） 第13回 在宅看護学分野における研究の動向①（受講生のプレゼンテーション） 第14回 在宅看護学分野における研究の動向②（受講生のプレゼンテーション） 第15回 まとめ（富安）				
【事前・事後課題】	主体的にクラスに参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前・事後学習を行う。クラスの個別課題は、各クラスにて指示する。				
【準備学習時間】	各クラスにて指示する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、家族看護特論、広域看護学応用演習Ⅰ、広域看護学特別研究				
【評価方法】	プレゼンテーション・討議(30%)、課題レポート(30%)、最終レポート(40%)、で評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降のクラス、または別途返答する。				
【テキスト】	看護研究 原理と方法 第3版／Polit,D.F., &Beck,C.T/坂下玲子(監訳)／医学書院／ISBN:978-4-260-05706-6 看護研究百科 第2版／ジョイス・J・フィッツパトリック、メレディス・ウォーレス著、岡谷恵子翻訳編／照林社／ISBN:978-4796521970 国民衛生の動向／厚生労働統計協会／ISBN:03854-08				
【参考書】	その他、適宜提示する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	可 受け入れに際し、事前面談を実施する。		【科目等履修生】	可 受け入れに際し、事前面談を実施する。	

【科目名】	広域看護学特論Ⅱ		【科目英語名】	Special study of Community Nursing Ⅱ	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	篁宗一				
【担当教員】	篁宗一				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	精神科看護学の基礎的知識である概論を学びながら、同時に最新の精神看護学・精神保健学の論文を幅広く読む。そして最新の知見についての理解を深める。特に医療現場だけにとどまらず、地域での支援方法についても考えを深める。 【キーワード】メンタルヘルスリテラシー、早期介入、思春期青年期、地域精神				
【授業目標】	1.医療機関を含む地域の精神看護の支援方法を理解する 2.最新の動向について理解を深め、論文に記載された内容を批判的に読み解く				
【授業展開】	【授業方法】 対面授業とする。ただし、希望者はオンライン双方向による受講も可能である。 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディベート ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回：オリエンテーション 第2回：精神健康の概念 第3回：精神健康の概念 第4回：精神障害の予防 第5回：精神障害の予防 第6回：心の機能と発達 第7回：心の機能と発達 第8回：心の機能と発達 第9回：訪問看護 第10回：リエゾン精神看護 第11回：病気と心理社会的反応 第12回：精神科の医療現場について 第13回：司法精神看護 第14回：性同一性障害について 第15回：作業所の精神障害者と家族				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。 授業毎の課題は各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	家族看護特論				
【評価方法】	発表や討議への参加(50%)、レポート(50%)を総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	授業中の質問は時間内に返答する。その他の質問は内容に応じて次回の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	精神看護学Ⅰ[第6版]—精神保健学—／吉松 和哉、小泉 典章、川野 雅資 編集／ヌーヴェルヒロカワ／ISBN:978-4-86174-064-0				
【参考書】	適宜紹介する				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	広域看護学特論Ⅲ		【科目英語名】	Special study of Community Nursing Ⅲ	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	鈴木千智				
【担当教員】	鈴木千智、栗田真由美				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	公衆衛生看護学の基本的概念や諸理論について理解を深め、自己の実践活動を振り返りながら、公衆衛生看護の専門機能について理解を深める。さらに、公衆衛生看護学の論文をとおして地域における看護活動の課題を把握し、その解決方法を検討する。 【キーワード】公衆衛生看護に関連する理論と概念、公衆衛生看護活動、公衆衛生看護の本質				
【授業目標】	1. 自己の実践活動を公衆衛生看護学の基本的概念や諸理論とつなぎ、公衆衛生看護の専門機能を理解できる。 2. 我が国における公衆衛生看護学の論文をとおして特定集団ごとの看護活動の動向を理解し、課題を整理して、その解決方法を提案することができる。				
【授業展開】	【授業方法】対面によるプレゼンテーションおよびディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディバード ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回：オリエンテーション、公衆衛生看護とは（鈴木、栗田） 第 2 回：健康の社会的決定要因（鈴木、栗田） 第 3 回：公衆衛生看護における倫理（鈴木、栗田） 第 4 回：公衆衛生看護の対象（個人・家族・集団／組織・地域）（鈴木、栗田） 第 5 回：公衆衛生看護の対象へのアプローチ～個人・家族～（鈴木、栗田） 第 6 回：公衆衛生看護の対象へのアプローチ～集団／組織・地域～（鈴木、栗田） 第 7 回：公衆衛生看護におけるエビデンスの活用（鈴木、栗田） 第 8 回：公衆衛生看護におけるエビデンスの創出（鈴木、栗田） 第 9 回：公衆衛生看護学研究の動向（鈴木、栗田） 第 10 回：公衆衛生看護活動の課題～親子保健の論文からの検討～（鈴木、栗田） 第 11 回：公衆衛生看護活動の課題～成人保健の論文からの検討～（鈴木、栗田） 第 12 回：公衆衛生看護活動の課題～高齢者保健の論文からの検討～（鈴木、栗田） 第 13 回：公衆衛生看護活動の課題～キャリア発達に関する論文からの検討～（鈴木、栗田） 第 14 回：公衆衛生看護の本質（鈴木、栗田） 第 15 回：まとめ（鈴木、栗田）				
【事前・事後課題】	オリエンテーション時に事前課題を提示する。専門性を修得できるよう事後学習を行う。				
【準備学習時間】	講義に参加する準備に必要な時間を各自で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、広域看護学応用演習Ⅲ				
【評価方法】	講義時のプレゼンテーション(40%)、ディスカッションへの参加度(30%)、課題レポート(30%)を総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	授業時間内の質問等はその場でコメントする。メールによる質問等には内容によりメールあるいは次回授業時にコメントする。				
【テキスト】	公衆衛生看護学テキスト①公衆衛生看護学原論 第 2 版／責任編集麻原きよみ／医歯薬出版株式会社／978-4-263-23804-2				
【参考書】	適宜紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	広域看護学特論Ⅳ		【科目英語名】	Special study of Community Nursing Ⅳ	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	小池潤				
【担当教員】	小池潤				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	老年看護学の対象を理解し、老年看護における課題を明確にする。老年看護で用いられる理論・発達課題や研究の動向を活用し、高齢者医療および支援に関する課題解決に向けて専門性を発揮する能力を養う。 【キーワード】老年看護、老年看護課題、高齢者支援				
【授業目標】	1. 高齢者に関わる諸問題・課題に向き合い、高齢者の看護について自己の考えを説明できる。 2. 老年看護で用いられる理論・発達課題を活用して、老年看護の専門性を説明できる。 3. 老年看護学に関連する論文から看護課題を整理し、その解決方法を提案することができる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面によるプレゼンテーションおよびディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディベート ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回 授業ガイダンス、課題の説明 老年看護に関する主要概念の理解 第2回 対象者の理解：老年看護における看護の対象とは 第3回 老年看護における課題①：健康問題 第4回 老年看護における課題②：生活・社会問題 第5回 老年看護における課題③：倫理的課題 第6回 老年看護における課題④：心理的課題 第7回 老年看護で用いられる理論の活用 第8回 老年看護で用いられる発達課題の活用 第9回 高齢者の健康支援に関連した研究の動向①：質的研究 第10回 高齢者の健康支援に関連した研究の動向②：量的研究 第11回 老年看護における課題への接近法①：介護支援専門員が捉える対象者、課題、接近法 第12回 老年看護における課題への接近法②：対象や対象がおかれている状況理解 第13回 超高齢社会を支える看護：高齢者の望む生活 第14回 超高齢社会を支える看護：超高齢化社会を支える展望 第15回 まとめ				
【事前・事後課題】	オリエンテーション時に事前課題を提示する。専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。				
【準備学習時間】	講義に参加する準備に必要な時間は各自で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、広域看護学応用演習Ⅳ、広域看護学特別研究				
【評価方法】	プレゼンテーション(40%)、ディスカッションへの参加度(30%)、課題レポート(30%)を総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	授業時間内の質問等にはその場でコメントする。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	適宜紹介する				
【参考書】	老年期 生き生きしたかわりあい／E.H エリクソン(訳朝長正徳他)／みすず書房／ ISBN:978-4622049029 その他、適宜提示する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	広域看護学特論Ⅴ		【科目英語名】	Special study of Community Nursing Ⅴ	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	榊原 直喜				
【担当教員】	榊原 直喜				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	本授業は、看護職が行うヘルスサービスリサーチを想定し、保健医療福祉領域におけるヘルスケアサービスの対象となる人および健康の概念を、ケアの質やアウトカムを評価・改善する視点から理解することを目的とする。看護が捉える人間理解や健康の概念をヘルスケアサービスの構造・プロセス・アウトカムと関連づけて整理し、それらを研究上のアウトカムとしてどのように定義・測定・評価するかを学ぶ。 本科目は、履修者による主体的な自己学習を前提とし、関心領域における海外文献の精読、プレゼンテーションおよびディスカッションを中心に進行する。これらを通じて、看護領域における質改善およびアウトカム評価に焦点を当てたヘルスサービスリサーチの研究計画を立案するための基礎的能力を養う。 【キーワード】 Health Services Research, Healthcare Quality, Quality Improvement, Patient-Reported Outcomes, People-Centered Car, Structure-Process-Outcome Model, Logic Mode, PDCA Cycle				
【授業目標】	1. 看護が捉える人間理解および健康の概念をヘルスケアサービスの質やアウトカム評価の視点から説明できる。 2. ヘルスケアサービスの構造・プロセス・アウトカムの関係を踏まえ、看護領域における質改善(QI)やアウトカム評価の課題を整理できる。 3. 看護領域におけるヘルスサービスリサーチに関する国内外の文献を批判的に精読し、その理論的背景や方法論を説明できる。 4. 人間理解および健康概念に基づき、看護領域におけるヘルスケアサービスの質改善やアウトカム評価を目的とした研究計画を立案できる。				
【授業展開】	【授業方法】 本科目は、履修者による自己学習およびプレゼンテーションを中心に展開する。各回において、履修者は自身の関心領域に基づいて選定した文献を精読し、内容を理論的・方法論的観点から整理したうえでプレゼンテーションを行う。授業内では、教員および履修者間でのディスカッションを通じて、文献の妥当性、看護学的意義、質改善やアウトカム評価への応用可能性について検討を行う。これらの過程を通じて、履修者は段階的に研究の問いを明確化し、最終的に看護領域におけるヘルスサービスリサーチの計画立案へとつなげる。 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディベード ☒B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回：ガイダンス 第 2 回：ヘルスケアサービスと看護の役割 第 3 回：ヘルスケアサービスにおける教育・研究・実践の変遷 第 4 回：看護が捉える人間理解と健康の概念(1) 第 5 回：看護が捉える人間理解と健康の概念(2) 第 6 回：ヘルスケアサービスにおける研究の基本枠組(1) 第 7 回：ヘルスケアサービスにおける研究の基本枠組(2) 第 8 回：ヘルスケアサービスの構成要(1) 第 9 回：ヘルスケアサービスの構成要(2) 第 10 回：ヘルスケアサービスの提供方法と質改善(1) 第 11 回：ヘルスケアサービスの提供方法と質改善(2) 第 12 回：ヘルスケアサービスのアウトカム(1) 第 13 回：ヘルスケアサービスのアウトカム(2) 第 14 回：看護領域におけるヘルスサービスリサーチ 第 15 回：研究計画(最終課題)の発表				

【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行うこと。 各回の具体的なプレゼンテーション内容については、授業ガイダンスおよび各授業にて指示する。		
【準備学習時間】	自身の能力に応じて各自で設定する。		
【履修条件】	基礎的な疫学統計の知識を有していること。		
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、広域看護学応用演習Ⅴ、広域看護学特別研究		
【評価方法】	本科目の成績は、以下の評価項目を総合的に評価して判定する。 ・文献精読・プレゼンテーション(40%) 選定した文献の妥当性、内容理解の深さ、理論・方法論の整理、発表の構成・明瞭性を評価する。 ・授業内ディスカッションへの参加(20%) 他者の発表に対する質問・コメントの内容、批判的視点、建設的な議論への貢献度を評価する。 ・最終課題:研究計画書(40%) 看護領域におけるヘルスサービスリサーチとしての妥当性、研究目的・研究課題の明確さ、人間理解・健康概念とアウトカム評価・質改善との整合性を評価する。		
【フィードバックの方法】	各回の授業で受けた質問は、授業時間内に口頭にて助言するが、内容によっては次回以降の授業回に対応する。 授業前もしくは授業後は、ユニパQAにて受け付け、回答はユニパ上もしくは授業時に口頭にて助言する。		
【テキスト】	・Understanding Health Services, 2nd Edition / Gurol-Urganci, Ipek, Campbell, Fiona, Black, Nick Open University Press / ISBN : 978-0335262144 ・その他、必要に応じて提示する。		
【参考書】	・Key concepts for the study and practice of nursing / Marjorie L. Byrne, Lida F. Thompson ISBN : 080-1609194 ・Epidemiology: An Introduction (3rd edn) / Kenneth J. Rothman, Krista F. Huybrechts, Eleanor J. Murray ISBN : 978-0197751541 ※いずれも小鹿図書館に所蔵あり ・その他、必要に応じて提示する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。 ※感染症拡大の影響により、オンライン双方向授業に変更する可能性がある。 ※学習テーマは、履修者のサブスペシャリティや関心により変更することがある。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	広域看護学特論VI		【科目英語名】	Special study of Community Nursing VI	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	竹熊カツマタ麻子				
【担当教員】	竹熊カツマタ麻子				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	World Health Organization(WHO)の Primary Health Care 等の国際保健の実践モデルについて学ぶとともに、グローバルヘルスにおける研究の役割を理解する。グローバルヘルスにおける具体的な健康課題に対する研究・調査などの方法や実践の実例から考察の視点を学ぶ。すべての人に健康をもたらすために研究がどのような役割を担っているか考察する。 【キーワード】 プライマリーヘルスケア (PHC)、グローバルヘルス(国際保健)、 World Health Organization (WHO)、 グローバルヘルスリサーチ				
【授業目標】	1. 国際保健の概念の枠組み、実践のモデルについて説明することができる。 2. World Health Organization (WHO)の報告書、または研究結果から世界における健康課題について説明することができる。 3. World Health Organization (WHO)の報告書、または調査報告から、グローバルヘルスにおける研究ではどのような研究方法が用いられているか説明できる。				
【授業展開】	【授業方法】対面もしくはオンラインによる講義、プレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒ A ディスカッション／ディベート ☐ B グループワーク ☒ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回： 授業ガイダンス、国際保健(グローバルヘルス)総論 (竹熊) 第 2 回： Primary Health Care (PHC) (竹熊) 第 3 回： Primary Health Care (PHC) (竹熊) 第 4 回： Global health ethics (竹熊) 第 5 回： Global health research: 総論 (竹熊) 第 6 回： Global health research: リサーチクエスト (竹熊) 第 7 回： Global health research: 方法論 (竹熊) 第 8 回： Global health research: サンプルング (竹熊) 第 9 回： Global health research: 分析と分析における視点(竹熊) 第 10 回： 研究事例検討: 母子保健 (竹熊) 第 11 回： 研究事例検討: 感染症 (竹熊) 第 12 回： 研究事例検討: 異常気象による健康への影響(竹熊) 第 13 回： 研究事例検討: 精神保健 (竹熊) 第 14 回： 研究事例検討: ジェンダー、LGBTQ+ (竹熊) 第 15 回： まとめ				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。 授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。World Health Organization のウェブサイトから各自興味のある分野の報告書も積極的に読むようにすること。 https://www.who.int/				
【準備学習時間】	自分の能力に応じて、各自で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	広域看護学応用演習VI				
【評価方法】	課題レポート(30%)、プレゼンテーション(40%)、討議 (30%)から総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	提出された課題については後日コメントを返却する。質問はメールにて受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	本科目では World Health Organization(WHO) より出版されている報告書、文献、ガイドライン等を使用する。(WHO のウェブサイトからダウンロード可能) 適宜示す。 https://www.who.int/				
【参考書】	参考書、参考文献は単元ごとに適宜示す。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	広域看護学応用演習Ⅰ		【科目英語名】	Exercise in Community NursingⅠ	
【開講時期】	2026 年度前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	富安真理				
【担当教員】	富安真理、予定教員				
【DPとの関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	一連の研究過程を理解するために、研究課題の明確化から研究計画を立案する。主体的な学生のプレゼンテーションおよび学生・教員間の討議により進める。プレゼンテーションに対して、ディスカッションを通じてフィードバックをする。 【キーワード】 研究課題の明確化、研究方法、研究計画				
【授業目標】	1. ケーススタディの理論と技法を用いて、関心のあるテーマについて説明できる。 2. 自らの関心のあるテーマについて、文献のクリティークや文献マップを実施できる。 3. 自らの研究課題において、研究を行う目的と意義を説明することができる。 4. 研究課題に適した研究デザイン・研究方法を選択できる。 5. 自らの研究計画に伴う倫理的配慮について説明することができる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディベート ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☒D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回 ガイダンス(富安) 第2回～3回 ケーススタディ(事例研究法)の理論と技法(予定教員) 第4回～6回 関心がある看護現象の記述① -フィールドワーク(富安、予定教員) 第7回～8回 関心がある看護現象の記述② -受講生による事例報告(富安、予定教員) 第9回～12回 文献クリティーク① -研究課題・研究目的の明確化(富安、予定教員) 第13回～14回 文献クリティーク② -方法の検討(富安、予定教員) 第15回～16回 文献クリティーク③ -文献マップ・文献要約の作成(富安、予定教員) 第17回～19回 研究課題に関する研究計画書の作成① -研究課題の背景から研究目的にいたる論述(富安、予定教員) 第20回～24回 研究課題に関する研究計画書の作成② -文献検討(富安、予定教員) 第25回～26回 研究課題に関する研究計画書の作成③ -研究方法の立案(富安、予定教員) 第27回～28回 研究課題に関する同意書の作成 -研究を実施する上での倫理的配慮(富安、予定教員) 第29回～30回 対象者・実施事業所等への依頼文等の作成 -研究協力の依頼(富安、予定教員)				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前・事後学習を行う。 クラスの個別課題は、各クラスにて指示する。				
【準備学習時間】	各クラスにて指示する。				
【履修条件】	広域看護学特論Ⅰの単位を取得見込みであること。				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、広域看護学特論Ⅰ				
【評価方法】	研究計画書の内容(50%)、プレゼンテーション(50%)で評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降のクラス、または別途返答する。				
【テキスト】	看護研究 原理と方法 第3版／Polit,D.F., & Beck,C.T/坂下玲子(監訳)／医学書院／ISBN:978-4-260-05706-6				
【参考書】	その他、適宜提示する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	広域看護学応用演習Ⅱ		【科目英語名】	Exercise in Community Nursing Ⅱ	
【開講時期】	2026 年度前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	篁宗一				
【担当教員】	篁宗一				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	学会やシンポジウムなどの参加、当事者との交流、実際の現場に働く精神科の看護師からの体験談、ロールプレイ、医療機関や公的な相談機関の見学実習などを通じ、幅広い精神保健福祉の動向を理解することで現場感覚を養い、実践的な支援の方法を学ぶ。 【キーワード】メンタルヘルス、ライフイベント、ライフステージ、精神障害				
【授業目標】	1.当事者や各専門職がおかれた背景について体験談等をもとに理解する。 2.精神保健福祉の動向を多職種との交流や資料をもとに理解する。				
【授業展開】	【授業方法】 対面授業とする。ただし、希望者はオンライン双方向による受講も可能である。 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディバード ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回：オリエンテーション 第2～5回：精神科看護の最近の動向 第6～12回：当事者が語る精神看護 第13～20回：ライフステージごとにみた精神看護 第21～30回：論文の選定と要約、発表、まとめ				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。 授業毎の課題は各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。				
【履修条件】	広域看護学特論Ⅱを受講していること。				
【関連科目】	広域看護学特論Ⅱ				
【評価方法】	プレゼンテーション(50%)、実技演習評価(50%)				
【フィードバックの方法】	授業中の質問は時間内に返答する。その他の質問は内容に応じて次回の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	プログラム評価ハンドブック／山谷清志監修／晃洋書房／ISBN:978-4-7710-3396-2				
【参考書】	適宜紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	広域看護学応用演習Ⅲ		【科目英語名】	Exercise in Community Nursing Ⅲ	
【開講時期】	2026 年度前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	鈴木千智				
【担当教員】	鈴木千智、栗田真由美				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	公衆衛生看護学に関する国内外の論文を概観し、履修生が関心のある領域の研究論文のレビューを行う。履修生によるプレゼンテーションと討議をととして履修生自身がリサーチクエストを設定し、研究課題、研究目的、研究方法を検討する。 【キーワード】研究課題の明確化、研究方法、研究計画				
【授業目標】	1. 公衆衛生看護学に関する国内外の研究論文を検索し、主要な研究論文クリティークすることができる。 2. クリティークしたなかから関心のあるテーマについて課題を明らかにすることができる。 3. 関心のある研究課題に関連した研究論文を検索し、文献レビューを行うことができる。 4. リサーチクエストを明らかにして、研究課題を明確化できる。 5. リサーチクエストへの答えを導き出すための研究方法を検討できる。				
【授業展開】	【授業方法】対面によるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディバード ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回：ガイダンス（鈴木） 第 2 回～9 回：研究課題に関連した研究論文クリティーク（鈴木、栗田） 第 10 回～15 回：研究課題の明確化（鈴木、栗田） 第 16 回～17 回：研究デザインの検討（鈴木、栗田） 第 18 回～20 回：研究方法の検討（鈴木、栗田） 第 21 回～24 回：研究計画書の作成－背景、目的－（鈴木、栗田） 第 25 回～30 回：研究計画書の作成－研究方法、倫理的配慮－（鈴木、栗田）				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参加し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は各授業回にて提示する。				
【準備学習時間】	自分の能力に応じて各自で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、広域看護学特論Ⅲ				
【評価方法】	講義時のプレゼンテーション(50%)、研究計画書の内容(50%)を総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	授業時間内の質問等にはその場でコメントする。メールによる質問等にはメールあるいは次回授業時にコメントする。				
【テキスト】	ポーリット&ベック 看護研究 第 3 版／Polit,D.F., &Beck,C.T.(2025). 坂下玲子(監訳),／医学書院／978-4-260-05706-6				
【参考書】	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第 9 版／Grove,S.K., &Gray,J.R.(2023). 黒田裕子他(監訳)／エルゼビア／978-4-86034-794-9 その他、適宜、紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	広域看護学応用演習Ⅳ		【科目英語名】	Exercise in Community Nursing Ⅳ	
【開講時期】	2026 年度前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	小池潤				
【担当教員】	小池潤				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	老年看護学領域の先行研究文献から、様々な研究課題やデザイン、方法、倫理的課題などを検討し、個人や家族、集団を対象とした研究の方向性とあり方を探究する。また、研究課題に関する文献レビューを通して、自身のリサーチ・クエスチョンを明確化し、研究課題、研究目的、研究方法を検討する。 【キーワード】研究課題の明確化、研究方法、研究計画				
【授業目標】	1. 老年看護領域における研究論文についてクリティークできる 2. 老年看護領域における研究課題と研究目的を明確にできる 3. 研究課題に関連した文献レビューができる 4. 研究方法を立案できる 5. 研究計画遂行のための条件を整備できる				
【授業展開】	【授業方法】 対面によるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディバード ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回 授業ガイダンス 第 2 回 老年看護領域における研究論文のクリティーク：質的研究 第 3 回 老年看護領域における研究論文のクリティーク：量的研究 第 4 回 老年看護領域における研究論文のクリティーク：関心のある研究 第 5 回 研究課題とリサーチ・クエスチョン、研究目的の明確化 第 6 回 研究課題に関連した文献レビュー：マインドマップの作成 第 7 回 研究課題に関連した文献レビュー：文献検索 第 8 回 研究課題に関連した文献レビュー：内容検討 第 9 回 研究課題に関連した文献レビュー：文献統合 第 10 回 研究課題に関連した文献レビュー：要約表の作成 第 11 回 研究方法の検討：研究デザイン、研究対象 第 12 回 研究方法の検討：データ収集方法と手順 第 13 回 研究方法の検討：分析方法の検討 第 14 回 研究方法の検討：分析方法の手順 第 15 回～16 回 研究課題の研究計画書作成：研究課題の研究計画のための条件整備 第 17 回～18 回 研究課題の研究計画書作成：研究課題の背景から研究目的に至る論述 第 19 回～21 回 研究課題の研究計画書作成：関連文献の検討結果まとめの記述 第 22 回～24 回 研究課題の研究計画書作成：研究デザイン、研究方法の記述 第 25 回～28 回 研究課題の研究計画書作成：計画した研究の実施可能性の検討、倫理的配慮の明確化 第 29 回～30 回 研究課題に関する同意書、依頼文書の作成				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	準備に必要な時間は各自で設定する				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、広域看護学特論Ⅳ				
【評価方法】	プレゼンテーション 50%、研究計画書の内容 50%として総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	授業時間内の質問等にはその場でコメントする。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	適宜紹介する				

【参考書】	よくわかる看護研究論文のクリティーク／山川みやえ，牧本清子／ISBN:978-4-8180-1849-5 文献レビューの基本／大木秀一／医歯薬出版／ ISBN:978-4-263-23581-2 その他、適宜提示する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	広域看護学応用演習Ⅴ		【科目英語名】	Exercise in Community NursingⅤ	
【開講時期】	2026 年度前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	榊原 直喜				
【担当教員】	榊原 直喜				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	本授業は、「広域看護学特論Ⅴ」で修得した理論・概念・方法論を基盤として、看護職が行うヘルスサービスリサーチを実践的に構想・展開する能力を養うことを目的とする。 看護が捉える人間理解および健康概念を前提に、ヘルスケアサービスの質改善およびアウトカム評価を対象とした研究課題を設定し、研究目的、アウトカム指標、研究デザイン、分析計画を具体化する過程を演習形式で学ぶ。 本科目は、履修者による主体的な自己学習を前提とし、研究計画書の作成、プレゼンテーション、相互フィードバックを中心に進行する。これらを通じて、看護領域におけるヘルスサービスリサーチの計画完成を目指す。 【キーワード】 Health Services Research, Healthcare Quality, Quality Improvement, Outcome Evaluation, Nursing Outcomes, Patient-Reported Outcomes, People-Centered Care, Logic Model, Research Design				
【授業目標】	1. 看護が捉える人間理解および健康概念を踏まえ、ヘルスサービスリサーチとして研究課題を具体化できる。 2. 質改善およびアウトカム評価を目的とした研究において、適切なアウトカム指標および評価方法を選定できる。 3. 看護領域におけるヘルスサービスリサーチの研究デザインおよび分析計画を研究目的に即して構築できる。 4. 修士論文研究へと接続可能な研究計画を作成し、他者からのフィードバックを踏まえて改善できる。				
【授業展開】	【授業方法】 履修者による研究計画書の作成およびプレゼンテーション、教員および履修者間でのディスカッション・相互フィードバック、必要に応じて教員からのミニレクチャーを行う。 ※本科目は演習科目として、討議・発表・修正の反復を重視する。 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディバード ☒B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☒D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回：ガイダンス 第 2 回：研究課題の精緻化 第 3 回：人間理解・健康概念の研究への組み込み 第 4 回：アウトカムの設定と概念的整理 第 5 回：アウトカム指標の具体化 第 6 回：Logic Model を用いた研究構造の考え方 第 7 回：研究デザインの検討(1) 第 8 回：研究デザインの検討(2) 第 9 回：分析計画の立案 第 10 回：文献レビューの深化 第 11 回：研究計画案プレゼンテーション(1) 第 12 回：研究計画案の修正 第 13 回：研究計画案プレゼンテーション(2) 第 14 回：研究計画の完成 第 15 回：研究計画の発表・総括				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行うこと。 各回の具体的な課題については、授業ガイダンスおよび各授業にて指示する。				

【準備学習時間】	自身の能力に応じて各自で設定する。		
【履修条件】	広域看護学特論Ⅴの単位を取得もしくは取得見込みであること。		
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、広域看護学特論Ⅴ、広域看護学特別研究		
【評価方法】	・プレゼンテーションおよび討議への参加:40% ・研究計画書の内容:60% ※研究への主体的な取り組みとフィードバックを踏まえた改善過程を重視する。		
【フィードバックの方法】	各回の授業で受けた質問は、授業時間内に口頭にて助言するが、内容によっては次回以降の授業回に対応する。授業前もしくは授業後は、ユニパ QA にて受け付け、回答はユニパ上もしくは授業時に口頭にて助言する。		
【テキスト】	・Designing Clinical Research, 5th ed. / W.S.Browner, T.B.Newman, S.R.Cummings, et al. / WOLTERS KLUWER ISBN : 978-1975174408 ・Understanding Health Services, 2nd Edition / Gurol-Urganci, Ipek, Campbell, Fiona, Black, Nick Open University Press / ISBN : 978-0335262144 ・Epidemiology: An Introduction (3rd edn) / Kenneth J. Rothman, Krista F. Huybrechts, Eleanor J. Murray ISBN : 978-0197751541 ・その他、必要に応じて提示する。		
【参考書】	必要に応じて提示する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。 ※感染症拡大の影響により、オンライン双方向授業に変更する可能性がある。 ※学習テーマは、履修者のサブスペシャリティや関心により変更することがある。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	広域看護学応用演習Ⅵ		【科目英語名】	Exercise in Community NursingⅥ	
【開講時期】	2026 年度前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	竹熊カツマタ麻子				
【担当教員】	竹熊カツマタ麻子				
【DP との関連】	☒ DP1 ☒ DP2 ☒ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	本科目においては、履修学生が国際看護、国際保健における研究課題について、文献検討、課題の選定、リサーチクエスチョンを明らかにするプロセスを経験する。研究方法についての検討を行い、遂行可能な研究計画を立案する。本科目は主体的な学生のプレゼンテーションおよび学生・教員間の討議により学生の思考を深める。 【キーワード】 研究課題の選定、リサーチクエスチョン、研究方法、研究計画書				
【授業目標】	研究計画書立案				
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディバード ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回 科目ガイダンス 研究のプロセスについて（竹熊） 第2回～3回 研究課題について（竹熊） 第4回～6回 研究の問いの洗練化・PICO(T)（竹熊） 第7回～8回 文献検討：研究課題に関する知識を得る（竹熊） 第9回～12回 文献検討：文献のクリティーク、文献の質について（竹熊） 第13回～14回 文献検討：文献検討による知の統合（竹熊） 第15回～16回 研究に用いる理論・モデルの検討 クリティーク（竹熊） 第17回～19回 研究に用いる理論・モデルの検討 応用（竹熊） 第20回～24回 研究課題に関する研究計画書の作成1（文献検討）（竹熊） 第25回～26回 研究課題に関する研究計画書の作成2（研究方法の選定）（竹熊） 第27回～28回 研究課題に関する倫理と倫理審査（竹熊） 第29回～30回 研究計画発表・まとめ（竹熊）				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	自分の能力に応じて、各自で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	広域看護学特論Ⅵ				
【評価方法】	プレゼンテーション(30%)、課題レポート(40%)、討議(30%)を統合して評価をする。				
【フィードバックの方法】	提出された課題は後日コメントを返却する。質問はメールにて受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。プレゼンテーションについてはディスカッションを通じてフィードバックをする。				
【テキスト】	看護研究 原理と方法 第3版／Polit, D. F. & Beck, C. T/坂下玲子(監訳)・坂下玲子・谷田恵子(訳) 医学書院／ISBN:978-4-260-05706-6 その他、適宜紹介する。				
【参考書】	その他、適宜提示する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。 ※感染症拡大の影響により、オンライン双方向授業に変更する可能性がある。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	広域看護学特別研究		【科目英語名】	Special Research in Community Nursing	
【開講時期】	2026 年度前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	6 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	90 時間
【科目責任者】	富安眞理、簗宗一、竹熊カツマタ麻子				
【担当教員】	富安眞理、簗宗一、竹熊カツマタ麻子、鈴木千智、予定教員				
【DPとの関連】	☒ DP1 ☒ DP2 ☒ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	研究課題に関連する最新の知見と研究方法の理解を深め、研究計画書に基づく倫理申請書を作成する。研究倫理審査委員会への申請・承認を得た後、研究計画書に沿ったデータ収集と分析を実施する。こうした一連の結果を導くまでの基本的な研究プロセスを修士論文の作成を通して経験し修得する。 【キーワード】 研究実施、論文作成				
【授業目標】	1. 研究計画書に基づく倫理申請書、説明書及び資料を作成することができる。 2. 研究計画に沿って、データ収集を行うことができる。 3. 研究計画に沿って、収集したデータを分析することができる。 4. 結果の導き方ならびに考察は、論理的で矛盾なく行うことができる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒ A ディスカッション／ディバード ☐ B グループワーク ☒ C プレゼンテーション ☒ D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回～3回 研究計画書を研究倫理審査委員会に申請し、承認を得る。 第4回～9回 研究フィールドとの調整、研究対象者の選定、資料の作成等、研究に関する準備を開始する。 第10回～12回 研究進行中、適宜、必要な評価を行い、早期に問題の解決や調整を行う。 第13回～22回 研究計画に沿って、データ収集、分析を行う。 第23回～25回 分析を結果としてまとめる。 第26回～36回 研究課題に従い、結果を考察し、論文としてまとめる(適切な時期に、中間発表を行う)。 第37回～39回 投稿規程に基づき、修士論文を提出する。 第37回～39回 修士論文審査申請を行い、論文審査、最終試験を受ける。 第40回～42回 修士論文を学内で発表する。 第43回～45回 研究終了後、協力していただいた施設や関係者に終了を報告する。				
【事前・事後課題】	主体的に研究に参画し、研究能力と専門性を発揮できるよう研究計画に基づき必要に応じて準備・確認等を行う。研究の実施に伴う課題については適宜、指導教員へ相談すること。				
【準備学習時間】	各自、研究計画の実施状況や自己の能力に応じて設定する。				
【履修条件】	研究法Ⅰ・Ⅱ、広域看護学特論、広域看護学応用演習の単位取得見込みであること。				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、広域看護学特論、広域看護学応用演習				
【評価方法】	静岡県立大学大学院看護学研究科修士学位審査に関する細則に示す修士論文の審査基準に基づいて評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降のクラス、または別途返答する。				
【テキスト】	看護研究 原理と方法 第3版／Polit, D.F., & Beck, C.T/坂下玲子(監訳)／医学書院／ISBN:978-4-260-05706-6				
【参考書】	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第9版／Grove, S.K., Burns, N., & Gray, J.R./黒田裕子他(監訳)／エルゼビアジャパン／ISBN:978-4-86034-794-9. その他、適宜、紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	助産学特論		【科目英語名】	Advanced lecture in Midwifery	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	藤田景子				
【担当教員】	藤田景子、中川有加、永谷実穂、福島恭子、大和田裕美				
【DPとの関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☒ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	周産期の母子や家族の健康課題を解決するために、Evidence-based Midwifery を活用して、エビデンスに基づく助産ケア、および女性中心のケアを提供できる基礎的能力を身につける。エビデンスに基づいた助産ケアの考え方やその実際を、Evidence-based Midwifery のステップを体験することで理解する。また、各自の助産学領域における関心テーマに関連した、既存の研究論文のクリティークを行い、各自の研究課題と研究の位置づけを明確にする。各回、テーマにそったゼミ形式で実施する。ゼミの発表者は、レジュメを作成し発表し、討論をすすめる。 【キーワード】 Evidence-based Midwifery、クリティーク、研究課題				
【授業目標】	1. 助産学研究の目的と意義を説明できる。 2. 文献検索の方法が説明でき、実施できる。 3. 文献検索によって入手した文献を読み、研究の概要を文献カードにまとめることができる。 4. シナリオから、それに関連する文献を検索して、Evidence-based Midwifery のステップに沿って検討して、ケアの方向性を明らかに説明できる。 5. 文献のクリティークの方法が理解でき、各自の関心あるテーマの文献をクリティークしながら読むことができる。 6. 自己の研究課題を明確にできる。 自己の研究課題に沿って、文献レビュー、研究計画書を記述できる。				
【授業展開】	【授業方法】対面、プレゼンテーション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディバード ☒B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回：ガイダンス（藤田） 第2回：文献検索方法（藤田） 図書館での演習 第3回：研究テーマに関する文献検索結果の発表（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第4回：研究の枠組みと研究方法のクリティーク（藤田、中川、永谷、福島、大和田） Evidence-based Midwifery 課題について（1） 第5回：Evidence-based Midwifery 課題について（2）（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第6回：Evidence-based Midwifery 発表（1）RCT（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第7回：文献クリティーク 発表（1）質問紙調査（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第8回：文献クリティーク 発表（2）介入研究（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第9回：文献クリティーク 発表（3）質的研究（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第10回：研究テーマに関する既存研究 発表（1）（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第11回：研究テーマに関する既存研究 発表（2）（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第12回：研究課題（research question）の検討 発表（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第13回：研究の意義、研究目的の検討 発表と討議（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第14回：研究課題と文献レビュー 発表（1）（藤田、中川、永谷、福島、大和田） 第15回：研究課題と文献レビュー 発表（2）（藤田、中川、永谷、福島、大和田）				
【事前・事後課題】	・Evidence-based Midwifery、文献クリティーク（1）、文献クリティーク（2）、文献クリティーク（3）の課題についてクリティークシートを用いてレポートを作成し、プレゼンテーションの準備を行う。 ・自分の関心あるテーマから研究課題を明確にして、それに関する文献検索、文献カードの作成を行う。 ・各自の関心ある研究課題について文献レビューを作成する。				
【準備学習時間】	各自で課題の取り組み状況に応じて、主体的に計画を立案して各自が設定する。				
【履修条件】	なし				

【関連科目】	助産学応用演習、助産学課題研究		
【評価方法】	Evidence-based Midwifery のレポート、プレゼンテーション、ディスカッション(25%) 文献クリティーク (1) レポート、プレゼンテーション、ディスカッション(15%) 文献クリティーク (2) レポート、プレゼンテーション、ディスカッション(15%) 文献クリティーク (3) レポート、プレゼンテーション、ディスカッション(15%) 各自の研究課題に関する文献レビュー、プレゼンテーション(30%)		
【フィードバックの方法】	内容に応じて授業の中で返答する。		
【テキスト】	1. パーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第9版-評価・統合・エビデンスの生成(2021/2023)/Grove J.R.& Gray S.K(著). 黒田裕子・逸見功・佐藤富美子(監訳)/ELSEVIER/ISBN: 978-4-86034-794-9		
【参考書】	1. ステップアップ EBM 実践ワークブック—10 級から始めて師範代をめざす/名郷直樹/南江堂/ ISBN:978-4524253685 2. カールヘネガン, 斉尾武郎監訳/EBM の道宝箱 第2版/, 中山書店, 2007/ISBN:978-4521677811 3. 実践のステップでみる EBN(2002). EB Nursing. 2(4) 4. エビデンスを使える実践者になろう(2009). EB Nursing .9(2) 5. 根拠にもとづく助産ケアの進め方. (2007). 助産雑誌. 61(6) 6. ポーリット&ベック 看護研究-第3版(2025)/Polit, D.F., & Beck, C.T.(著). 坂下玲子(監訳), /医学書院/ ISBN:978-4-260-05706-6 その他、適宜、紹介する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	助産学応用演習		【科目英語名】	Applied Exercise in Midwifery	
【開講時期】	2026 年度後期、 2027 年度前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	永谷実穂				
【担当教員】	永谷実穂、藤田景子、中川有加、福島恭子、大和田裕美				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☒ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	各自の助産学上の関心事を研究課題として精選し、研究の概念枠組み、研究方法、研究対象の条件と数などを検討し、課題研究の研究計画書を作成する。 【キーワード】研究課題、研究計画書、文献レビュー				
【授業目標】	1. 研究課題を明確にできる。 2. 研究課題に沿った文献検討を実施でき、文章化できる。 3. 研究の目的、意義、用語の定義を明確にして文章化できる。 4. 研究目的に沿った研究デザイン、研究方法を選択でき、文章化できる。 5. 研究対象者を明確にし、また、フィールドを開拓できる。 6. 倫理的配慮について検討して文章化できる。 7. 研究を実施するにあたって必要な資料を作成できる。 8. 課題研究の研究計画書を完成して提出できる。				
【授業展開】	【授業方法】対面、グループ又は個別ゼミ形式 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒ A ディスカッション／ディバード ☐ B グループワーク ☒ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回：研究課題の明確化：研究の助産学的意義、テーマにおける研究の動向(藤田、中川、永谷、福島、大和田) 第2回～第4回：関心のある現象の記述、研究課題の明確化(藤田、中川、永谷、福島、大和田) 第5回～第8回：文献検討：研究課題に関する国内の研究の動向の把握(藤田、中川、永谷、福島、大和田) 第9回～第12回：文献検討：研究課題に関する海外の研究の動向の把握(藤田、中川、永谷、福島、大和田) 第13回～第14回：文献検討のまとめ 第15回～第17回：自己の研究課題、研究目的の明確化 第18回～第22回：自己の研究課題に適した研究対象と研究方法(分析方法含む)の決定(藤田、中川、永谷、福島、大和田) 第23-30回：研究課題に関する研究計画書の作成(藤田、中川、永谷、福島、大和田)				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、ゼミでの意見やディスカッションでの内容を参考にし、関心あるテーマから研究課題を明確にする。各自の進捗状況によってプレゼンテーション資料を作成する。				
【準備学習時間】	各自の準備状況によって、各自で設定する。個人により異なる。				
【履修条件】	助産学特論の単位取得見込み				
【関連科目】	助産学特論、助産学課題研究				
【評価方法】	ゼミでの資料・プレゼンテーション(30%)、研究計画書(70%)で評価する。				
【フィードバックの方法】	授業の中でコメントする。質問には適宜返答する。				
【テキスト】	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第 9 版-評価・統合・エビデンスの生成(2021/2023)／Grove J.R.& Gray S.K.(著)、黒田裕子・逸見功・佐藤富美子(監訳)／ELSEVIER／ISBN:978-4-86034-794-9				
【参考書】	ポーリット&ベック 看護研究-第 3 版(2025)／Polit,D.F., & Beck,C.T.(著)、坂下玲子(監訳)／医学書院／ISBN:978-4-260-05706-6 その他適宜紹介する				

【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	妊娠期助産診断技術学		【科目英語名】	Antenatal Midwifery diagnosis and skills	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	藤田景子、長屋和美				
【担当教員】	藤田景子、長屋和美、中川有加、大和田裕美、円谷由子(非常勤)				
【DP との関連】	☐ DP1 ☒ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	妊娠期のケアの理念と目的をふまえ、妊娠期における女性の身体的・心理社会的変化に応じた健康の維持・増進、胎児の健康と発育、女性とその家族の出産・育児準備に向けた支援に必要な基本的な知識・技術を習得する。また、助産師職能団体の示す倫理綱領、必須能力を学び、妊婦・その家族にかかわる際の基本姿勢と態度について理解を深める。 【キーワード】妊娠期、健康診査、助産診断、助産過程、健康教育、周産期の栄養				
【授業目標】	1. 妊婦の健康診査および健康教育に必要な知識を習得し、助産診断および助産計画に反映できる。 2. 妊婦の健康診査に必要な技術を学び、実践に向けた資料を作成できる。 3. 行動科学・社会心理学に基づく理論・モデルを活用した健康教育の計画立案、ロールプレイができる。 4. 妊婦、胎児および家族の出産準備にかかわる助産師の責務について考えを述べることができる。				
【授業展開】	【授業方法】対面による講義、プレゼンテーション、ディスカッション、ロールプレイ 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディベート ☒B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回：ガイダンス(藤田、長屋、中川、大和田)、妊娠初期の助産診断①(長屋、藤田、中川、大和田) 第 2 回：妊娠初期の助産診断②(長屋、藤田、中川、大和田) 第 3 回：妊娠期の健康教育①(長屋) 第 4 回：周産期の栄養管理①(円谷) 第 5 回：周産期の栄養管理②(円谷) 第 6 回：妊娠初期の助産診断③(長屋、藤田、中川、大和田) 第 7 回：妊娠初期の助産診断④(長屋、藤田、中川、大和田) 第 8 回：妊娠中期の助産診断①(長屋、藤田、中川、大和田) 第 9 回：妊娠中期の助産診断②(長屋、藤田、中川、大和田) 第 10 回：妊娠期の健康教育②健康教育パンフレットの発表(長屋、藤田、中川、大和田) 第 11 回：妊娠期に用いる助産技術①(長屋、藤田、中川、大和田) 第 12 回：妊娠期に用いる助産技術②(長屋、藤田、中川、大和田) 第 13 回：妊娠期の健康教育ロールプレイ①(長屋、藤田、中川、大和田) 第 14 回：妊娠期の健康教育ロールプレイ②(長屋、藤田、中川、大和田) 第 15 回：産科外来における助産師の役割(ゲストスピーカー)				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画できるよう、分担課題について先行研究、ガイドラインを参照し、プレゼンテーション資料を作成する。グループディスカッションで抽出された課題に対し、事後学習を行う。				
【準備学習時間】	プレゼンテーション、ディスカッション、ロールプレイに必要な時間を各自で設定する。				
【履修条件】	助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可				
【関連科目】	助産診断学演習Ⅰ・Ⅱ、妊娠期助産診断技術学演習、助産学実習、リプロダクティブ・ヘルス演習				
【評価方法】	妊娠期助産診断(50%)、妊娠期の健康教育(50%)について、ルーブリック評価表を用いて評価する。				
【フィードバックの方法】	疑問・質問について次回授業回以降に学生相互のフィードバックおよび教員による補足説明を行う。				
【テキスト】	1. 助産学講座 3 母子の健康科学 第 6 版／我部山キヨ子(編)／医学書院／ISBN:9876240049917 2. 助産学講座 5 助産診断・技術学Ⅰ 第 6 版／堀内成子・片岡弥恵子(編)／医学書院／ISBN:9784260042260 3. 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第 6 版／我部山キヨ子・武谷雄二(編)／医学書院／ISBN9784260042086				
【参考書】	1. マタニティ診断ガイドブック第 7 版／日本助産診断実践学会／医学書院／ISBN: 9784260062404				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	統合ヘルスケア論		【科目英語名】	Comprehensive Health care	
【開講時期】	2026 年前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	藤田景子				
【担当教員】	藤田景子、永谷実穂、大和田裕美、長屋和美、形井秀一（非常勤）、毛利多恵子（非常勤）、林真一郎（非常勤）、久保浩子（非常勤）				
【DP との関連】	☐ DP1 ☒ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	周産期の助産ケアに用いる代替療法として、東洋医学・鍼灸の理論と方法、アロマセラピー、ハーブを用いた植物療法に関する原理と方法を講義、演習により学ぶ。また、妊産婦の冷えに関するケアや五感を使った助産ケアについて理解する。 【キーワード】 植物療法、アロマセラピー、東洋医学				
【授業目標】	1.植物療法、アロマセラピー、東洋医学に関するエビデンス、基礎的理論について説明できる。 2.植物療法、アロマセラピー、指圧、鍼灸を助産ケアに活かす方法を検討し説明できる。 3.ハーブ・精油の特性、効果と使用方法を理解し、妊産婦の状態に応じた選択を説明できる。 4.アロマセラピーのひとつの方法として、ハンドマッサージを実施することができる。 5.妊婦や産婦のケアとして、指圧や鍼灸の実施方法と注意点が述べられる。 6.妊産婦の冷えの妊娠分娩経過への影響やその予防法、対処方法について説明できる。 7.五感を活用した助産ケアについて、自分の考えを述べることができる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面による講義、演習 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディバード ☒B グループワーク ☐C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回：五感を使った助産ケア（永谷）：講義・演習 第 2 回：統合医療における植物療法（林）：講義 第 3 回：メディカルハーブ（植物療法）の基礎知識（林）：講義 第 4 回：アロマセラピー（芳香療法）の基礎知識（久保）(1)：講義・演習 第 5 回：アロマセラピー（芳香療法）の基礎知識（久保）(2)：講義・演習 第 6 回：女性のケアに活かすアロマセラピー（久保）：講義・演習 第 7 回：ハンドマッサージ（久保）：演習 第 8 回：周産期で用いられる東洋医学(1)（形井）：講義 第 9 回：周産期で用いられる東洋医学(2)（形井）：講義 第 10 回：周産期で用いられる東洋医学(3)（形井）：演習 第 11 回：周産期で用いられる東洋医学(4)（形井）：演習 第 12 回：妊産婦への骨盤ケアと子どもの発達を促すケア(1)（ゲストスピーカー）：講義・演習 第 13 回：妊産婦への骨盤ケアと子どもの発達を促すケア(2)（ゲストスピーカー）：講義・演習 第 14 回：妊産婦の冷えと助産ケア(1)（毛利）：講義 第 15 回：妊産婦の冷えと助産ケア(2)（毛利）：講義・演習				
【事前・事後課題】	授業にて指示する。				
【準備学習時間】	習得状況に沿って、各自で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	妊娠期助産診断技術学、助産技術学演習				
【評価方法】	東洋医学のレポート(50%)、植物療法・アロマセラピーのレポート(50%)で評価する。				
【フィードバックの方法】	内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	適宜紹介する。				
【参考書】	1. イラストと写真で学ぶ逆子の鍼灸治療 第2版/形井秀一/医歯薬出版, 2009/ISBN:978-4263242483 2. レディース鍼灸ライフサイクルに応じた女性のヘルスケア/矢野忠/医歯薬出版,2006/ ISBN:978-4263242094				

	3. 妊娠・出産・産後をケアする妊婦マッサージ/Carole Osborne 著, 形井秀一, 早乙女智子訳/医道の日本社, 2014/ ISBN: 978-4752931072 ・その他、授業の進行に合わせて適宜紹介する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	妊娠期助産診断技術学演習		【科目英語名】	Exercise in Antenatal Midwifery diagnosis and skills	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	3 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☐ 演習 ☒ 実習			【授業時間数】	45 時間
【科目責任者】	藤田景子、長屋和美				
【担当教員】	藤田景子、長屋和美、中川有加、大和田裕美				
【DP との関連】	☐ DP1 ☒ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	女性のライフサイクルの中で、特に妊娠期の全期間に焦点を当て、対象とする母子とその家族の生理的、身体的、心理社会的変化と生活への適応をウェルネスの視点からアセスメントし、正常経過の維持および逸脱予防の援助を提供できる知識と行動を養う。順調な妊娠経過と調和のとれた家族発達を促すことができるための必要な知識、技術および専門職としての態度、行動を身につけるため病院施設実習を行う。 【キーワード】 妊婦健康診査、妊娠、母子、家族、健康教育				
【授業目標】	1.妊婦経過の診断および妊婦の心理社会的側面の診断、評価から助産診断を行い、正常に経過するために必要なケアプランの立案と実施ができる。 2.妊婦各期の母子とその家族の健康状態の診査と評価から助産診断を行い、必要なケアプランの立案と実施ができる。 3.妊婦および夫や家族に必要な出産準備、親準備教育を実施できる。				
【授業展開】	【授業方法】外来実習 【アクティブラーニングを促す方法】 ☐A ディスカッション／ディベード ☐B グループワーク ☐C プレゼンテーション ☒D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 1. 産科外来に来院する妊娠初期・中期・末期の妊婦を毎回 1～2 名受持ち、実習指導者と共に妊婦健康診査を実施し、助産診断、助産計画を立案し実施する。実習期間中に、可能であれば助産学実習で継続事例となりうる1名の妊婦を決定する。 2. 当日受け持ち妊婦または継続事例の情報収集を行い、助産診断を立案後、助産師または産科医の指導の下、問診・触診・計測・内診および検査の介助・NST 装着・健康教育を実施する。 3. 実習での学びを振り返り、学内でディスカッションすることで必要な知識や技術を再考し、実施につなげられる。 4. 継続事例は、実習最終日までに継続して受け持ちが可能か否かを判断し、可能な場合は、改めて継続事例として依頼する。受け持ち不可能と判断した場合は、助産学基礎演習(準備実習)の開始時に新たに受け持ち選定を行う。 5. 実習場所: 静岡県立総合病院、静岡赤十字病院、静岡済生会総合病院				
【事前・事後課題】	事前に PBL で学習した内容の復習および課題サマ리를まとめておく。個別課題は、各授業回にて指示する。事前に作成した健康教育の指導案およびパンフレットについては臨床指導者の指導・助言をいただく。				
【準備学習時間】	妊娠期助産診断技術学での学習内容を学生個々の学習状況に応じて、各自で設定する。				
【履修条件】	妊娠期助産診断技術学の履修者のみ受講可				
【関連科目】	妊娠期助産診断技術学				
【評価方法】	妊婦健康診査実習ルーブリック評価表に基づいて評価する。				
【フィードバックの方法】	実習カンファレンスで質問を受け付ける。内容に応じて実習中もしくはカンファレンスにて別途返答する。				
【テキスト】	1. 産婦人科診療ガイドライン産科編 2026/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会(編)/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会/ISBN 未定 2.助産学講座 6 助産診断技術学Ⅱ[1]妊娠期第 6 版 医学書院/ISBN:978-4-260042-08-6				
【参考書】	周産期学、周産期助産学演習、助産診断学演習Ⅰ・Ⅱ、妊娠期・助産診断技術学で紹介したものに加え、演習の進行に合わせ、適宜紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	助産学基礎演習		【科目英語名】	Fundamental Exercise in Midwifery	
【開講時期】	2026 年度前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	3 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☐ 演習 ☒ 実習			【授業時間数】	45 時間
【科目責任者】	藤田景子				
【担当教員】	藤田景子、中川有加、大和田裕美、長屋和美				
【DP との関連】	☐ DP1 ☒ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	分娩室環境や分娩期の業務の流れを理解し、産婦の入院から退院までの一連の助産ケアや間接介助・新生児ケアを見学して、助産診断、アセスメント、ケア計画の立案、ケアの実施の一連の助産過程を展開する。また、妊娠期から産後 1 ヶ月まで受け持つ継続事例を最終決定し、妊婦や家族と信頼関係を気づきながら妊娠期のケア・保健指導を行う。さらに、周産期医療チームの中の一員としての役割を理解し、基本姿勢や態度を養うと共に、医療スタッフとよい関係を築く。 【キーワード】分娩介助、間接介助、助産ケア、継続事例				
【授業目標】	1.実習施設における周産期医療チーム成員の役割を理解し説明できる。 2.継続事例の助産過程を展開し、妊婦健康診査・保健指導が実施できる。 3.分娩目的で入院した産婦に対する分娩第 1 期から第 4 期までのケア・処置・検査を理解し説明できる。 4.分娩期の助産ケア、分娩介助、間接介助・新生児ケアを見学し、実施に向けた準備ができる。				
【授業展開】	【授業方法】 臨地実習 【アクティブラーニングを促す方法】 ☐A ディスカッション／ディバード ☐B グループワーク ☐C プレゼンテーション ☒D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 1.妊娠期から産後 1 ヶ月までの継続事例を最終決定し、健康診査・保健指導を実施する。 2.分娩室の整理整頓、器材器具の点検、器械台の準備などを行いながら、分娩室などの環境を知る。 3.分娩目的で入院した妊産婦に対する分娩第 1 期から第 4 期までの一連の助産ケアを指導助産師と共に学ぶ。 4.原則として、指導助産師が行う分娩介助を 1～2 例および間接介助・新生児ケアを 1 例見学する。 5.原則として、指導助産師が行う分娩介助 1～2 例および間接介助・新生児ケア 1 例見学後は、指導助産師の指導のもとで分娩介助および間接介助・新生児ケアを行う。 【実習概要】 実習期間：2026 年 9 月 28 日(月)～10 月 9 日(金) 8:30～16:00 臨地実習施設：静岡県立総合病院、静岡済生会総合病院、しのはら産科婦人科医院、焼津バースクリニック 詳細は、実習要項参照				
【事前・事後課題】	主体的に実習に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。個別課題は、実習にて指示する。				
【準備学習時間】	各自の技術習得状況によって、モデルを用いて、分娩介助、間接介助ができるように技術演習を行う。 助産技術学演習で作成したパンフレットを各自の実習施設で使用できるように修正して整える。 助産診断学演習Ⅰ・Ⅱで学習した内容(テキストや PBL 資料など)を見直して基礎知識の整理を行う。				
【履修条件】	助産技術学演習での分娩介助技術試験および間接介助技術試験で 80%以上の達成レベルであること。				
【関連科目】	妊娠期助産診断技術学演習、助産診断学演習Ⅰ、助産診断学演習Ⅱ、助産技術学演習、助産学実習				
【評価方法】	実習目的・目標に従った実習状況(事前学習・行動・態度を含む)70%、実習記録(内容および提出状況を含む)30%				
【フィードバックの方法】	実習カンファレンスで質問を受ける。内容に応じて実習中もしくはカンファレンスにて別途返答する。				
【テキスト】	・産婦人科診療ガイドライン産科編 2026/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会(編)/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会/ISBN 未定 ・助産学科目で使用した教科書、参考文献、配布資料				
【参考書】	適宜紹介する				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	地域助産学実習	【科目英語名】	Clinical Practice in community-based Midwifery	
【開講時期】	2026 年度前期・後期	【必修区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】 2 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☐ 演習 ☒ 実習		【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	大和田裕美			
【担当教員】	大和田裕美、藤田景子、中川有加、長屋和美			
【DP との関連】	☐ DP1 ☒ DP2 ☒ DP3 ☐ DP4			
【授業概要】	助産所での実習は、有床助産所において、開業助産師の妊娠期から子育て期の助産ケア、地域活動、助産管理の実際を学び、地域における助産師の継続ケアについて理解を深める。地域での実習は、学生主体で実習依頼、調整、計画立案を行い、女性の健康課題解決・支援のための取り組みの実際を学ぶことにより、地域の包括的支援と助産師の役割について理解を深める。 【キーワード】助産所、開業助産師、プライマリーケア、地域包括母子支援			
【授業目標】	1. 助産所の特徴、機能を説明できる。 2. 開業助産師による五感を活用した助産診断技術、コミュニケーション技術について説明できる。 3. 妊娠期から育児期の継続した助産ケアの意義と効果を説明できる。 4. 地域における、助産師と母親・行政・他職種との連携・協働について説明できる。 5. 開業助産師のケアの質管理、リスク管理について、助産管理の視点から説明できる。 6. 子育て世代の包括的支援における助産師の継続ケアについて自身の考えを述べることができる。 7. 女性の健康課題に対し、解決・支援を行う機関、団体、施設、グループ、専門家について事前調査を実施し、実習先を選択できる。 8. 選択した実習先に対し、実習依頼、実習調整、実習計画立案、実施・報告ができる。 9. 女性の健康課題に関する包括的支援と助産師の役割について、自身の考えを述べることができる。			
【授業展開】	【授業方法】臨地実習 【アクティブラーニングを促す方法】 ☐A ディスカッション／ディバード ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☒D 実習／フィールドワーク 【実習方法】【実習内容】 1. 助産所での実習は、助産所および地域における活動、関連事業に参加して実習を行う。 1) 助産所の事業、管理業務、地域における活動、関連事業について説明を受ける。 2) 開業助産師が所属する職能団体の活動について説明を受ける。 3) 開業助産師による妊娠期から育児期のケアの実際を見学する。 4) 開業助産師による地域活動、関連事業と一緒に参加する。 5) 臨地カンファレンスにて学びや気づきを共有する。 6) 地域における助産師の役割について継続ケアの視点から自身の考えを事後レポートにまとめる。 2. 地域での実習は、学生が主体的に実習先を選択し、立案した実習計画に基づいて行う。 1) 学生が自身の関心、希望に一致する実習先について調査し、候補となる実習先を選定する。 2) 選定した実習先に対し、学生が実習受け入れについて交渉し承諾を得る。 3) 承諾を得た実習先の担当者と相談し、実習日程を調整する。 4) 実習計画を立案し、計画に基づいて実習を行う。 5) 女性の健康課題に関する包括的支援と助産師の役割について学内でプレゼンテーションする。 【実習概要】 1. 実習期間 1) 助産所 2026 年 9 月 7 日(月)～11 日(金)、15 日(火)カンファレンス 2) 地域 2026 年 12 月 21 日(月)～2027 年 3 月 19 日(金)のうち 2 日間 3) 発表会 2. 実習場所 1) 助産所 いぶきの助産院、くさの助産院、渡辺助産院 2) 地域 女性の健康課題の解決、支援等を実施している機関、団体、施設、グループ (各学生が選択・交渉し決定する。)			

【事前・事後課題】	事前に助産所関連の法規、ガイドラインについて事前学習を行う(助産所)。実習先の事業に関する情報収集に基づき、実習計画書を作成する(地域)。事後レポートおよび最終プレゼンテーションに際し、文献を用いて学びを深める。		
【準備学習時間】	事前課題遂行に必要な時間を、各自で設定する。		
【履修条件】	助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可		
【関連科目】	助産学概論、助産管理論、統合ヘルスケア論、母子包括支援論、助産学統合実習、助産学実習、助産学課題研究		
【評価方法】	事前学習 20%、事後レポート 30%(助産所)、実習計画 20%、プレゼンテーション 30%(地域)についてルーブリック評価表を用いて評価する。		
【フィードバックの方法】	助産所での実習は最終カンファレンス、地域での実習はプレゼンテーション終了時フィードバックを行う。		
【テキスト】	1. 新生児学入門 第6版/仁志田博司他/医学書院/ISBN:978-4-260-05477-5 2. 母乳育児支援講座 改訂2版/水野克己・水野紀子/南山堂/ISBN:978-4-525-50332-1		
【参考書】	1. 赤ちゃん訪問に役立つ!新生児訪問実践マニュアル決定版! /大阪府助産師会(編)/大阪府助産師会 2. 母乳育児支援スタンダード 第3版/日本ラクテーションコンサルタント協会/医学書院/ISBN 978-4-260-05704-2		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	助産学課題研究		【科目英語名】	Midwifery Research	
【開講時期】	2026 年度前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	藤田景子、中川有加、永谷実穂				
【担当教員】	藤田景子、中川有加、永谷実穂、福島恭子、大和田裕美				
【DP との関連】	☒ DP1 ☐ DP2 ☒ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	修士論文の計画書完成後から、論文執筆までの一連の過程について主体的に計画を立て実施する。助産学領域における研究課題を決定し、研究課題にそって研究計画を立案し、計画遂行に関わる諸条件を整え、修士論文としてまとめることを目的とする。 【キーワード】倫理審査、データ収集、データ分析、課題研究				
【授業目標】	1.研究計画書を作成して提出後、計画書審査を受け、指摘された部分を再考して研究計画書を完成させることができる。 2.研究計画書を研究倫理審査委員会に提出して審査を受け、承認される。また、研究全過程を通して、倫理的な配慮をすることができる。 3.研究フィールドとの交渉によってフィールドを確保できる。 4.研究フィールドの責任者、および研究対象者・研究参加者に対して、研究の目的と方法を説明して協力を得ることができる。 5.データを収集できる。 6.適切な方法でデータを分析できる。 7.研究結果、考察、結論を文章化できる。 8.修士論文を提出して、修士論文審査会の準備ができる。 9.修士論文審査会で指摘されたことを踏まえて、論文を完成できる。 10.修士論文発表会に向けて準備して、発表できる。 11.学会発表および論文投稿をする学会を検討して、公表に関する計画を立案して提出できる。				
【授業展開】	【授業方法】グループあるいは個別によるゼミ形式 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディバード ☐B グループワーク☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回～第 2 回：研究計画書を研究倫理審査委員会に申請し承認を得る。 第 3 回～第 4 回：フィールド交渉 第 5 回～第 6 回：パイロットスタディ(プレインタビュー)を行う。 第 7 回～第 8 回：研究計画書に沿って研究を行う。 第 9 回～第 10 回：研究進行中、適宜、評価を行い、問題の解決や調整を行う。 第 11 回～第 15 回：データを収集する。 第 16 回～第 20 回：分析を行い、結果をまとめる。 第 21 回～第 24 回：研究課題に従って結果を考察し、論文としてまとめる(適切な時期に中間発表を行う)。 第 25 回～第 26 回：論文の推敲を繰り返し、論文として完成させる。 第 27 回～第 28 回：修士論文審査申請を行い、論文審査、最終試験を受ける。 第 29 回：修士論文の学内発表の準備を行う。 第 30 回：修士論文の投稿の準備を行う。				
【事前・事後課題】	各授業回の課題研究の進捗状況に沿って事前準備を行う。授業での学びを今後の研究に活かす。				
【準備学習時間】	主体的に学習する。時間は個人により異なる。				
【履修条件】	助産学特論、助産学応用演習の単位を修得していること。				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、助産学特論、助産学応用演習				
【評価方法】	静岡県立大学大学院看護学研究科修士学位審査に関する細則に示す修士論文の審査基準に基づいて評価する。				

【フィードバックの方法】	各授業において口頭で助言する。内容によっては後日個別に助言する。		
【テキスト】	1. パーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第 9 版-評価・統合・エビデンスの生成(2021/2023)／Grove J.R.& Gray S.K(著). 黒田裕子・逸見功・佐藤富美子(監訳)／ELSEVIER／ISBN: 978-4-86034-794-9		
【参考書】	1. ポーリット&ベック 看護研究-第 3 版(2025)／Polit,D.F., &Beck,C.T.(著). 坂下玲子(監訳),／医学書院／ISBN:978-4-260-05706-6 その他、適宜、紹介する		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	助産学概論		【科目英語名】	Introduction to Midwifery	
【開講時期】	2025 年度前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	藤田景子				
【担当教員】	藤田景子、中川有加、大和田裕美、長屋和美、中川有加、岡本美和子(非常勤)				
【DP との関連】	☐ DP1 ☒ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	助産師の理念、助産ケアの基盤となる概念、助産師の定義と助産師の役割・責務、コアコンピテンシー、助産師としての高度な職業倫理、法的基盤、助産師教育などを学び、助産師になるための基礎的知識と態度を身につける。また、日本および静岡県の習俗に関するフィールドワークを行うことを通して、地域のお産を取り巻く文化・習俗を考慮したケアの方法を検討する。 【キーワード】助産師、役割・責務、概念、倫理				
【授業目標】	1. 助産師の理念、助産師の定義、助産師の役割・責務、コアコンピテンシー、助産師の倫理綱領について説明できる。 2. 生命倫理を考える上での原理、助産倫理の主要概念、倫理的意思決定について説明できる。 3. 参加観察法を用いて、助産所助産師が行っている助産ケア場面の一部を記述できる。 4. 日本および諸外国の助産師教育の変遷、諸外国の助産師教育の実際を知り、日本と諸外国の助産師教育の違いから、これからの日本の助産師の果たすべき役割や目指すべき方向性を考えることができる。 5. 日本および静岡県におけるお産や助産に関する習俗について、フィールドワークを行い、発表できる。				
【授業展開】	【授業方法】講義、フィールドワーク 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒ A ディスカッション／ディバード ☐ B グループワーク ☒ C プレゼンテーション ☒ D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回：「私は、こんな助産師になりたい」フリーディスカッション(藤田、中川、大和田、長屋) 第2回：参加観察、フィールドワークの方法、課題提示(藤田・大和田) 第3回：助産師の理念、職業倫理、コアコンピテンシー(藤田) 第4回：助産院の助産師活動 フィールドワーク発表と討論(大和田、藤田、中川、長屋) 第5回：助産ケアの基盤となる概念(女性中心のケア、アタッチメント理論、母親役割発達理論など)(藤田) 第6回：周産期のメンタルヘルス(長屋) 第7回：助産実践と倫理(大和田) 第8回：助産の生命倫理的問題の分析(大和田) 第9回：助産師が地域で行う育児支援(岡本) 第10回：助産師が地域で行う育児支援(岡本) 第11回：お産と助産習俗 フィールドワーク(藤田、中川、大和田、長屋) 第12回：お産と助産習俗 フィールドワーク(藤田、中川、大和田、長屋) 第13回：日本の助産師教育(藤田) 第14回：諸外国の助産師教育(中川) 第15回：お産と助産習俗 発表(藤田、中川、大和田、長屋)				
【事前・事後課題】	授業前の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	学生個々の学習状況に応じて、各自で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	助産管理論、母子保健包括支援論				
【評価方法】	参加観察の記述(50%)、ループリック評価表を用いてお産と助産習俗のプレゼン評価(50%)で評価する。				
【フィードバックの方法】	内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				

【テキスト】	1.基礎助産学1助産学概論 第6版/我部山キヨ子/安達久美子編/医学書院,2022/ ISBN:978-4-260-04708-1 2.助産業務ガイドライン/公益社団法人日本助産師会編/日本助産師会出版,2024/ISBN:978-4-905023-39-5 3.妊産婦メンタルヘルスマニュアル～産後ケアへの切れ目のない支援に向けて/公益社団法人日本産婦人科医会編/中外医学社,2021/ ISBN:978-4498160224		
【参考書】	適宜紹介する		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	助産管理論	【科目英語名】	Midwifery Administration
【開講時期】	2026 年度前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択
【授業形態】	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習	【単位数】	2 単位
【授業時間数】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	福島恭子		
【担当教員】	福島恭子、藤田景子、中川有加、大和田裕美、長屋和美、福井トシ子(非常勤)、石川紀子(非常勤)、嶋澤恭子(非常勤)、小長井祥子(非常勤)		
【DP との関連】	☐ DP1 ☒ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4		
【授業概要】	助産ケア・サービス提供の場(助産所・病院)における、ケアの質保証、組織管理・経営、業務管理、リスクマネジメントについて学ぶ。また、諸外国の助産師活動、助産に関連する医療政策を学び、助産ケアが政策に反映される意義を理解する。さらに、女性・家族・地域の特性およびニーズに応じた助産師活動展開のための模擬政策提言により、政策立案のプロセスについて理解を深める。方法は、講義と演習で行い、対面と遠隔を組み合わせて実施する。 【キーワード】 組織管理、業務管理、助産所開業、助産政策		
【授業目標】	1. 助産管理、関連法規、助産師の法的責任について説明できる。 2. 助産所の助産師活動、助産所業務管理、助産所開設準備と助産所経営について説明できる。 3. 病院での助産業務管理について説明できる。 4. 諸外国の助産師活動について学び、今後の日本の助産師活動の在り方について考察できる。 5. 助産師活動と政策の関連について説明できる。 6. 助産師活動展開のための政策提言のプロセスについて説明できる。 7. 助産師活動展開のための母子保健政策に関して、プレゼンテーションできる。		
【授業展開】	【授業方法】講義、対面もしくはオンラインによるディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディバード ☒B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回：周産期の医療事故とリスクマネジメント (福島) 第 2 回：助産所の活動と助産所業務管理 (小長井) 第 3 回：助産所開設準備と助産所経営 (小長井) 第 4 回：病院での助産業務管理①(石川) 第 5 回：病院での助産業務管理②(石川) 第 6 回：助産と政策 日本の母子保健政策からみる課題の提示(藤田) 第 7 回：助産と政策 個人ワーク①(藤田、福島、中川、大和田、長屋) 第 8 回：助産と政策①(福井) 第 9 回：助産と政策②(福井) 第 10 回：諸外国の助産師活動①(嶋澤) 第 11 回：諸外国の助産師活動②(嶋澤) 第 12 回：助産と政策 個人ワーク②(福島、藤田、中川、大和田、長屋) 第 13 回：助産と政策 個人ワーク③(福島、藤田、中川、大和田、長屋) 第 14 回：助産と政策 個人ワーク④(福島、藤田、中川、大和田、長屋) 第 15 回：助産と政策 プレゼンテーション(福島、藤田、中川、大和田、長屋)		
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業事の個別課題は、各授業回にて指示する。		
【準備学習時間】	学生個々の学習状況に応じて、各自で設定する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	母子保健包括支援論、助産学基礎演習、助産学実習、地域助産学実習、助産学統合実習		
【評価方法】	助産と政策のプレゼンテーションについて、ルーブリック評価表に基づき評価する。		

【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	1.助産学講座 10 助産管理/我部山キヨ子他編/医学書院/ ISBN:978-4-260-04709-8 2.助産業務ガイドライン 2024/公益社団法人日本助産師会編/日本助産師会出版/ ISBN:978-4-905023-39-5		
【参考書】	1.助産学講座 9 地域母子保健/国際母子保健/我部山キヨ子編/医学書院/ISBN:978-4-260-05004-3 他、授業の進行に合わせて、適宜紹介する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	母子保健包括支援論		【科目英語名】	Maternal and Child Health integrated Care	
【開講時期】	2026 年度 前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	大和田裕美				
【担当教員】	大和田裕美、藤田景子、中川有加、長屋和美、福島恭子				
【DP との関連】	☐ DP1 ☒ DP2 ☒ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	日本の母子保健の現状を理解し、多職種と連携や共同しながら地域で妊娠・出産・子育て期の支援の実際、産後ケア、地域組織活動(育児サークル)、在日外国人への支援、災害時の支援などについて学ぶ。また、母子保健包括支援の目的や考え方を理解し、多職種と連携や協働しながら妊娠・出産・子育て期の女性や子ども及びその家族への切れ目ない支援の在り方や助産師の役割について考察する。 【キーワード】母子、子育て、切れ目ない支援、多職種連携				
【授業目標】	1. 日本の母子保健の現状を述べることができる。 2. 母子保健包括支援の概念、目的、その実際を述べることができる。 3. 産後ケアや育児相談など、助産師による地域での母子の支援について述べることができる。 4. 育児サークルなど、地域組織による子育て支援について述べることができる。 5. 周産期における在日外国人への支援について述べることができる。 6. 災害時の妊産婦の支援について述べることができる。 7. 静岡県現状を踏まえて、多職種と連携や協働しながら、妊娠・出産・子育て期の女性や子ども、及びその家族を切れ目なく支援することについて考察し、発表できる。				
【授業展開】	【授業方法】対面もしくはオンラインによるディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディバード ☐B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回：母子保健包括支援ガイダンス(藤田) 第2回：母子保健包括支援 ワーク(藤田) 第3回：地域での子育て支援(大和田) 第4回：地域での子育て支援 ワーク(大和田) 第5回：ハイリスク児の地域での支援(長屋) 第6回：ハイリスク児の地域での支援 ワーク(長屋) 第7回：災害と助産ケア(福島) 第8回：災害と助産ケア ワーク(福島) 第9回：静岡県における母子保健包括支援について(ゲストスピーカー) 第10回：地域における助産師活動に関する個人ワーク①(大和田、藤田、中川、長屋) 第11回：地域における助産師活動に関する個人ワーク②(大和田、藤田、中川、長屋) 第12回：地域における助産師活動に関する個人ワーク③(大和田、藤田、中川、長屋) 第13回：地域における助産師活動に関する個人ワーク④(大和田、藤田、中川、長屋) 第14回：地域における助産師活動に関する個人ワーク⑤(大和田、藤田、中川、長屋) 第15回：地域における助産師活動に関する発表(大和田、藤田、中川、長屋)				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業ごとの個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	学生個々の学習状況に応じて、各自で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	地域助産学実習				
【評価方法】	地域における助産師活動に関するプレゼンテーションについて、プレゼンテーション評価表(ルーブリック評価)に基づき評価する。				
【フィードバックの方法】	内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	1.助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第6版/我部山キヨ子編/医学書院/ ISBN:978-4-260-05004-3				

【参考書】	1. 助産師が行う 災害時支援マニュアル/公益社団法人日本助産師会/日本助産師会出版/ ISBN:978-4-905023-24-1 授業の進行に合わせて適宜紹介する		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	周産期学		【科目英語名】	Perinatal Medicine	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	藤田景子				
【担当教員】	金山尚裕(非常勤)、村越毅(非常勤)、成瀬寛夫(非常勤)、河村隆一(非常勤)、小野田亮(非常勤)				
【DP との関連】	☐ DP1 ☒ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	助産ケアや助産に必要な基礎知識である、妊婦の管理、産科の異常、分娩時出血の救急対応について学ぶとともに、胎児の成長や母子の健康状態をアセスメントするために必要な超音波診断法、胎児心拍陣痛図についての理解を深める。方法は、講義と演習で、胎児心拍陣痛図の読み方の演習と、モデルを使って会陰縫合術の演習を実際に実施する。 【キーワード】診断、治療、管理				
【授業目標】	1. 妊娠の診断、妊婦管理について説明できる。 2. 産科異常の診断と治療、分娩時の異常徴候の判断と処置について説明できる。 3. 妊婦健康診査時に用いる超音波診断、胎児心拍陣痛計について説明でき、その画像や所見から、胎児の成長や健康状態、分娩進行状況をアセスメントすることができる。 4. 周産期医療で遭遇する感染症への対応と管理について説明できる。 5. 分娩時出血の救急対応や会陰縫合術について説明できる。 6. モデルを用いて、会陰縫合術を実施できる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面による講義、演習 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション/ディバード ☐B グループワーク ☐C プレゼンテーション ☐D 実習/フィールドワーク 【授業内容】 第1回: 妊娠の生理・診断(金山) 第2回: 妊婦健診で用いる診断技術、治療(金山) 第3回: 超音波診断法を用いた診断技法(河村) 第4回: 画像診断演習(河村) 第5回: 産科異常の診断と治療(1) 急遂分娩の適応と対応を含む(村越) 第6回: 産科異常の診断と治療(2)(村越) 第7回: 胎児心拍陣痛計を用いた診断技法(河村) 第8回: 胎児心拍陣痛図の診断演習(河村) 第9回: 産科救急処置(小野田) 第10回: 分娩時出血時の救急処置(小野田) 第11回: 会陰縫合術演習(小野田) (学内演習) 第12回: 産科異常の診断と治療(3)(村越) 第13回: 産科異常の診断と治療(4)(村越) 第14回: 感染症への対応・管理(成瀬) 第15回: 母子感染症(成瀬)				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。 授業前の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	自分の学習状況に合わせて、各自で設定する。				
【履修条件】	助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可				
【関連科目】	助産診断学演習Ⅰ、助産診断学演習Ⅱ				
【評価方法】	筆記試験(100%)				
【フィードバックの方法】	内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				

【テキスト】	・産婦人科診療ガイドライン産科編 2026/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会(編)/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会/		
【参考書】	適宜紹介する		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	リプロダクティブ・ヘルス演習		【科目英語名】	Exercise in Reproductive health	
【開講時期】	2026 年度後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	中川有加、長屋和美				
【担当教員】	中川有加、長屋和美、藤田景子、大和田裕美、小野美智代(非常勤)、勝又里織(非常勤)、田村圭浩(非常勤)、長岡由紀子(非常勤)、船津雅幸(非常勤)、松浦公美(非常勤)				
【DP との関連】	☐ DP1 ☒ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念を基盤に、女性のライフサイクル各期の健康課題およびウィメンズヘルスに関する助産師の役割、機能、支援について考えるとともに、包括的性教育講座の企画、実施によりピア・サポートを実践的に学ぶ。本科目は、受胎調節実地指導員認定講習に該当する科目である。 【キーワード】セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(SRHR)、受胎調節、ピア・サポート、包括的性教育				
【授業目標】	1. SRHR の概念を理解し、性差を問わず保障されている権利について説明できる。 2. 女性のライフサイクル各期の健康課題に対する支援のあり方を説明できる。 3. 日本および世界の母子保健や性と生殖に関連する政策・施策、社会の動向に着眼し、支援に関する考えを述べられる。 4. 受胎調節法、避妊法について、女性のライフサイクルの視点での利用・活用について説明し、考えを述べられる。 5. ピアの立場で包括的性教育講座を計画し、実施・評価できる。				
【授業展開】	【授業方法】対面による講義、プレゼンテーションとディスカッション、集団指導 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディバード ☒B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回：ガイダンス、性教育の方法と課題の提示(中川、長屋、藤田、大和田) 第 2 回：セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツとウィメンズヘルスに関連する概念(中川) 第 3 回：出生前診断における看護職の役割①(松浦) 第 4 回：出生前診断における看護職の役割②(松浦) 第 5 回：月経に関わる健康課題①(長屋) 第 6 回：月経に関わる健康課題②(長屋) 第 7 回：更年期女性に対する助産師のかかわり①(中川) 第 8 回：更年期女性に対する助産師のかかわり②(中川) 第 9 回：避妊と性感染症①(船津) 避妊と性感染症②(船津) 第 10 回：避妊と性感染症②(船津) 第 11 回：助産師が行う性と性の教育①(ゲストスピーカー) 第 12 回：リプロダクティブ・ヘルスと国際活動(小野) 第 13 回：助産師が行う性と性の教育②(ゲストスピーカー) 第 14 回：避妊法・受胎調節法の実践(中川、長屋、藤田、大和田) 第 15 回：包括的性教育の実践(中川、長屋、藤田、大和田) 第 16 回：ドメスティック・バイオレンス(DV)と助産師の役割①(藤田) 第 17 回：ドメスティック・バイオレンス(DV)と助産師の役割②(藤田) 第 18 回：受胎調節指導の実践(勝又) 第 19 回：人工妊娠中絶を受けた女性に対するケアと助産師の役割(勝又) 第 20 回：不妊症検査と治療①(田村) 第 21 回：不妊症検査と治療②(田村) 第 22 回：包括的性教育模擬授業-1(中川、長屋、藤田、大和田) 第 23 回：包括的性教育模擬授業-2(中川、長屋、藤田、大和田) 第 24 回：不妊女性に対する助産師のケア①(長岡) 第 25 回：不妊女性に対する助産師のケア②(長岡) 第 26 回：包括的性教育模擬授業-3(中川、長屋、藤田、大和田) 第 27 回：包括的性教育講座 2027 年 2 月 1 日(月)5 限 (中川、長屋、藤田、大和田) 第 28 回：周産期における死別に対する助産師のケア①(ゲストスピーカー)				

	第 29 回: 周産期における死別に対する助産師のケア②(ゲストスピーカー) 第 30 回: まとめ(中川、長屋、船津)		
【事前・事後課題】	テキスト該当章にて事前学習を行う。個人課題および集団課題に、各授業回の学習内容を活用する。個人課題、集団課題の成果物提出については初回授業に提示する。		
【準備学習時間】	課題の理解、プレゼンテーション、ディスカッションに必要な時間を各自で設定する。		
【履修条件】	助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可		
【関連科目】	妊娠期助産診断技術学、助産管理論、母子保健包括支援論、地域助産学実習		
【評価方法】	筆記試験 30%、避妊法・受胎調節法プレゼンテーション 20%、包括的性教育講座 50%について、ルーブリック評価表を用いて評価する。		
【フィードバックの方法】	各授業回担当教員指定の方法にて質問を受け付ける。内容に応じて、次回授業回または掲示にて返答する。		
【テキスト】	1. 助産学講座 2 母子の基礎科学 第 6 版／我部山キヨ子他(編)／医学書院／ISBN: 9876240042048 2. 助産学講座 5 助産診断・技術学 I 第 6 版／堀内成子(編)／医学書院／ISBN: 9784260042260		
【参考書】	1. 助産師による思春期の健康教育／日本助産師会保健指導部会／日本助産師会出版／ ISBN: 978-4-905023-31-9 2. 家族計画指導の理論と実際 第 3 版／斎藤益子・木村好秀 他／医学書院／ ISBN: 978-4-260-05777-6 3. Fertility Counseling: Clinical Guide 2nd edition/Covington, S. N./Cambridge University Press		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	周産期助産学演習		【科目英語名】	Exercise in perinatal care	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	1 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	中川有加				
【担当教員】	中川有加、長屋和美、藤田景子、大和田裕美、中野玲二（非常勤）				
【DP との関連】	☐ DP1 ☒ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	新生児の胎外生活適応、成長・発達の診断およびケアに係る助産実践に必須となる、医学的知識、フィジカルイグザミネーション技術、母乳育児支援の基礎、最新の知見に基づく育児技術支援を、講義・演習により習得する。さらに、新生児蘇生法普及事業に基づく講義・演習により、NCPR「専門コース」修了認定を目指す。 【キーワード】新生児、フィジカルアセスメント、スキンケア、母乳育児支援、新生児蘇生法				
【授業目標】	1. 母乳育児支援の基本概念を理解し、環境や文化を踏まえた支援について説明できる。 2. 新生児の生理、新生児期の異常徴候、疾患、診断、治療を理解し説明できる。 3. 新生児のフィジカルイグザミネーションの目的、手順を説明できる。 4. 新生児蘇生法アルゴリズムに基づく観察、判断、処置について説明でき、演習にて実施できる。				
【授業展開】	【授業方法】対面による講義、演習 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディバード ☐B グループワーク ☐C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回：ガイダンス、新生児の生理；子宮外生活への適応①（中野） 第 2 回：新生児の生理；子宮外生活への適応②（中野） 第 3 回：母乳育児支援に関する世界の現状（長屋） 第 4 回：妊娠期から産褥期の母乳育児支援（長屋） 第 5 回：新生児の異常徴候と疾患①（中野） 第 6 回：新生児の異常徴候と疾患②（中野） 第 7 回：新生児のフィジカルイグザミネーション①（中野） 第 8 回：新生児のフィジカルイグザミネーション②（中野） 第 9 回：低出生体重児の診察（中野） 第 10 回：低出生体重児の倫理的問題（中野） 第 11 回：新生児蘇生法「専門コース」受講①（中野、ゲストインストラクター） 第 12 回：新生児蘇生法「専門コース」受講②（中野、ゲストインストラクター） 第 13 回：新生児蘇生法「専門コース」受講③（中野、ゲストインストラクター） ※ 第 11～13 回を受講し所定試験合格した者は、後日、日本周産期・新生児医学会に申請し、新生児蘇生法 A コース修了認定を受ける 第 14 回：新生児のスキンケア（長屋、ゲストスピーカー） 第 15 回：まとめ（中川、藤田、大和田、長屋、中野）				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画できるよう、第 1～10 回は看護学部既習内容の復習をして臨む。第 11～13 回は指定テキストを用いた予習を十分に行う。関連科目での実践に備え、事後学習を十分に行う。				
【準備学習時間】	既習知識の確認と復習に必要な時間を各自で設定する。				
【履修条件】	助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可				
【関連科目】	助産診断学演習Ⅰ・Ⅱ、助産診断技術学演習、助産学実習、周産期助産学実習				
【評価方法】	筆記試験 70%、新生児蘇生法のプレテスト 30%				
【フィードバックの方法】	各授業回担当教員指定の方法にて質問を受け付ける。第 1～10 回では、次回授業回または掲示にて返答する。第 11～13 回では、プレテスト結果、質問・疑問に対し授業内でフィードバックを行う。				
【テキスト】	1. 日本版救急蘇生ガイドライン 2025 に基づく新生児蘇生法テキスト 第 1 版/細野茂春/メジカルビュー社/ ISBN: 未定 2. 新生児学入門 第 6 版/仁志田博司 高橋尚人 他/医学書院/ISBN: 9784260054775				

	3. 母乳育児支援講座 改訂第2版/水野克己・水野紀子/南山堂/ISBN:9784525503321 4. 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児・乳幼児期 第6版/石井邦子・廣間武彦(編)/医学書院/ ISBN:9784260042192		
【参考書】	1. 助産学基礎テキスト 2025年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア/小林康江(編)/日本看護協会出版会/ISBN:9784818027978 2. 母乳育児支援スタンダード 第3版/日本ラクテーションコンサルタント協会/医学書院/ ISBN: 9784260057042		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	周産期助産学実習		【科目英語名】	Clinical Practice in perinatal care	
【開講時期】	2026 年度前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	1 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☐ 演習 ☒ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	中川有加				
【担当教員】	中川有加、藤田景子、大和田裕美、長屋和美				
【DP との関連】	☐ DP1 ☒ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	母乳育児支援アドバンスとして、エビデンスに基づく乳房管理法、乳房トラブルへの対処法を実践的に学ぶことに加え、周産期母子医療センターNICU/GCUにおいて、入院中の新生児・乳児の受け持ち実習を行う。 【キーワード】新生児、母乳育児支援、乳房トラブル、ハイリスク妊娠・新生児、NICU				
【授業目標】	1. 産後の母親の乳房の状況を把握し、必要時乳房マッサージが提供するために模型を用いて乳房マッサージ法が実践できる。 2. 乳房トラブルへの対処方法を理解し説明できる。 3. 妊娠期・胎児期からの経過をふまえ、ハイリスク新生児を理解できる。 4. NICUにおける児と家族へのケアの実際を見学または実践を通して学ぶ。 5. NICUの役割・機能と産科および他部門との連携を理解し、周産期における助産師の役割を考察できる。				
【授業展開】	【授業方法】対面による学内実習および臨地実習 【アクティブラーニングを促す方法】 ☐ A ディスカッション／ディバード ☐ B グループワーク ☐ C プレゼンテーション ☒ D 実習／フィールドワーク 【実習方法】【実習内容】 1. 母乳育児支援のためのマッサージ法を習得する。(中川):学内実習 2. 乳房トラブル時の対処法を実践的に学ぶ(中川):学内実習 3. NICU実習(中川、藤田、大和田、長屋) 1) 受け持ち児の出生前からの情報を得て看護過程を展開する。 2) 治療計画および看護計画に基づき、臨地実習指導者と共にケアに参加する。 3) 受け持ち児の診察、処置、検査を見学する。 4) 周産期カンファレンスや病棟カンファレンスに参加する。 5) 連携・協働する部門・職種の役割や機能について説明を受け、児や家族へのかかわりを見学する。 4. NICU実習合同カンファレンス(中川、藤田、大和田、長屋) 【実習概要】 1. 実習期間 1) 2026 年 9 月 :学内実習 2) 2027 年 2 月 15 日(月)～19 日(金)のうち 4 日間:臨地実習 2. 実習場所 1) 実習室 14302:学内実習 2) 静岡県立こども病院、静岡済生会総合病院、聖隷浜松病院:臨地実習				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参加できるよう、関連科目の既習内容の復習を十分に行う。臨地実習では、毎日学生カンファレンスを実施し、課題に対する事後学習を十分に行う。				
【準備学習時間】	臨地実習前の準備学習に、各自必要な時間を設定する。				
【履修条件】	助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可				
【関連科目】	助産診断学演習Ⅰ・Ⅱ、助産診断技術学演習、助産学実習、周産期助産学演習				
【評価方法】	NICU 実習ルーブリック評価表 (80%)、最終レポート(20%)で評価を行う。				
【フィードバックの方法】	カンファレンスにおいて、フィードバックを行う。				
【テキスト】	1. 新生児学入門 第 6 版/仁志田博司・高橋尚人・他/医学書院/ISBN:978-4260054775 2. 母乳育児支援講座 改訂第 2 版/水野克己・水野紀子/南山堂/ISBN:978-4525503321				

【参考書】	1.乳腺炎ケアガイドライン 2020/公益社団法人日本助産師会、一般社団法人日本助産学会/日本助産師会出版/ISBN:978-4-905023-30-2 2.母乳育児スタンダード第3版/NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会/ISBN:978-4-260-05704-2		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	助産診断学演習Ⅰ		【科目英語名】	Exercise in Midwifery DiagnosisⅠ	
【開講時期】	2026年度前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2単位
【授業形態】	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	藤田景子、長屋和美				
【担当教員】	長屋和美、大和田裕美、藤田景子、中川有加				
【DPとの関連】	☐ DP1 ☒ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	妊娠の診断から分娩開始直前までの助産に必要な基礎知識を学び、助産過程が展開できる能力を習得するための講義、PBL方式を用いた演習、課題サマリーにより構成されている。初回の講義でガイダンスを行い、進め方について、またPBL方式による演習を取り入れる理由や学習方法を十分に説明したうえで進めていく。 【キーワード】助産診断、妊娠期、分娩期				
【授業目標】	1. 妊娠の診断から分娩開始まで、母子が正常に経過するために必要且つ的確な助産ケアを提供するための知識を整理して資料を作成し、説明することができる。 2. 妊娠期にある女性とその家族成員に必要な地域社会の資源や制度を理解し、活用できるよう支援するための知識を整理して資料を作成し、説明することができる。 3. 事例を用いた学習を行うことで、正常妊娠経過の診断および正常からの逸脱を判断でき、アセスメントし必要な助産ケアを立案できる。 4. 妊娠経過の診断と今後の予測からアセスメントし、助産ケア計画を立案する思考過程を習得できる。 5. 分娩開始から分娩・産褥・新生児期の母子の正常な経過を支援するために、必要且つ的確な助産ケアの基盤となる知識を整理して資料を作成し、説明することができる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンラインによるディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディベート ☒B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回：Evidence-based Midwiferyに基づく助産診断、PBLの進め方とオリエンテーション(藤田) 第2回：妊娠期セッション1 再学習ポイント発表&妊娠期助産診断(長屋) 第3回：妊娠期セッション2 導入(長屋・大和田・藤田・中川) 第4回：妊娠期セッション2 発表①(長屋・大和田・藤田・中川) 第5回：妊娠期セッション2 発表②(長屋・大和田・藤田・中川) 第6回：妊娠期セッション2 再学習ポイント(長屋・大和田・藤田・中川) 第7回：妊娠期セッション2 再学習ポイント発表&妊娠期助産診断(長屋・大和田・藤田・中川) 第8回：妊娠期まとめ(長屋・大和田・藤田・中川) 第9回：分娩期セッション1 状況1 導入(大和田・藤田・長屋・中川) 第10回：分娩期セッション1 状況1 発表①(大和田・藤田・長屋・中川) 第11回：分娩期セッション1 状況1 発表②(大和田・藤田・長屋・中川) 第12回：分娩期セッション1 状況2 導入(大和田・藤田・長屋・中川) 第13回：分娩期セッション1 状況2 発表①(大和田・藤田・長屋・中川) 第14回：分娩期セッション1 状況2 発表②(大和田・藤田・長屋・中川) 第15回：分娩期セッション1 状況3 導入(大和田・藤田・長屋・中川)				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業事の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	学生個々の学習状況に応じて、各自で設定する。				
【履修条件】	助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可				
【関連科目】	妊娠期助産診断助産学、助産診断学Ⅱ、地域助産学実習、助産学基礎演習、助産学実習				
【評価方法】	資料および助産診断について、各期のPBL評価表に基づいて評価する。				

【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	1.産婦人科診療ガイドライン産科編 2026/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会(編)/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会/ISBN 未定 2.助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期/我部山キヨ子編/医学書院/ ISBN:978-4-260-04208-6 3.助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期/我部山キヨ子編/医学書院/ ISBN:978-4-260-04210-9 4.助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期/横尾京子編/医学書院/ ISBN:978-4-260-04219-2 5.助産業務ガイドライン 2024/公益社団法人日本助産師会編/日本助産師会出版/ ISBN:978-4-905023-39-5		
【参考書】	1.助産学基礎テキスト第7巻, ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア/小林康江編/日本看護協会出版会/ ISBN:978-4818029576 2.WHO 推奨 ポジティブな出産体験のための分娩期ケア/分娩期ケアガイドライン翻訳チーム/医学書院/ ISBN:978-4260041973		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	助産診断学演習Ⅱ		【科目英語名】	Exercise in Midwifery Diagnosis Ⅱ	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	3 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	45 時間
【科目責任者】	中川有加				
【担当教員】	中川有加、大和田裕美、長屋和美、藤田景子、				
【DP との関連】	☐ DP1 ☒ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	助産診断学演習Ⅰでの学習をもとに、妊娠期(分娩開始直前)から分娩・産褥・新生児期までの助産に必要な基礎知識を学び、助産過程が展開できる能力を習得するための講義、PBL 方式を用いた演習、課題サマリにより構成されている。 【キーワード】助産診断、分娩期、産褥期、新生児期				
【授業目標】	1.分娩開始から分娩・産褥・新生児期の母子の正常な経過を支援するために、必要且つ的確な助産ケアの基盤となる知識を整理し、資料を作成し、説明できる。 2.地域社会において子育てをしていく女性とその家族成員に必要な社会資源や制度を理解し、活用できるよう支援するための知識を整理し、資料を作成し、説明できる。 3.事例を用いた学習を行うことで、正常な分娩経過をアセスメントし、診断および正常からの逸脱徴候を判断でき、必要な助産ケアを立案できる。 4.産褥・新生児期の経過、地域社会での子育てを含めた今後の予測についてアセスメントし、必要な助産ケアを立案できる。				
【授業展開】	【授業方法】対面もしくはオンラインによるディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディバード ☒B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回：分娩期セッション1 状況3 発表①(大和田・長屋・中川・藤田) 第2回：分娩期セッション1 状況3 発表②(大和田・長屋・中川・藤田) 第3回：分娩期セッション1 状況4 導入(大和田・長屋・中川・藤田) 第4回：分娩期セッション1 状況4 発表①(大和田・長屋・中川・藤田) 第5回：分娩期セッション1 状況4 発表②(大和田・長屋・中川・藤田) 第6回：分娩期セッション1 状況5 導入(大和田・長屋・中川・藤田) 第7回：分娩期セッション1 状況5 発表①(大和田・長屋・中川・藤田) 第8回：分娩期セッション1 状況5 発表②(大和田・長屋・中川・藤田) 第9回：分娩期セッション1 状況5 発表③(大和田・長屋・中川・藤田) 第10回：分娩期助産診断パルトグラム(大和田・長屋・中川・藤田) 第11回：分娩期まとめ(大和田・長屋・中川・藤田) 第12回：分娩期セッション6(異常編)導入(藤田・大和田・中川・長屋) 第13回：分娩期セッション6(異常編)発表①(藤田・大和田・中川・長屋) 第14回：分娩期セッション6(異常編)発表②(藤田・大和田・中川・長屋) 第15回：分娩期助産診断(異常編)①(藤田・大和田・中川・長屋) 第16回：分娩期助産診断(異常編)②(藤田・大和田・中川・長屋) 第17回：分娩期助産診断(異常編)③(藤田・大和田・中川・長屋) 第18回：産褥・新生児期セッション1 導入(中川・大和田・長屋・藤田) 第19回：産褥・新生児期セッション1 発表①(中川・大和田・長屋・藤田) 第20回：産褥・新生児期セッション1 発表②(中川・大和田・長屋・藤田) 第21回：産褥・新生児期セッション2 導入(中川・大和田・長屋・藤田) 第19回：産褥・新生児期セッション2 発表①(中川・大和田・長屋・藤田) 第20回：産褥・新生児期セッション2 発表②(中川・大和田・長屋・藤田)				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業事の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	学生個々の学習状況に応じて、各自で設定する。				

【履修条件】	助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可		
【関連科目】	妊娠期助産診断技術学、助産診断学Ⅰ、地域助産学実習、助産学基礎演習、助産学実習		
【評価方法】	各期のプレゼンテーション評価表に基づいて評価する。		
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	1.産婦人科診療ガイドライン産科編 2026/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会(編)/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会/ 2.助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期/我部山キヨ子編/医学書院/ ISBN:978-4-260-04208-6 3.助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期/我部山キヨ子編/医学書院/ ISBN:978-4-260-04210-9 4.助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期/横尾京子編/医学書院/ ISBN:978-4-260-04219-2 5.助産業務ガイドライン 2024/公益社団法人日本助産師会編/日本助産師会出版/ ISBN:978-4-905023-39-5		
【参考書】	1.助産学基礎テキスト 2025 年版 第 7 巻, ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア/遠藤俊子編/日本看護協会出版会/978-4818027978 2.WHO 推奨 ポジティブな出産体験のための分娩期ケア/分娩期ケアガイドライン翻訳チーム/医学書院/978-4260041973		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	助産技術学演習		【科目英語名】	Exercise in Midwifery Skills	
【開講時期】	2026 年度前期・後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	3 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	90 時間
【科目責任者】	大和田裕美				
【担当教員】	大和田裕美、藤田景子、中川有加、長屋和美、中根直子（非常勤）				
【DP との関連】	☐ DP1 ☒ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	妊娠・分娩・産褥・新生児期の助産ケアについて、必要かつ適切な助産技術やケア内容を判断し実施できる能力を習得するため、科目ガイダンス後、助産所の見学実習、臨床経験豊富な教員による演習、ロールプレイング、デモンストレーション実施による演習、試験で構成されている。 妊娠・分娩・産褥・新生児期の助産ケアについて、ケア内容を判断し必要かつ適切な助産技術が実施できる基本的能力を習得する。 【キーワード】助産技術、助産ケア、分娩介助技術、健康教育、家庭訪問				
【授業目標】	1. 助産ケアに必要な技術に関して、グループ内でディスカッションし、分娩介助、間接介助のデモンストレーション、演習を積みながら基本的な助産技術を実施できる。 2. 助産診断学演習Ⅰ・Ⅱで学んだ知識をもとに、事例を用いたシミュレーションを行い、状況に応じた判断や適した助産ケアを説明できる。 3. 妊娠期助産診断技術で学んだ知識を活用し、産褥期の個別健康教育の教育計画立案、適切な媒体作成、ロールプレイングの実施、評価ができる。				
【授業展開】	【授業方法】対面もしくはオンラインによる演習 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒A ディスカッション／ディバード ☒B グループワーク ☒C プレゼンテーション ☐D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回：オリエンテーション（大和田、藤田、中川、長屋） 第 2 回：助産所見学実習、参加観察①（大和田、藤田、中川、長屋） 第 3 回：助産所見学実習、参加観察②（大和田、藤田、中川、長屋） 第 4 回：助産所見学実習、参加観察③（大和田、藤田、中川、長屋） 第 5 回：助産所見学実習、参加観察④（大和田、藤田、中川、長屋） 第 6 回：助産所見学実習、参加観察⑤（大和田、藤田、中川、長屋） 第 7 回：分娩介助デモンストレーション（学生）発表①（大和田、藤田、中川、長屋） 第 8 回：分娩介助デモンストレーション（学生）発表②（大和田、藤田、中川、長屋） 第 9 回：分娩介助デモンストレーション（教員）（大和田、藤田、中川、長屋） 第 10 回：分娩介助デモンストレーション（教員）（大和田、藤田、中川、長屋） 第 11 回：分娩介助デモンストレーション（教員）（大和田、藤田、中川、長屋） 第 12 回：分娩介助デモンストレーション技術演習（大和田、藤田、中川、長屋） 第 13 回：分娩介助デモンストレーション技術演習（大和田、藤田、中川、長屋） 第 14 回：技術演習①（大和田、藤田、中川、長屋） 第 15 回：技術演習②（大和田、藤田、中川、長屋） 第 16 回：技術演習③（大和田、藤田、中川、長屋） 第 17 回：技術演習④（大和田、藤田、中川、長屋） 第 18 回：技術演習⑤（大和田、藤田、中川、長屋） 第 19 回：分娩期助産診断発表（藤田、大和田、中川、長屋） 第 20 回：産褥期アセスメント①（藤田、中川、大和田、長屋） 第 21 回：産褥期アセスメント②（藤田、中川、大和田、長屋） 第 22 回：産褥期アセスメント③（藤田、中川、大和田、長屋） 第 23 回：産褥・新生児期助産診断発表①（藤田、中川、大和田、長屋） 第 24 回：産褥・新生児期助産診断発表②（藤田、中川、大和田、長屋） 第 25 回：産褥期個別健康教育発表（藤田、中川、大和田、長屋） 第 26 回：産褥期個別健康教育発表（藤田、中川、大和田、長屋） 第 27 回：技術演習⑦（大和田、藤田、中川、長屋） 第 28 回：技術演習⑧（大和田、藤田、中川、長屋）				

	第 29 回:技術演習⑨(大和田、藤田、中川、長屋) 第 30 回:技術演習⑩(大和田、藤田、中川、長屋) 第 31 回:技術演習⑪(大和田、藤田、中川、長屋) 第 32 回:臨床実習指導者による分娩介助デモンストレーション①(大和田、藤田、中川、長屋) 第 33 回:臨床実習指導者による分娩介助デモンストレーション②(大和田、藤田、中川、長屋) 第 34 回:分娩期シミュレーション①(大和田、藤田、中川、長屋) 第 35 回:分娩期シミュレーション②(大和田、藤田、中川、長屋) 第 36 回:分娩期シミュレーション③(大和田、藤田、中川、長屋) 第 37 回:分娩期シミュレーション④(大和田、藤田、中川、長屋) 第 38 回:技術試験①(大和田、藤田、中川、長屋) 第 39 回:技術試験②(大和田、藤田、中川、長屋) 第 40 回:技術試験③(大和田、藤田、中川、長屋) 第 41 回:家庭訪問時の助産技術の課題発表①(藤田、大和田、中川、長屋) 第 42 回:家庭訪問時の助産技術の課題発表②(藤田、大和田、中川、長屋) 第 43 回:フリースタイル分娩の理論と実際① (中根) 第 44 回:フリースタイル分娩の理論と実際② (中根) 第 45 回:フリースタイル分娩の理論と実際③ (中根)		
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業事の個別課題は、各授業回にて指示する。		
【準備学習時間】	学生個々の学習状況に応じて、各自で設定する。		
【履修条件】	助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可		
【関連科目】	妊娠期助産診断技術学、助産診断学演習Ⅰ、助産診断学演習Ⅱ		
【評価方法】	技術試験 70%、媒体作成およびロールプレイング・ディスカッションへの参加度 30%		
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	1.助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期/我部山キヨ子編/医学書院/ ISBN:978-4-260-04208-6 2.助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期/我部山キヨ子・藤井知行編/医学書院/ISBN:978-4-260-04210-9 3.助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期/石井邦子・廣間武彦編/医学書院/ISBN:978-4-260-04219-2 4.赤ちゃん訪問に役立つ!新生児訪問実践マニュアル決定版! /大阪府助産師会編/一般社団法人大阪府助産師会		
【参考書】	1.助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第 2 版/我部山キヨ子・大石時子/医学書院/ISBN :978-4-260-03548-4 2.助産学基礎テキスト 2026 年版 第 7 巻, ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア/小林康江編/日本看護協会出版会/ISBN 978-4-8180-2957-6		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	助産学実習		【科目英語名】	Clinical Practice in Midwifery	
【開講時期】	2026 年後期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	9 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☐ 演習 ☒ 実習			【授業時間数】	405 時間
【科目責任者】	藤田景子				
【担当教員】	中川有加、大和田裕美、長屋和美				
【DP との関連】	☐ DP1 ☒ DP2 ☒ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	妊娠、分娩、産褥期における女性と胎児・新生児とその家族の生理的変化、心理社会的変化、適応状況をアセスメントし、正常からの逸脱を予防し、より安全で自然な分娩経過を促すための助産ケアを立案し提供する。また、女性や家族と共に、満足感の得られる出産体験となるような助産ケアを考える。継続事例 1 例、分娩介助 10 例程度、新生児処置数例の経験を通して、判断力、技術、態度が徐々に成長することを目指す。 【キーワード】助産診断、助産技術、分娩介助、新生児蘇生法、継続ケア、健康教育、家庭訪問、ケアリング				
【授業目標】	1. 産婦の入院から分娩後 2 時間まで受け持ち、助産過程を展開し、助産ケアを実施できる。 2. 正常からの逸脱徴候の早期発見に努め、助産、助産ケアの担い手としての助産師の責任と責務を自覚して行動できる。 3. 継続事例に対して、妊娠中から産後 1 か月健診までの母子およびその家族に対して、個別的な助産ケアを立案して実施できる。 4. 分娩介助は、10 例程度実施でき、分娩介助評価表において 80% のレベルに達することができる。 5. 新生児処置は、数例実施でき、新生児処置評価表において 80% のレベルに達することができる。				
【授業展開】	【授業方法】臨地実習 【アクティブラーニングを促す方法】 ☐A ディスカッション／ディバード ☐B グループワーク ☐C プレゼンテーション ☒D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 1. 原則としてオンコール体制で実習する。 2. 妊娠期から産後・生後 1 か月までの継続事例 1 例を受け持ち、助産過程を展開しケアを実施する。 1) 継続事例の妊婦健診は優先して行う。 2) 継続事例の入院期間中(分娩期、産褥期・新生児期)は他分娩介助を中断し、最優先でケアを行う。 3) 入院期間中のケア、産後健診、家庭訪問については、実習インターバル中も行う。 3. 継続事例以外の産婦に対し、入院から分娩後 2 時間までの分娩介助と母子への助産ケアを行う。 4. 新生児処置は、NCPR アルゴリズム 2025 に従って実施する。 5. 臨地カンファレンスを学生主体で企画、実施する。 6. 分娩介助について、自己評価および実習指導者による他者評価を行う。 7. 学内合同カンファレンスで学びの共有をはかる。 【実習概要】 1. 実習期間 2026 年 10 月 13 日～11 月 13 日、11 月 24 日～12 月 18 日 2. 実習場所 静岡県立総合病院、静岡済生会総合病院、しのはら産科婦人科医院、焼津バースクリニック				
【事前・事後課題】	実習要項を事前に示す。事前に関連科目の既習内容について事前学習を行う。分娩介助・新生児処置技術については、自主練習期間を設ける。分娩介助評価において明らかとなった課題について、技術の復習を行う。				
【準備学習時間】	習得状況に応じて、各自で設定する。				
【履修条件】	助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可。妊娠期助産診断技術学、妊娠期助産診断技術学演習、周産期助産学演習、助産診断学演習Ⅰ・Ⅱの単位をすべて修得済みであり、助産技術学演習の分娩介助および新生児ケア技術試験において 80% に到達している。				
【関連科目】	妊娠期助産診断技術学、妊娠期助産診断技術学演習、周産期学、周産期助産学演習、助産診断学演習Ⅰ・Ⅱ、助産技術学演習、助産学基礎演習				
【評価方法】	実習総合評価表を用いて評価する(100%)。				
【フィードバックの方法】	カンファレンス時に指導助産師よりフィードバックを受ける。産後のバースレビュー実施により、産婦からフィードバックを受ける。				

【テキスト】	1. 産婦人科診療ガイドライン産科編 2026/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会(編)/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会/ISBN 未定 2. エビデンスに基づく助産ガイドラインー妊娠期・分娩期・産褥期 2024/日本助産学会ガイドライン委員会/日本助産学会/ISSN:0917-6357 (オンライン)		
【参考書】	1. 助産業務ガイドライン 2024/公益社団法人日本助産師会編/日本助産師会出版/ISBN:978-4-905023-39-5 そのほか、助産学科目で使用したテキスト、参考書		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	助産学統合実習		【科目英語名】	Comprehensive Practice in Midwifery	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☐ 講義 ☐ 演習 ☒ 実習			【授業時間数】	90 時間
【科目責任者】	中川有加				
【担当教員】	中川有加、藤田景子、大和田裕美、長屋和美				
【DP との関連】	☐ DP1 ☒ DP2 ☒ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	1 年次の講義、演習、分娩介助 10 例程度を含む各実習での学びを統合し、助産所において、妊産婦・新生児・家族に対し、妊娠期から継続した助産ケアを計画立案・実施・評価により、自律した助産活動について主体的かつ実践的に学ぶ。実習内容は、妊娠中期頃から一組の母児を継続して受け持ち、妊娠期各期の健康診査・健康教育、分娩介助、産褥・新生児期の健康診査・健康教育、家庭訪問および 1 か月健診を実施する。 【キーワード】助産所、開業助産師、プライマリーケア、地域包括母子支援				
【授業目標】	1. 継続事例の妊婦健康診査において、妊婦や家族との信頼関係を深め、分娩準備状況やパースプランの確認などを行い、分娩に向けた助産計画を立案し、健康教育を実施できる。 2. 継続事例の妊婦の分娩目的での入院から分娩後 2 時間までを通した分娩介助、助産ケアを提供できる。 3. 継続事例の産褥・新生児期ケア、家庭訪問を含む 1 か月健診までの助産計画を立案し、ケアを実施できる。 4. 継続事例の妊娠期から産後 1 か月健診までの助産ケアを振り返り評価できる。 5. 地域や実習施設の特徴を踏まえながら助産師の役割・責務を理解し、助産ケアチームのメンバーとして協働する態度を身につけることができる。 6. 助産学生として、指導助産師や教員との連絡、調整を自ら行い、自律した態度で実習を行うことができる。				
【授業展開】	【授業方法】臨地実習 【アクティブラーニングを促す方法】 ☐ A ディスカッション／ディバード ☐ B グループワーク ☐ C プレゼンテーション ☒ D 実習／フィールドワーク 【実習方法】【実習内容】 1. 1 年次の講義、演習、実習での学びをふまえ、実習目標を設定し、実習計画を立案する。 2. 指導助産師と相談しながら主体的に行動計画を立案する。 3. 助産所または自宅分娩の介助演習、分娩直接介助・間接介助見学を行う。 4. 妊娠中期から産後・生後 1 か月までの継続事例 1 例を受け持ち、助産過程を展開し、ケアを実施する。 5. 継続事例の健診スケジュールに合わせて実習を行う。 6. オンコール体制で分娩の直接介助を行う。 7. 母子の健康状態、ニーズに応じた産褥期・新生児期ケアを行う。 8. カンファレンス、パースレビュー、評価表・助産師との振り返りにより、実習評価を実施する。 9. 事後レポートで実習での学びを統合する。 【実習概要】 1. 実習期間 2026 年 4 月～9 月 2. 実習場所 いぶきの助産院、おはな助産院、くさの助産院、助産院こうのとりのり、渡辺助産院、のあ助産院				
【事前・事後課題】	事前に助産所関連の法規、ガイドラインについて事前学習を行う。フリースタイル分娩について動画で学習する。事後レポート作成時は文献を用いて自己のケアを振り返りながら学びを深める。				
【準備学習時間】	分娩介助法、新生児蘇生法の復習、実習計画立案に必要な時間を、各自で設定する。				
【履修条件】	助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可、助産学実習および地域助産学実習の単位修得済み、実習の目標・実習計画について施設長・教員の下承が得られている。				
【関連科目】	助産学概論・助産管理論・統合ヘルスケア論・母子保健包括支援論・地域助産学実習・助産学実習				
【評価方法】	実習目的・目標に従った実習内容(事前学習・行動・態度を含む)や実習記録について(90%)、事後レポート(10%)について、助産学統合実習ルーブリック評価表、レポートルーブリック評価表を用いて評価する。				
【フィードバックの方法】	カンファレンス時に指導助産師よりフィードバックを受ける。産褥期のパースレビュー実施により、継続事例からフィードバックを受ける。				
【テキスト】	エビデンスに基づく助産ガイドラインー妊娠期・分娩期・産褥期 2020/日本助産学会ガイドライン委員会/日本助産学会/ISSN:0917-6357				